平　成　２９年　度
事　業　報　告　書

《理念》

共生　協働　自律

社会福祉法人　大館市社会福祉事業団

目次

平成 29 年度　大館市社会福祉事業団　本部　事業報告 1

平成 29 年度　大館市養護老人ホーム成章園　事業報告 11

平成 29 年度　大館市特別養護老人ホームつくし苑　事業報告 26

平成 29 年度　大館市デイサービスセンター大滝　事業報告 45

平成 29 年度　大館市社会福祉事業団ﾎｰﾑﾍﾙﾊﾟｰｽﾃｰｼｮﾝ　事業報告 51

平成 29 年度　指定居宅介護支援事業所おおたき　事業報告 55

平成 29 年度　大館市地域包括支援センターおおたき　事業報告 59

平成 29 年度　大館市ケアハウスほうおう　事業報告 68

平成 29 年度　大館市立老人福祉センター　事業報告 79

平成 29 年度　大館市ふれあいセンターやまびこ　事業報告 83

平成 29 年度　年間事業報告（成章保育ルーム森のおうち） 86

平成 29 年度　大館市へき地保育所　事業報告 89

平成 29 年度　年間事業報告（二井田保育所） 91

平成 29 年度　年間事業報告（真中保育所） 94

平成 29 年度　年間事業報告（下川沿保育所） 96

平成 29 年度　年間事業報告（沼館保育所） 98

平成 29 年度　年間事業報告（花岡保育所） 100

平成 29 年度　年間事業報告（矢立保育所） 103

平成 29 年度　年間事業報告（長木保育所） 105

平成 29 年度　大館市社会福祉事業団　本部　事業報告

平成 29 年度は法人設立 20 周年を迎え、式典をはじめ様々な記念事業を実施し、節目の年としてこれまでの軌跡を振り返るとともに、関係機関や地域の方々に感謝を伝える機会となった。

記念事業の実施にあたり、それぞれの事業において関わりのあった関係者の協力により大きな失敗もなく計画どおり実施できたことが、担当した職員にとっても貴重な経験となり、次の節目に向けて気持ちを新たにするとともに、法人の発展の一躍を担う意識づけとなった。

大館市との契約により開始した在宅高齢者への配食サービス事業は、当初心配された利用者の確保について開始後まもなく一定数に達し、大きなトラブルもなく通年でのサービス提供を滞りなく実施できた。今後は、地域住民にサービス内容を周知する機会をこまめに持ちながら、在宅高齢者の生活支援の一つとして地域に普及するように努めたい。

介護及び保育現場の人材の確保が厳しさをますなか離職防止と定着のために、臨時職員の正職員登用と新採用を継続的に行ってきたことで正職員の比率が 8 割を超える状況となった。そのため、必然的に支出全体に占める人件費の割合が増加の一途を辿り、経営状況に大きな影響を与える状態となった。

年ごとの収入の増加が予測できないことから、支出管理を精査し経費の削減に努めたが、事業所単位での取り組みでは大きな成果が見出せなかったため、今後は法人全体で組織的な見直しの体制を構築することが急務と捉えている。

経営状況の安定を図るための改善に取り組みながら、地域福祉の向上に率先して関わり、法人の存在意義を高め自立してゆけるよう、これまでの考え方や方法にとらわれない柔軟な視点で法人運営を推進していくことを誓い、事業報告とする。

平成 30 年 3 月 31 日

社会福祉法人　大館市社会福祉事業団
理事長　　長 岐　利 堅

1.　部会・委員会活動報告

【人財育成システム検討部会】

平成 29 年度は、委員会で目標として設定した「キャリアアップモデルの改訂」について、キャリアパス（キャリア形成の道筋）の制定に至る結果となった。また、各キャリアステップに応じた研修もほぼ計画どおり実施することができた。特に、新採用職員を対象にした研修は、年々プログラム等の見直しを重ね改善することができたと評価している。そして指導者層に対し、外部講師（株式会社インソース）を招き OJT（On the job training＝職務を通じての教育訓練）に関する研修を実施することができた。研修を通じて見えた課題には、ひとつには指導を行う層と指導を受ける層との距離感、また OJT トレーナーである指導者層の OJT における計画性の不足などが挙げられている。

キャリアパスを制定する検討過程においては、指導職以上の者の自己研鑽や日ごとの仕事ぶりが、将来を目指す職員のロールモデルとして重要となるとの意見もあった。また、かねてより取り組んでいる力量評価とフィードバック面接についても、キャリアパスの制定に伴い評価しやすさが増すとの意見のほか、力量評価そのものの仕組についてもキャリアパスに応じた見直しが必要との意見もあり、今後の改善に向けて課題も見えつつある。

平成 30 年度については、キャリアパスの運用と定着を図り、職員が働きがいを持って業務に就いていけるよう継続的に人財育成の仕組の改善を図る予定である。

（1）研修実績

<table>
<tr><th></th><th>ステップ0
（経験0～1年）</th><th>ステップ1
（経験1～2年）</th><th>ステップ2
（経験2～3年）</th><th>ステップ3
（経験4～5年）</th><th>ステップ4
（6年目～）</th><th>ステップ4
（指導者層）</th></tr>
<tr><td>4</td><td rowspan="6">新採用職員
研修</td><td colspan="5">ISO9001　部門目標活動報告会</td></tr>
<tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>内部監査員研
修※対象者無</td></tr>
<tr><td>6</td><td>コミュニケー
ション</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>7</td><td></td><td>スーパー
ビジョン</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>8</td><td></td><td></td><td>リーダーシップ</td><td></td><td>OJT
※外部講師</td></tr>
<tr><td>9</td><td></td><td></td><td></td><td>原因分析と再発
防止（4 回）</td><td></td></tr>
<tr><td>10</td><td colspan="6">腰痛予防講座</td></tr>
<tr><td>11</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>記念講演
（ワークライフ</td></tr>
</table>

	ステップ0 （経験0～1年）	ステップ1 （経験1～2年）	ステップ2 （経験2～3年）	ステップ3 （経験4～5年）	ステップ4 （6年目～）	ステップ4 （指導者層）
						バランス） ※外部講師
12	力量評価の 概要説明					力量評価者 研修

【記念事業検討部会】

法人として初めて行う記念事業だったが、事業計画にもとづき、部会内で担当の割り振りをし、こまめに連絡確認を行いながら、全ての記念事業を滞りなく実施することができた。

全ての取り組みが初めての機会であったため、事業全体の具体的なイメージができずに足踏みをする場面もみられたが、法人本部ともこまめに相談確認しながら進めたことで、大きなミスもなく実施できた。

多くの職員がいずれかの記念事業に関わったことが、法人のこれまでの歩みを認識するとともに、法人職員として自覚を促し、職種を超えて協力連携する機会となった。

- 記念事業

① 記念植樹

平成 29 年 6 月 7 日つくし苑、ほうおう、やまびこの敷地内計3ヶ所に槐（えんじゅ）の木を植樹

② 記念誌発行

広報ほほえみ第 33 号を記念誌として編集し、2,000 部発行

③ 社章デザイン化

平成 11 年に決定した社章を設計事務所に依頼し、正式にデザイン化

④ 法人団旗作成

4 枚作成(成章園、つくし苑、ほうおう、やまびこに配布)

⑤ 記念式典

平成 29 年 11 月 15 日　プラザ杉の子　にて開催

参加者:招待者 123 名、職員 47 名　　計 170 名

⑥ 貢献者表彰

永年にわたりボランティア等の協力があった 3 個人 4 団体へ記念式典において感謝状及び記念品を贈呈

⑦ 記念講演

平成 29 年 11 月 15 日　プラザ杉の子

（テーマ）「ワークライフ　バランス」

（講師）㈱佐々木常夫ﾏﾈｰｼﾞﾒﾝﾄ・ﾘｻｰﾁ　代表　佐々木常夫氏

⑧　記念品配布

20 周年記念名入れボールペンを作成し、役職員に配布

⑨　ポスター作成

職員 2 名が作成した 20 周年記念ポスターを全事業所に掲示し、内外に PR

- 記念行事

各施設ならびに事業所の年間行事において、なつまつりや地域交流祭等を、20周年記念行事として内容をバージョンアップして開催し、施設利用者や地域住民等にこれまでの感謝を伝えた。

【感染症予防対策委員会】

感染症予防対策委員会では、法人各事業所の感染症発生の状況や対策の共有を図るとともに、法人内の事業所が協働し、感染症の拡大防止ならびに予防活動の推進に努めてきた。

定例会議における各事業所からの感染症発生報告のほか、感染症発生時に速やかに委員会への報告がなされ、その情報が迅速に各事業所へ発信される共有のしくみが確立されている。

近年はインフルエンザや感染性胃腸炎等の季節性感染症に限らず、集団風邪の発生など通年での感染対策が必要な状況となっていることから、高齢者や児童、職員の安全と健康を保持していくためにも、これまで以上に法人内の連携と結束を強め、感染症予防に努めていく。

【衛生委員会】

衛生委員会では、職員の健康増進と心身の健康維持を重点目標に掲げ、新たに職員健診後の保健師による健康相談日の設置や「事業団健康マイレージ活動」による健康活動の推進に取り組んだ。

平成 29 年度は全国健康保険協会の健康経営宣言にエントリーし、職員の健康を重要な経営資源と捉え、法人として職員の健康増進に積極的に取り組む姿勢を示してきた。また、年間の活動計画立案にあたっては、衛生管理者や特定保健指導員など各委員の役割と責任を明確にし、職員に対し効果的な働きかけができるよう努めた。

職員の有所見者の二次健診については、前年度にフォローアップ体制を構築して以降、年々職員の受診率は向上してきており、体制整備前に 59％であった受診率は平成 29 年度は 84％まで向上した。健診での有所見段階での二次健診の勧奨や保健師や特定保健指導員による保健指導は、職員の生活習慣の見直しや早期治療につながる有効

な機会であることから、今後も継続的に取り組んでいく。

平成 29 年度に、新たに実施した「健康マイレージ活動」は、健康活動の実施によりその活動時間に応じてポイントを付加する仕組みであり、本活動への取り組みにより職員の健康への意識を高め、日々の継続的な健康活動の実践につなげられることを目的としている。初年度は活動への参加率が全体の 4 割程度であったことから、今後は職員への普及活動を強化し参加率の向上を目指していく。

また、メンタル不調や腰痛は、働く職員の長期療養や離職につながる可能性があることから、ストレスチェックの集団分析結果に基づく職場の環境改善や事業所単位での腰痛予防活動を推進し、受検や研修開催に留まることなく、その後も継続的な実践活動につなげられるよう取り組んだ。

受動喫煙やハラスメント対策など本委員会が取り組む活動は多々あるが、福祉人材の確保が厳しさを増す中、在職する職員が心身の健康を維持し、長く働ける職場環境を整備していけるよう努めていく。

【災害・防犯対策検討部会】

年度途中より災害防犯対策検討部会と部会名称を変更し、新たに防犯対策も検討することになった。災害関連では、法人内の備蓄品リストが完成し各部署間での共有が可能となった。また、保育所への駆けつけ訓練を新たに実施し、有事の際に保育所との連携も確認することができた。この駆けつけ訓練は今後も継続して行っていくこととしている。防犯関連では警察官を講師に招き、部会のメンバーを対象として防犯訓練を実施した。また、警察官に施設内の視察を行ってもらい、防犯対策上の不安箇所の確認もしてもらった。今後は防犯訓練の対象を各事業所の指導者層まで拡大し、防犯対策の向上を図りたい。

【広報委員会】

(1) 事業団広報誌「ほほえみ」と、事業団職員向け広報誌「なごみ」の発行をするとともに、事業団 20 周年記念誌の作成に取り組んだ。記念誌の制作は、法人設立以来、初の取り組みであり、仕上がりがイメージできないまま、原稿を依頼し、写真を収集することとなり、不安なスタートであった。記念誌作成の過程では、ゲラ刷りの原稿を受け取る度に、校正箇所が見つかり、施設別の集合写真に写る職員数が少ない事業所もあり、写真撮影の仕方に課題も残った。これらの反省点は、30 周年、40 周年と続く記念誌制作に役立てて行きたい。

(2) 職員向け広報「なごみ」の紙面充実を図るため、職員へのアンケート調査を実施した。アンケート結果を基に、文字のポイント数を大きくし、読みやすい字体を採用し、さらに紙面構成を変えた「なごみ」を1月に発行した。その結果、「以前より読みやすくなった。」と感想を貰っている。また、フルカラーで印刷し、全職員へ配布していたものを止め、各事

業所に1部ずつ配布することで、コスト削減にも努めた。今後も、アンケート結果を参考に、少しでも読みやすく、職員が発行を待ち望むような紙面づくりをして行きたい。

(3)ホームページは、トップページの写真を定期的に更新するとともに、施設、事業所の紹介、広報誌、事業計画書、事業報告書、決算書類等の開示や職員採用情報、事業団に関する様々な情報を掲載し、情報開示に取り組んだが、タイムリーな情報提供に関しては課題を残した。平成 30 年度では、ホームページを定期的に最新情報に掲載し、また随時で掲載する情報があれば随時で、リアルタイムに更新する仕組み作りに取組んで行く予定としている。

2. 役員会の状況

(1) 理事会・評議員会

開催年月日	会　場	出席数	付 議 事 項 等	顛末
平成 29 年 5 月 31 日 定時理事会	大館市特別養護老人ホームつくし苑　会議室	理事 6 名 （委任1名）	・事業団資金運用規程の制定案 ・事業団経理規程の全部を改正する規程案 ・事業団事務決裁規の一部を改正する規則案 ・事業団定款施行細則の廃止案 ・平成 28 年度事業団事業報告書 ・平成 28 年度決算報告書 ・定時評議員会の召集案 ・法人役員候補者の選任案 ・平成 29 年度事業団第一次資金収支補正予算案	承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認
平成 29 年 6 月 21 日 定時評議員会	大館市特別養護老人ホームつくし苑　会議室	評議員 7 名 （欠席 1 名）	・平成 28 年度決算報告書（監事監査報告） ・社会福祉充実残額算定結果 ・法人役員の選任案 ・事業団役員等の給与報酬等の支給額案	承認 承認 承認 承認
平成 29 年 6 月 21 日 理事会	大館市特別養護老人ホームつくし苑　会議室	理事 7 名	・理事長及び副理事長の選任案	承認

開催年月日	会　場	出席数	付 議 事 項 等	顛末
平成 29 年 11 月 28 日 理事会	大館市特別養護老人ホームつくし苑　会議室	理事 7 名	・事業団個人情報保護規則の全部を改正する規則案 ・事業団育児介護休業等に関する規則の一部を改正する規則案 ・平成 29 年度第二次資金収支補正予算案	承認 承認 承認
平成 30 年 3 月 27 日 理事会	大館市特別養護老人ホームつくし苑　会議室	理事 7 名	・平成 29 年度第三次資金収支補正予算案 ・平成 30 年度事業団事業計画書案 ・平成 30 年度事業団資金収支予算案 (追加議案) ・評議員選任解任委員会の招集案 ・評議員選任候補者の推薦案 ・施設長及び管理者の選任案 ・事業団福祉サービス苦情解決第三者委員の選任案	承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認

(2) 監事・監査会

開催年月日	会　場	出席数	付 議 事 項 等	顛末
平成 29 年 5 月 17 日	大館市特別養護老人ホーム つくし苑会議室	3 名	・平成 28 年度事業の執行及び収支決算について	承認

3. 職員の状況

平成 30 年 3 月 31 日現在

※兼務・委託は実数に含まず

施設名	本部	成章園	成章園特定	成章園ヘルパー	つくし苑(SS)	ほうおう	ほうおう特定	デイサービス	地域包括支援	居宅支援事業	事業団ヘルパー	やまびこ	へき地保育所	老福センター	合計
定員		80	(80)		120	50	(20)	35							
事業開始日	H10.1.1	H10.4.1	H19.1.1	H19.1.1	H11.2.1	H11.2.1	H24.4.1	H11.4.12	H11.4.1	H12.4.1	H11.4.2	H11.4.1	H22.4.1	H15.4.1	
事局長・施設長（管理者）	兼 1	1	兼 1	兼 1	1	1	兼 1	兼 1	兼 1	兼 1	兼 1	兼 1	1		4
主幹・次長・施設長補佐	兼 3	1			2					1					4
事業責任者								兼 1	兼 1		兼 1			兼 1	0
医師		嘱 1			嘱 1							嘱 2	嘱 12		嘱 16
事務員	兼 3	2	兼 1	兼 1	4	1	兼 1	兼 1	兼 1	兼 1	兼 1	兼 1	兼 1	兼 1	7
パート事務員					3							兼 1	1		4
生活相談員 社会福祉士		2 兼 1	兼 1		4	2	兼 2	3	2						13
介護支援専門員（計画作成担当）			兼 2		兼 3		兼 2		1 兼 1	7					8
看護職員		3			8		1	1 兼 1	1						14
機能訓練指導員					2		兼 1	2 兼 1							4
介護（支援）員		6 兼 9	6 兼 10		53	7	兼 9	11 兼 2							83
パート介護員（介護補助）			3 兼 2		1										4
サービス提供責任者				2							3				5
ヘルパー				3 兼 11							2				5
パートヘルパー				2											2

施設名	本部	成章園	成章園特定	成章園ヘルパー	つくし苑(SS)	ほうおう	ほうおう特定	デイサービス	地域包括支援	居宅支援事業	事業団ヘルパー	やまびこ	へき地保育所	老福センター	合計
定員		80	(80)		120	50	(20)	35							
事業開始日	H10.1.1	H10.4.1	H19.1.1	H19.1.1	H11.2.1	H11.2.1	H24.4.1	H11.4.12	H11.4.1	H12.4.1	H11.4.2	H11.4.1	H22.4.1	H15.4.1	
登録ヘルパー											3				3
管理栄養士		1			1	1									3
調理員		委託			委託	委託		委託							0
技能員					2 兼1							兼1	1		3
ﾊﾟｰﾄ技能員					3	2 兼1		3							8
保育士												3 兼2	33		36
保育補助 (パート)												1 (常勤)	22		23
レク指導員												1			1
児童厚生員												1 兼2			1
合　計	**0**	**16**	**9**	**7**	**84**	**14**	**1**	**20**	**4**	**8**	**8**	**6**	**58**	**0**	**235**
うち産休・育休・病休	0	1	0	0	4	0	0	1	0	0	0	0	1	0	7

◎職員内訳

	H27.3.31	H28.3.31	H29.3.31	H30.3.31
正　職　員	119	131	139	150
臨時職員(パート再掲)	116　(36	104　(36)	91　(42)	82　(40)
嘱託職員(嘱託医師再掲)	18　(14)	18　(14)	16　(14)	19　(16)
合　　計	**253　(53)**	**253　(50)**	**246　(56)**	**251　(56)**

4.　苦情・事故の状況

項目 ＼ 事業所名	成章園	つくし苑	ケアほうおう	デイサービス	地域包括支援	居宅介護支援	事業団ヘルパー	ふれ・森のおうち	へき地保育所	老福センター	合計	前年度実績	前年差
苦情・相談・要望	6	18	8	15	0	2	0	0	2	24	75	87	−12
利用者への対応	0	9	2	11	0	1	0	0	2	0	25	21	4
家族等への対応	1	8	0	2	0	1	0	0	0	0	12	11	1
利用者間ﾄﾗﾌﾞﾙ	1	1	1	0	0	0	0	0	0	2	5	9	−4
制度・設備・環境	3	0	1	0	0	0	0	0	0	9	13	25	−12
その他	1	0	4	2	0	0	0	0	0	13	20	21	−1.
（申出人再掲）													
本　人	4	3	8	9	0	0	0	0	0	24	48	56	−8
家　族	2	15	0	6	0	2	0	0	2	0	27	29	−2
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	−2
事故・怪我	27	80	18	19	0	1	0	2	4	0	151	209	−58
骨　折	6	6	5	1	0	0	0	0	0	0	18	24	−6
骨折以外の大きな怪我	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	3	7	−4
軽　傷	15	28	8	8	0	0	0	1	3	0	63	75	−12
その他	5	44	5	10	0	1	0	1	1	0	67	103	−36
（原因別再掲）													
転倒・衝突	15	9	12	12	0	0	0	2	2	0	52	75	−23
転落・ずり落ち	4	8	0	0	0	0	0	0	0	0	12	8	4
誤嚥・異食	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	3	4	−1
その他	7	61	6	7	0	1	0	0	2	0	84	122	−38
【介護によるもの再掲】	3	42	4	8	0	0	0	0	0	0	57	65	−8
ヒヤリハット	96	272	49	42	0	0	7	0	0	0	466	523	−57
不適合サービス	4	207	15	43	4	16	12	0	3	0	304	338	−34
合　計	133	577	90	119	4	19	19	2	9	24	996	1157	−161
前年度実績	317	532	85	121	13	25	19	1	6	38	1157		
前年　差	−184	45	5	−2	−9	−6	0	1	3	−14	−161		

平成 29 年度　大館市養護老人ホーム成章園　事業報告

平成 29 年度も、健康寿命の延伸を意識した自立支援活動を重点的に援助を展開してきた。福寿会（利用者自治組織）で施設への要望や希望を話し合い、おひさまクラブの活動を中心に、利用者が自主的に活動する機会の提供に努めた。少しずつではあるが活動の輪が広がり、自分たちで育てた野菜等を自分たちで調理し、食べることの喜びを得て次の活動へと繋がっている。

自立支援を推進するにあたり、根本となる ADL（日常生活動作）の維持・向上にも努めた。個浴槽での入浴に加え、自分で出来る方には下膳を実施してもらうなど、生活リハビリ活動を中心に取組んだ。今後も利用者自らができることを促していく。

こうした自立支援活動を進める一方、利用者の高齢化への対応も重要課題の一つと捉え活動した。過去 5 年間の利用者の平均年齢は 86.8 歳であったが、29 年度末では平均年齢は 85.8 歳となっている。しかし、90 歳代の方は 23 名となり入居者全体の 36.5%を占めることとなった。また、過去 10 年間の平均退所者数が 10 名に対し、平成 28 年度及び 29 年度は 16 名ずつの退所者数と過去の平均退所者数を上回る結果となった。平成 29 年度は「急変時や終末期における意志確認書」を制定し、緊急時や終末期の延命処置の有無や、菩提寺の確認などを整理し、利用者自身の意志を明確にした。

さらに、身元引受人にケアプラン策定会議への参加を呼びかけた。平成 29 年度の参加率は 19.2%であり、参加率そのものは高いものではなかったが、新規利用者の家族の参加率は高く、取り組みを継続し参加率の向上と利用者に対する支援の希望の把握に努めていく。ケアプラン策定会議へ参加できなかった家族には、会議終了後の結果について電話等で報告し、文書だけでは伝えきれない情報伝達のよい機会となっている。

平成 30 年度は、特定施設サービスについて外部サービス利用型から一般型への転換を予定している。一般型へ転換することにより、これまで以上にその人に必要なサービスを包括的に提供できる仕組みとなるため、これまでに比べて、きめ細かなサービスの提供ができる見込みである。なお、一般型への転換に際しては利用者の中に混乱の無いようにスムーズな移行に努める。

利用者の高齢化、ドメスティックバイオレンス（DV）などによる措置入所など、養護老人ホームを取り巻く環境も大きく変化してきているが、実際に入居している利用者の心に寄り添うサービスの提供に努めること誓い、事業報告とする。

平成 30 年 3 月 31 日

大館市養護老人ホーム成章園
施設長　成田　真紀子

1. 部門別事業報告

【相談部門】

平成 29 年度はご家族への連絡・報告の強化を図るべく、ケアプラン策定会議への参加の呼びかけ、および欠席時の現状報告を実施した。ケアプラン策定会議への出席件数は全体の 2 割に満たなかったものの、出席できなかったご家族へは、現在の生活の様子について報告し、リスク説明なども行うことができた。また、出席の可否についてはある程度の傾向が見えたため、今後もケアプラン策定会議へ出席してもらえるような働きかけを行い、情報共有していけるように対応を継続する。

【支援部門】

平成 29 年度はおひさまクラブの活動を通し、利用者の得意な作業に対して職員が指導を受けながら畑作業をすることで、活動・生活の意欲向上に取り組んだ。ある程度の活動計画を立て、利用者の指示やアドバイスを受けながら一緒に作業をするという形で、生活意欲を引き出す活動を行い、一定の成果を上げることが出来た。

また、収穫した物を調理して皆で食べることにより、施設内での喜びとなり、利用者の参加者が増加する結果にもつながった。

個別外出の機会は多くとれなかったが、施設内で利用者同士や、職員共に楽しむ機会を作り、生活意欲を引き出す活動にとなった。今後もおひさまクラブの活動を通して、利用者との関わり、利用者が主体となった活動への取り組みのきっかけになれるように、職員の関わりも増やしていく。

また、平成 28 年度の部門目標の流れから、引き続き居室環境の整備に力を入れ、今年度は居室内で管理している排泄用品の置き場所を決めて、居室内が乱雑にならないように安全環境の整備を進めることができた。

【看護部門】

平成 29 年度は、感染症対策委員会の活動目標である「うがいと手洗いの励行」に伴い、大館保健所の手洗い検証機器（手洗いくん）を用いて、年 2 回の検証を行う予定で、感染予防対策に繋げることを部門目標に掲げて活動してきた。感染症対策委員会内での話し合いの中では、1 回目の検証結果で洗い残し易い部位や手洗い手技の改善するべき点が明確となり、12 月に行う予定だった 2 回目の検証は行う必要は無いとの意見が多数を占めた。議論の結果、2 回目の検証は行わないこととなった。

検証によって、手洗いの洗い残しが生じ易い箇所、手洗い手技の改善するべき点が職員全体に周知される機会となったのは、感染予防対策の側面からは有意義なものになった。

【栄養部門】

平成 28 年度に引き続き労災病院の歯科衛生士訪問指導に入ってもらい、自立した利用者への口腔ケア指導や歯科受診への依頼、口腔ケアの意識付けを行った。

嚥下状態が低下した利用者への取り組みとして、「普通のお粥が食べたい」と希望した利用者へ個別に噛む意識付けを促す言葉掛け、舌の運動や顔面マッサージ、おやつでの咀嚼訓練を生活の中に取り入れたことでおかゆ提供へと進められた。同時に、口腔内環境が変化したことで意思表示力が向上し個別外出へとつながった。また、歯科衛生士訪問指導時に、嚥下機能が低下している利用者の相談をしたことで、労災病院歯科受診時に口腔リハビリへ紹介してもらい嚥下機能の維持を目標に取り組んだ。対象となる利用者一人ひとりにに合ったリハビリメニューを多職種で検討し平成 30 年度から個別リハビリを開始することとなっている。病院とも連携して利用者が美味しく食べる前提となる口腔内環境を整えられるよう継続して取り組む。

利用者の楽しみの一つでもある食事・おやつについて、調理体験などを通して職員と利用者が一緒に楽しく関わる時間を作ることができた。おひさまクラブで収穫した野菜を使って調理をすることで季節を感じ、調理する機会が増えたことは、利用者が主体となった自発的行動から生活意欲向上に繋がっていくきっかけとなった。また平成 28 年度に引き続きバイキング食を月２回実施し好評を得ている。利用者から次にこれを食べたいという言葉が聞かれる事も多く、今後も調理参加の行事やイベントを継続していく。

一方、平成 29 年度は窒息事故が発生し、利用者が安全においしく食事を摂れるよう、食事形態の見直しを図る必要がある。各部門と連携・協力しながら一人ひとりに合わせた食事提供と食環境の整備に努めていく。

【事務部門】

平成 29 年度は、「平成 29 年度成章園会計の資金収支不足額をできるだけなくす」という目標のもと、以下の実施事項を掲げ、決算収支不足額が当初予算資金収支不足額▲4,696 千円を下回ることを目指して活動を展開した。

① 予算に計上していないものについては、原則購入を認めない。また予算計上しているものについても購入数を再度精査し、必要分のみの購入とする。

② 1万円以上の消耗品等の購入にあたっては、原則3社以上の業者より見積書を徴し、見積もり合わせを実施したうえで購入業者を選定する。

③ 当園の収入の増減に大きく係わる特定施設介護保険収入の予算・実績対比を運営委員会にて報告し、収入増に結び付けるためヘルパー稼働率の向上に向けた提言や新規契約の提案等を積極的に行っていく。

④ 報告に当たっては、4 半期(3 か月)ごとの報告とする。

その結果、平成 29 年度決算ベースでの資金収支差額が、2,488 千円のプラスであったことから、上記活動を通して不足額を発生させずに余剰金を生み出せたことは、大きな成果であったといえる。

ただ平成 30 年度においても予算ベースでは資金収支不足額の発生が見込まれていることから、今後も上記の取り組みを継続して行いながら、健全な資金収支管理に努めていきたい。

2. 利用者状況報告

集計期間 平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日

集計日 平成 30 年 3 月 31 日現在

(1) 年齢別・性別の状況(単位:人)

年齢 / 性別	～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～94	95～99	100～	計
男	0	1	0	2	3	2	1	0	0	**9**
女	0	3	1	5	12	11	11	11	0	**54**
計	0	4	1	7	15	13	12	11	0	**63**
平均男(81.9) 女(86.5) 全体(85.8) 最高(99) 最低(66)										

(2) 在苑期間の状況(単位:人)

期間 / 性別	1 年未満	1 年以上 3 年未満	3 年以上 5 年未満	5 年以上 10 年未満	10 年以上 15 年未満	15 年以上 20 年未満	20 年以上 25 年未満	25 年以上	計
男	2	2	3	1	1	0	0	0	**9**
女	13	9	10	13	3	5	1	0	**54**
計	15	11	13	14	4	5	1	0	**63**
平均 男(4 年 1 月)、女(5 年 7 月) 最高 男(10 年 11 月)、女(23 年 7 月)全体 (5 年 4 月)									

(3) 入退所の状況(単位:人)

		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
新規入所者	男	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	**2**
	女	0	1	1	1	1	0	0	0	3	2	3	2	**14**
退所者	男	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	**1**
	女	2	0	3	1	0	1	2	0	2	4	0	0	**15**
(死亡者)		1	1	1	0	0	1	2	0	2	3	0	0	**11**

（4）介護度別の状況（単位：人）

要介護度	未認定	支援1	支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計
男	5	0	0	2	1	0	1	0	9
女	22	3	3	4	11	2	8	1	54
計	27	3	3	6	12	2	9	1	63

（5）短期宿泊事業　利用状況（単位：日）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	23	0	23
女	30	34	9	0	14	6	10	0	4	15	0	0	122
計	30	34	9	0	14	6	10	0	4	15	23	0	145

3. 事業実績管理関係

月日	管理関係	月日	行事関係
4.1 4.24 4.27	辞令交付式・仕事始め式(つくし苑) 浄化槽合併処理施設保守点検 定期清掃(床リノリウム)	4.14・18・27 4.5 4.10 4.12 4.13 4.23～27 4.25	喫茶 秋田県知事選挙不在者投票 歯科衛生士訪問 体重測定 福寿会 お花見散歩 定例会
5.8 5.15 5.16 5.17 5.22 5.25 5.25 5.29 5.31 5.31	給油・暖房用真空式温水機漏洩テスト 貯水槽清掃 災害ネットワーク幹事会 法人監事監査会 電気設備点検 ISO内部監査員会議 定期清掃(床リノリウム) 浄化槽合併処理施設保守点検 理事会 害虫駆除	5.1・11・17・25・31 5.2 5.15 5.15 5.15 5.22 5.30 5.30	喫茶 お花見昼食会 体重測定 利用者健康診断 歯科衛生士訪問 なべっこ昼食会 定例会 健康教室

月日	管理関係	月日	行事関係
6.1	給排水設備保守点検	6.7・15・29	喫茶
6.1	製造所等定期点検（地下タンク）	6.7	事業団創立 20 周年記念植樹
6.5	消火栓配管改修工事	6.8	福寿会
6.5	浄化槽法定検査	6.12	体重測定
6.12・13・15・18	ガラス・床ワックス清掃	6.12	歯科衛生士訪問
		6.17	地域交流会
6.19～26	消火栓配管改修工事	6.27	定例会
6.19	ボイラー設備保守点検	6.27	栄養教室
6.21	評議員会・理事会	6.29	老人クラブ連合会寄付
6.23	浄化槽合併処理施設保守点検		
6.27	成章園 ISO 内部監査		
6.27	苦情第三者委員報告会		
6.29	定期清掃(床リノリウム)		
6.30	地下油槽保守点検		
7.3	電気設備点検	7.1	大館男声合唱団訪問演奏会
7.3	特定給食施設等指導監査	7.5・14・19	喫茶
7.3～4	職員健康診断	7.6	体重測定
7.18	食器洗浄機定期点検	7.6	成章小学校 4 年生校外学習
7.20	計量器定期検査	7.10	歯科衛生士訪問
7.21	浄化槽合併処理施設保守点検	7.24	避難訓練
7.24	災害支援ネットワーク避難訓練	7.25	定例会
7.25	ボランティアフェスティバル会議	7.25	健康教室
7.27	定期清掃(床リノリウム)	7.27	にぎやか音楽会
		7.31	白百合ホーム児童交流会
8.3	施設内ワックス清掃	8.2・7・16・30	喫茶
8.12	消防設備保守点検	8.3	福寿会
8.21	上水道検針メーター交換工事	8.5	つくし苑夏祭り見学
8.25	エアコンフィルター清掃	8.7	体重測定
8.25	浄化槽合併処理施設保守点検	8.7	夏まつり前敷地内清掃
8.28～29	ISO 更新審査	8.10	夏まつり
8.28	定期清掃(床リノリウム)	8.14	歯科衛生士訪問
		8.21	お盆（二十日盆）法要
		8.29	定例会
9.2	食器洗浄機本体基盤交換・操作基盤交換	9.4	体重測定
9.7	浄化槽汲取り・清掃作業・ポンプ取替工事	9.6・12・20・26	喫茶
9.11	ボイラー設備保守点検	9.10	神明社祭典見学
9.13	介助用トイレ・ナースコール移設工事	9.11	歯科衛生士訪問
9.20～10.4	温泉埋設配管修繕	9.14	敬老会
9.25	浄化槽合併処理施設保守点検	9.15	十二所地区祭典（天鳴太鼓他鑑賞）

月日	管理関係	月日	行事関係
9.25～26 9.27 9.27 9.28	秋田大学 5 年生　福祉施設実習 流し配管洗浄作業 グリストラップ清掃 定期清掃(床リノリウム)	9.26	定例会
10.13 10.23 10.27 10.27 10.31	洗米器水漏れ修理 県北地区　タウンミーティング 定期清掃(床リノリウム) 浄化槽合併処理施設保守点検 グリストラップ清掃	10.4･13･18･26 10.5 10.10 10.12 10.16 10.16 10.17 10.23 10.30 10.30	喫茶 利用者健診 歯科衛生士訪問 福寿会 秋のお出かけ（外食） たんぽ会 衆議院不在者投票 秋のお出かけ（十和田湖） 秋のお出かけ（買物） 定例会
11.7 11.8 11.15 11.23～25 11.24 11.28 11.30	電気設備点検 センター脇トイレ　ナースコール交換修理 事業団創立 20 周年記念式典 施設内ワックス清掃・ガラス清掃 浄化槽合併処理施設保守点検 グリストラップ清掃 定期清掃(床リノリウム)	11.1･7･17･21･29 11.2 11.9 11.13 11.14 11.19 11.20 11.28 11.28	喫茶 体重測定 インフルエンザ予防接種 歯科衛生士訪問 にぎやか音楽会 避難訓練 お楽しみ昼食会 定例会 栄養教室
12.4～31 12.8 12.20 12.22 12.25 12.26 12.27 12.28 12.28	顧客満足度調査 厨房設備保守点検 厨房コンプレッサー修理 浄化槽合併処理施設保守点検 ボイラー保守点検、貯湯槽清掃 グリストラップ清掃 ボイラー室内部品交換作業 定期清掃（床リノリウム） 仕事納め式	12.4 12.4･11･19･27 12.14 12.14 12.25 12.25	体重測定 喫茶 森のおうち訪問 福寿会 歯科衛生士訪問 定例会

月日	管理関係	月日	行事関係
1.4 1.10～12 1.15 1.15 1.19 1.22・29 1.23 1.23 1.30	仕事始め式 火災報知器と消防自動通報装置連動化工事 温泉給湯管漏水修理 FF ストーブ設置工事 浄化槽合併処理施設保守点検 ボイラー室ポンプ漏水修理 換気扇清掃 電気設備点検 グリストラップ清掃	1.3・10・17・25・31 1.4 1.15 1.22 1.29	喫茶 体重測定 歯科衛生士訪問 新年会 定例会
2.1 2.11 2.19 2.22 2.27	定期清掃(床リノリウム 消防設備保守点検 浄化槽合併処理施設保守点検 定期清掃(床リノリウム) グリストラップ清掃	2.7・14・22・27 2.5 2.8 2.10 2.13 2.14 2.27 2.27	喫茶 節分豆まき 福寿会 アメッコ市外出 歯科衛生士訪問 体重測定 定例会 健康教室
3.12 3.13 3.16 3.19 3.23 3.28 3.29	排水清掃 水質検査 浄化槽合併処理施設保守点検 ボイラー設備保守点検 厨房レンジフード清掃 浄化槽清掃 定期清掃(床リノリウム)	3.2 3.5 3.7・14・20・27 3.9 3.22 3.24	ひな祭り 体重測定 喫茶 歯科衛生士訪問 念仏数珠廻し 定例会

4. 研修実施状況

（1） 内部研修 ※法人合同研修含む

月 日	研修内容	対 象	担当職員
4.20・27	園内研修（身体拘束・虐待・認知症）	介護員	介護主任
4.26	法人研修（ISO 活動報告会）	全職員	人財育成部会
5.22	園内研修（口腔ケア）	全職員	管理栄養士
5.25	内部監査員養成研修	対象者	MR
6.9・19	園内研修（感染症予防）	全職員	看護師
7.3	法人研修（入浴）	介護員	外部講師
7.20	法人研修（スーパービジョン）	ステップ 2（2～4 年）	人財育成部会
7.28、8・21	園内研修（緊急対応・応急処置）	全職員	大館消防署

月　日	研修内容	対　象	担当職員
8.25	法人研修(リーダーシップ)	ステップ 3(4～6 年)	人財育成部会
8.30	法人研修(OJT)	リーダー層	人財育成部会
9.1	自立支援	全職員	外部講師
9.5･22 10.3	法人研修(根本原因と体系的な是正処置)	ステップ 4(6 年～)	人財育成部会
10.19･20･ 26	法人研修(腰痛予防)	全職員	衛生部会

（2） 外部研修

番号	期　間	研 修 名	場　所	参 加 職 員
1	4.21	県北地区老人福祉施設連絡協議会総会	北秋田市	施設長　成田　真紀子
2	6.8～9	福祉保健施設･事業者等職員新任研修	秋田市	介護員　小松　安優美
3	6.20	秋田県栄養士会県北地区研修会	北秋田市	管理栄養士　滝沢　紀子
4	8.31	特定給食施設等関係者研修会	北秋田市	管理栄養士　滝沢　紀子
5	9.4～5	福祉保健施設･事業者等職員中堅研修Ⅰ	秋田市	介護員　木村　すず
6	10.5～6	秋田県北地区老人福祉施設長研修会	青森市	施設長　成田　真紀子
7	10.6～7	第 62 回栄養指導技術研修会･学術集会	秋田市	管理栄養士　滝沢　紀子
8	10.27	施設給食担当職員研修	秋田市	管理栄養士　滝沢　紀子
9	10.30～31	秋田県北地区老人福祉施設･地域包括･在宅介護職員研修会	大館市	係長　山内　和市 介護員　稗貫　菜々花
10	10.31～ 11.1	養護老人ホーム合同職員研修会	大潟村	施設長　成田　真紀子 主任支援員　小畑　廷洋 生活相談員　多賀谷　瑞枝
11	12.6	大館保健所管内給食施設関係者等研修会	大館市	管理栄養士　滝沢　紀子
12	12.22	秋田県広域災害福祉支援ネットワークセミナー	秋田市	施設長補佐　大坂　研一
13	2.24	能代山本地区老人福祉施設連絡協議会職員研修会	能代市	管理栄養士　滝沢　紀子
14	3.2	エルダー･メンター研修	北秋田市	主任支援員　小畑　廷洋

5. ISO9001 活動報告

（１） 成章園　相談部門

【部門目標】　利用者家族（身元引受人）への連絡を強化する事で入所者の現状を共有し、事故等発生時に訴えられるリスクを低減する。

【設定理由】

養護老人ホームは家族によるドメスティックバイオレンス（DV）、家族がいないなど家族との関係が希薄な入所者が多く、「死んだ時だけ連絡をくれ」という方もいる。しかし、関係が希薄だからと言って有事の際に苦情や訴訟にならないとの保証はない。関係が希薄な入所者が多いからこそ施設側から働きかけていく事が必要である。

【実施内容】

①ケアプラン策定会議（特定契約者年 2 回、一般入所者年 1 回）への身元引受人の出席の呼びかけを行った。（ただし、近隣市町村に在住の身元引受人のみとした。）

②ケアプラン策定会議を通じ、入所者の現状の共有を行った。

③ケアプラン策定会議に出席できない方へは、会議終了後に電話などで現状報告を行った。

※入所者との関係性が良くない方や緊急時のみの連絡と指定されているケース等は除く。

【効果の確認】

呼びかけ開始月の 6 月から 3 月末までのケアプラン策定会議開催件数 83 件に対し、身元引受人の出席累計 16 件（13 家族）。内、4 件は新規入所者家族であった。

ご家族へ向けた顧客満足度調査は実施しておらず、家族がどのように感じているかについては評価できないが、ケアプラン策定会議に出席してもらうことや、出席できなかったご家族へ会議終了後に近況報告やケアプラン内容の周知を行うことにより、入所者の生活状況を定期的に伝える機会となり、リスク説明も合わせて行う事ができた。

【まとめ】

会議参加の呼びかけにて「出席してみるか」と言う気持ちになっているようであり、新規入所者の家族においては「出席するもの」と捉えているようである。そのため、今後も参加の呼びかけを行う事で出席率は伸びるものと推測される。

面会に来るご家族も限られている中、会議に参加してもらう事で面会につながり、リスクマネジメントも踏まえての近況報告や緊急時の連絡先の再確認ができる機会になっており、

今後も入所者の現状を共有し、事故発生時に訴えられるリスクを低減するためにも対応を継続していきたい。

（２） 成章園　支援部門

【部門目標】　活動主役が利用者になる企画や関わりを持つ

【設定理由】

自立支援の取り組みから、利用者が主体（指導者）になって職員に指導しながら日常生活の中で生活意欲を見出す取り組みが出来る事を目指し、おひさまクラブの活動と、参加利用者の増員を目標に設定した。

【活動前の確認事項として】

畑作業や、植える作物について、利用者の誰を主体として活動していくかを確認した。また、中心となる職員も確認した。今年度は高橋リーダーが軸になり、男性職員が中心となって活動して行くことにした。作付していく物の順番、場所、収穫、収穫物の使用方法（及び調理）等を計画的に考え、昨年度と変更する部分としては、利用者が室内で作業出来る場所と、作物を取り入れる事にした。

【実施状況】

4 月から順次、作物の種まきや畑の準備、種や肥料の買い出しを行った。
都度利用者から、アドバイスや指示をもらいながら行ない、場合によっては、買い物に同行してもらう等の活動を行った。
大量に収穫にされた、じゃがいも、枝豆、大根などは利用者 7.8 名の参加、職員にも参加を促し収穫を楽しんだ。
摂れたてを簡単な調理で頂いた事もあり、利用者大勢が喜んで食べる姿があった。

また秋には、平成 28 年度から行なっているタンポ会を開催し、収穫したネギを使用した。こちらも複数の利用者が収穫や、室内での皮むきに参加してもらい、タンポ会で食する事が出来て好評だった。タンポ会には、畑や耕耘機を貸してくれた柴田商店ご夫妻や、介護の技術指導でアドバイス頂いていた青山先生にも参加して頂き、好評を得た。

【効果の確認】

活動する前の話し合いで、「利用者が室内で作業出来る場所の確保」と、「収穫への参加」を取り入れるとし、利用者の参加を増やすことが出来た。前年度の参加者数を確認していないので比較はできないが、車椅子の利用者も容易に活動に参加出来る場面が増え、良い傾向だった。

今年度の活動内容がベースになり、今後の展開と比較できるように活動計画や、参加利

用者、職員とデータを全て残すことができて良かった。

【まとめ】

利用者主体の活動に取り組み、利用者が自分の生活の一部としていた農作業で、職員に指示を出して貰いながらの活動だった。利用者自身が計画的にできない部分もあり、職員が関わりを多く持ち指示をもらいながらの活動だった。天候に左右され、業務の合間をぬってのおひさまクラブの活動は、容易ではなかったが、利用者の参加、収穫の楽しみ、食べる喜びを分かち合え、参加利用者が増えた事でその喜びも以前より大きくなったと感じた。

今後も活動を継続するにあたり、同じ規模で活動するには、職員の参加を増やしていく必要もある。クラブ活動が利用者の生活意欲を引き出す関わりの一つになることの理解を深めながら、取り組む必要がある。

（３） 成章園　看護部門

【部門目標】　「手洗いくん（手洗い効果検証機器）」による手洗い効果の確認

【設定理由】

確実な手洗い手技の実施は、感染予防対策に於いて非常に重要な位置付けにあり、効果の検証によって手洗い手技の修正、見直しを図ることが可能になる。また、感染予防策に対してコンプライアンスの意識向上に繋がる。

【取組の手順】

① 大館保健所から「手洗いくん」を借用（1 週間）する。
② 借用期間を全職員に周知し、期間内に各自 2 回の検証を行う。
③ 検証後、両手（手背・手掌）のイラストが印刷されている専用用紙に、洗い残しが生じた箇所を職員各自でチェックを行う。
④ 看護師（感染症対策委員長）が 1 回目と 2 回目の検証結果を各職員に周知する。

【効果の確認】

検証の結果、前年度と今年度の手洗いの検証結果に大きな変化はなく、手指末端や指間、手背や手掌に洗い残しが多い傾向にあることが分かった。職員の手洗いの精度に大きな違いはなかったものの、出退勤時及び外出時に手洗いを実施する職員は多くなっている。また、利用者による通院などの外出時の手洗いも、確実に実施するようになったなどの効果があった。

【まとめ】

「手洗いくん」を用いた検証によって、普段行っている手洗い手技の注意点が明確になった。不十分な手洗い手技は接触感染のリスクを高めることは言うまでもなく、今回の検証によって手洗い手技の修正、見直し、再周知が職員の意識向上につながる結果となったことは、感染予防対策において非常に重要な取り組みであった。

（４） 成章園　栄養部門

【部門目標】

口腔機能の維持の為に歯科医師、歯科衛生士と連携を図る活動に取り組む

【設定理由】

・最後まで経口摂取で食事を摂り、美味しく、食べる楽しみを持っていく。
・自分の歯を良好な状態で保つために、歯科衛生士訪問時に確認、指示を仰ぐ。

【実施手順】

① 歯科衛生士訪問について労災病院と調整し、毎月第二月曜日とした。
② 歯科衛生士訪問前に栄養委員会内で対象利用者様 10 名を検討する
③ 歯科衛生士による利用者への指導を実施（事前に利用者様には指導の了解を確認する）。実施内容はケース記録へ残す。
④ 個人の目標設定をして「訪問歯科指導に関する計画書」を作成し全職種へ決裁し共有する。
⑤ 目標が達成された方は報告書を作成し終了とする。

【効果の確認】

自立した利用者へは、主に歯みがきや義歯洗浄の指導、必要に応じて受診依頼を行った。職員での言葉掛けを行うことにより意識付けできた利用者もおり口腔内環境が改善した。1 日 1 回義歯をすすぐ程度しか行っていなかった利用者も、義歯の洗浄の仕方（歯みがきの仕方）や毎食後洗浄する事の大切さを何度も伝える事で口腔ケアの頻度を自発的に増やすことができた。専門職が指導・助言することで、受診に応じてくれる利用者もいた。また、自立した利用者の口腔内の確認、使用している口腔ケア用品について初めて知る機会を得て、職員と利用者との関わりを持つことができた。

嚥下機能の低下した利用者への取り組みとして主に 2 件。「普通のおかゆが食べたい」と希望された方へ歯科衛生士に口腔内の確認をしていきながら個別に噛む意識付けを促す言葉掛け、舌の運動や顔面マッサージ、おやつでの咀嚼訓練を生活の中に取り入れた事でおかゆ提供へと進められたと同時に、口腔内環境が変化したことで意思表示力が向上し個別外出へとつながった。また、食べることが好きな利用者で、嚥下機能が低下し口腔内の溜め込みや食事時間がかかり、食事量が減少した事について歯科衛生士へ相談

をしたことにより、労災歯科受診し義歯調整を実施、その後労災病院の言語聴覚士による週２回の口腔リハビリへの受診とつながり、利用者の食べる意欲を維持できるよう、施設内での個別リハビリの検討へと多職種での取り組みに展開している。

【まとめ】

自立した利用者の口腔ケアに関しては、職員でも把握できない状況だったが、専門職の関与により、職員も口腔内の問題を理解でき、利用者にとってはロの中をきれいにすることの重要性を考える機会となった。また、嚥下機能の低下した利用者については、多くの職員が関わることで、嚥下機能の維持を目標に取り組むことができたケースもあった。今後も他の利用者へ水平的に展開できるよう勧めていきたい。また繰り返し口腔ケアの大切さを伝えていきたい。

（５） 成章園　事務部門

【部門目標】　平成 29 年度成章園会計の資金収支不足額をできるだけなくす

【設定の理由】

平成 28 年度成章園会計の決算では、6,241 千円の資金収支不足額が生じたため、平成 28 年度末時点での当期末支払資金残高は 44,612 千円に減少した。今年度においても当初予算ベースで 4,696 千円の収支不足額が見込まれているため、慢性的な資金収支不足状態に陥らないようにするためにも、上記目標を設定し、適切な資金収支管理を実施したいと考えたため。

【実施事項】

① 予算に計上していないものについては原則購入を認めない。また予算計上しているものについても、購入数を再度精査し必要分のみの購入とする。
② １万円以上の消耗品等の購入にあたっては、原則３社以上の業者より見積書を徴し、見積もり合わせを実施したうえで購入業者を選定する。
③ 当園の収入の増減に大きく係わる特定施設介護保険収入の予算・実績対比を運営委員会にて報告し、収入増に結び付けるためヘルパー稼働率の向上に向けた提言や新規契約の提案等を積極的に行っていく。
④ 報告に当たっては、4 半期（3 か月）ごとの報告とする。

【効果の確認】

活動に取り組んだ結果、平成 29 年度決算資金収支額は 2,488 千円のプラスとなり、当初予算資金収支不足額▲4,696 千円より 7,184 千円支出を抑制することが出来た。しかし今年度は収支不足額の発生を少しでも抑えるため、修繕積立金を 2,200

千円、備品購入積立金を600千円それぞれ取崩して活動資金に充てていたことから、積立金取崩額を含めなかった場合の決算資金収支差額は、▲312千円の赤字に陥っていたといえる。ただ、今年度は特定介護サービス利用料収入が大幅減になったものの、支出においても年度途中の職員退職者の補充がなかったことによる人件費の抑制や、利用者減による事業費支出実績も予算を下回る形となったため、結果的にこれらの収支の減が、今年度の決算収支不足額の増大にはさほど影響しない形となったことから、上記の取り組みは収支不足額の減少に大きな効果があったといえる。

【まとめ】

当園の収入の増減に大きく寄与する特定介護サービス利用料収入については、ここ数年利用者数の減少により収入が落ち込んでいるが、平成30年度途中からは特定介護サービスの事業形態を、これまでの外部型からより高収入が見込める一般型に転化することを予定しているため、今後は収入増が見込まれる。ただ支出についても、昇給による人件費の増額や、新年度からの各種委託業務費の増額、単価が高値で推移している燃料費等の増額が見込まれていることから、各種支出抑制のための抜本的な見直しは避けられない状況にある。

今後の安定的な事業運営を目指すため、法人としても給与体系等の見直しを行うことにしているが、施設としても今回の取り組み実施事項を継続し、新年度以降も収支不足経営に陥ることがないよう適切な資金収支管理に努めたい。

平成 29 年度　大館市特別養護老人ホームつくし苑　事業報告

施設経営が厳しさを増す中、つくし苑においても安定的経営基盤の確保は重要課題であり、今年度は医務の業務改革による時間外業務の削減や事務による消耗品の管理体制の見直しに取り組み、今後の経費節減につながる基盤を整備することができた。特に医務の棟配置体制の整備により、看護職員の時間外勤務を半減できたことは大きな成果であった。

また、ベッド稼動については、年度当初に通常時を上回る退所者が生じ、ベッド調整が追いつかない状況にあったが、その後はショートステイの空床利用の促進に努め、平成 28 年度に比べ稼動率は向上した。

業務の効率化や仕組みの改善など着手すべき課題は多々あるが、現状の施設の課題を施設職員と共に共有し、顧客サービスの向上と健全な施設経営を目指していきたい。

近年、特養の重度化が言われる中、当苑の入所者の平均介護度は 4.1 と年々低下してきている。しかし、認知症高齢者の異食や徘徊に係る常時見守りや看取り件数の増加、機能低下による誤嚥や転倒リスクへの対応など、働く職員の業務負担は増大してきており、これまで以上に各部門の専門性と多職種間の連携が求められている。

当苑では、今年度も施設内研修や各職種で構成される委員会活動による専門性の向上、看取りやケースカンファレンス等によるチームアプローチの検討など、様々な機会を捉え職種間の連携に努めてきた。認知症対応については、事務職員を含め施設全体でケア内容を共有し、利用者に混乱をきたすことのないよう対応の統一を図ったことにより、施設内での習慣行動と居場所の獲得につなげることができた。

介護職員の夜間の長時間労働の解消を図るため、5 月より 8 時間夜勤体制のプロジェクトチームを設置し、主任・棟リーダーを中心に具体的な検討を重ねてきたが、その実現には不規則勤務者を一定数確保する必要があり、現状の職員配置では実現が難しいとの結論に至っている。8 時間夜勤体制の実現は、夜間勤務の負荷を軽減し、ある程度の年齢になっても介護職として長く働ける職場環境を整備するものであることから、施設として法人への働きかけを行いながら、実現に向け継続的に取り組んでいく。

業務の効率化や仕組みの改善など着手すべき課題は多々あるが、現状の施設の課題を施設職員と共に共有し、顧客サービスの向上と健全な施設経営を目指していきたい。

平成 30 年 3 月 31 日

大館市特別養護老人ホームつくし苑
施設長　鎌 田　俊

1．部門別報告

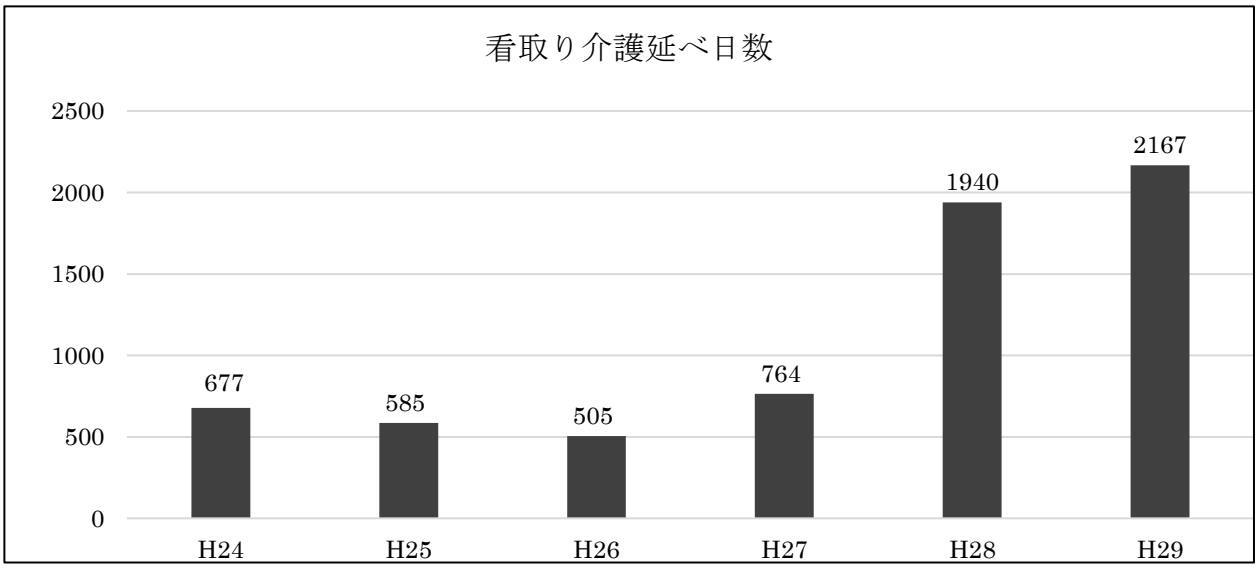
【相談部門】

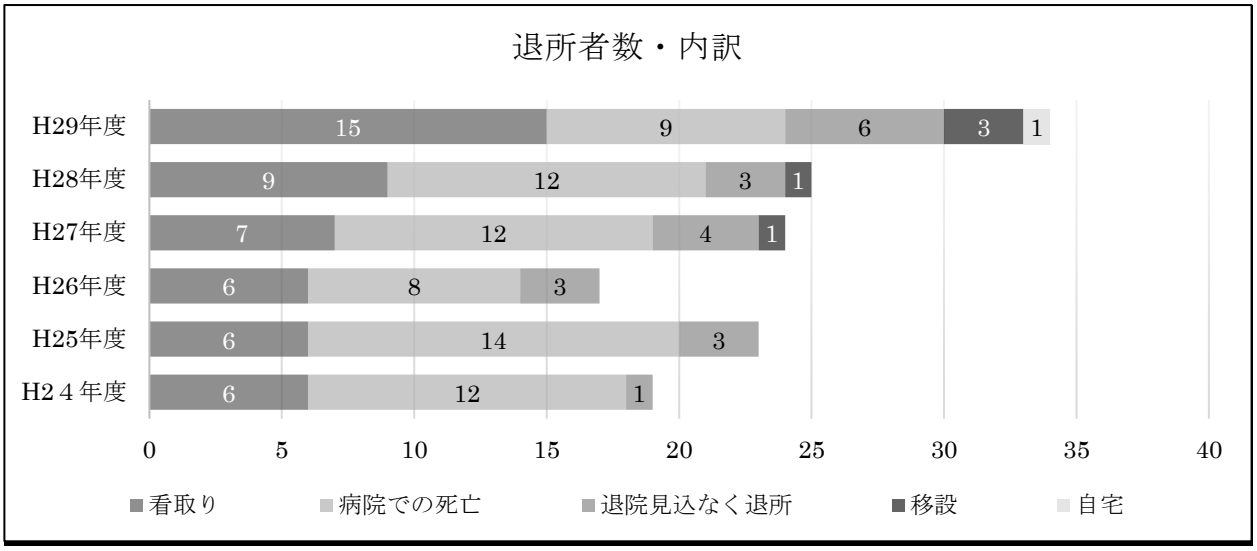
相談部門では、施設サービスの提供・効果の測定について、家族との相互理解を図ることができるように利用者の生活状況などを家族に対して密に連絡報告を行った。また、年 1 回のサービス担当者会議に家族にも参加してもらえるように働きかけ、平成 29 年度は 6 割以上の家族に参加してもらった。年末に行ったアンケート調査で家族からも「具体的なができた」、「要望を伝えることができた」など高評価をいただいている。平成 30 年度も可能な範囲での参加を依頼し、家族との相互理解に努めていきたい。

平成 29 年度は 1 年間で過去最多の 34 名が退所しており、特に年度初めに集中したため、業務が追い付かず、入所までに時間を要してしまうこともあった。そのような状況の中でも安定したベッドコントロールができるようショート部門と密に連携を図り、退所、入院時の空床活用に努めてきた。

また退所後に速やかに入所調整がなされるよう事前に面談を進め、年間での退所から入所までの平均日数は 13 日、述べ空床数は 457 床となっている。平成 29 年度より日数管理を行っており、引き続きスムーズな入所調整、空床数の逓減に努めていく。また、入院時においても医療機関の連携室を通して入院期間、退院見込について確認し、ショートステイで使用できるベッド数を具体的に把握し、効率よくベッド利用がなされるように努めた。平成 29 年度は年間通して入院における空床は 852 床、空床の合計が 1,309 床で内、ショートステイで活用されたのは 226 床となっている。空床数はまだまだ多い状況であるため、平成 30 年度も課題として取り組んでいきたい。

平成 28 年度より看取り介護の延べ人数は急激に増加しており、より充実した看取りケアの提供が求められている。平成 29 年度は外部から講師を招き、施設内で看取りケアの研修を開催している。施設の看取りケアの実践と題して看取り期の心身の変化、生活援助等の内容で研修を受けた。多くの職員から看取り期についての理解が深まったとの声があり、実際のケアでも活かすことができている。平成 30 年度は家族向けの看取り介護の研修会を開催し、家族との共通理解の下に看取りケアを進め、利用者の方が最期まで施設で安心して過ごせるよう取り組んでいきたい。





【介護部門】

介護の現場では「安全・安心」な介護サービスの提供は必須である。介護部門では、平成 28 年度、入浴時に大きな事故があり、ご利用者が安全に入浴できるよう見直しに着手した。職員にアンケートを実施し、課題や職員の不安から取り組む内容を検討することとしたが、棟の状況によっても課題や要因が異なるため、要因を絞り込むことに難儀した。活動を行いながらも、入浴時の事故は命に関わることもあるため、安全の担保のため、実施可能なことは即座に取り組めるよう心掛けた。安全な入浴の提供を確立するため平成 30 年度も継続し取り組んでいく。また、食事の際のリスクについても検討している。事故が起こってから対応するのではなく、リスクを捉え、やれているか、業務ではなくケアであることを意識し、流れや手順を明確にしなければいけない。リスクマネジメントは、利用者を守るためにも、職員が快適に働くためにも重要である。危険をマネジメントし、未然に防ぐ、あるいは最小化するためにも取り組み事が必要と考える。

また、長時間労働による職員の負担軽減を図るため、「8 時間夜勤プロジェクト」を立ち

上げ、業務日課の見直しや他職種との業務の摺り合わせを行なった。

入所者の重度化等により、医療的なケアを提供するニーズが高まっていることから、安全・安心なケアを他職種と連携し、介護専門職として技術やスキルを高め、一人ひとりの利用者の尊厳を重視し、充実した毎日を過ごすことができるよう一層努めたい。

【医務部門】

平成 28 年度から、医務の業務改革とチーム体制の整備に取り組んできた。月 1 回の医務改革推進会議、及び、部門内での話し合いを重ね、具体的な業務の見直しを行い、10 月に新体制へ移行した。

今後は、他部門とのより効果的な連携について、また、部門内での業務に係る問題点を一つ一つ解決するとともに、業務マニュアルを整備し利用者の健康を第一に考えた体制のさらなる強化へ取り組んでいく。

また、施設での看取りが増すなか、医療専門職として家族の意向を尊重しながら、嘱託医との密な連携を図り、終末期における利用者の苦痛を軽減できるよう支援してきた。利用者に関わる多職種間の連携のもと、利用者と家族が心穏やかにその刻を迎えられるようその充実に取り組んでいきたい。

感染症予防対策としては、感染委員会と連携し、施設内の利用者や職員の感染状況について迅速な把握に努めるとともに、発熱等の有症状者については速やかに嘱託医へ報告し、早期受診や早期対応につなげることができた。

【機能訓練部門】

機能訓練部門では、長期臥床や不活動な生活により、廃用症候群を生じやすい状況から脱するため、リハビリ部門から積極的に離床の機会を増やす取り組みに徹してきた。また、介護技術向上委員会と連携し、骨折し易い利用者を絞り込み、介護職への周知と事故・怪我・骨折予防に努めてきた。

利用者のリハビリは、ケアプランに沿った個別リハビリ（基本動作練習、関節可動域運動、歩行訓練）と集団レク（グループレク）を個別の日課に合わせ実施した。また、利用者の身体・精神状況の変化に合わせ、摂食時や臥床時の安楽な姿勢保持への助言、介助者の負担軽減にもつながる移乗方法、利用者の機能や目的に応じた車椅子の選定、褥瘡予防と体位変換枕の効果的な使用に係る介護職への指導助言など、ケアメニューの見直しにも努めた。

年間行事としては、ボランテイアによる音楽クラブの活動支援と大相撲の星取りを定期的に実施し、ケアハウスでのリハビリ指導も継続的に実施した。

平成 29 年度の重点目標として、家族との関わりを強化し個別ニーズに対応したリハビリの提供を掲げていたが、積極的な関わりを持つことができなかった。

平成 30 年度も家族への関わりの強化を継続し利用者・家族が満足できるリハビリの提

供に努めていきたい。

【栄養部門】

栄養部門では平成 29 年度、以下の内容について重点的に取り組んできた。

① 多職種との連携による経口摂取維持の取り組み

経口維持加算体制のフローチャートに基づき、摂食状態の観察、話し合い、医師の指示書、計画の作成、ご家族への説明と同意について、対象者のケアプランの更新に合わせ実施してきた。この取り組みにより、嚥下摂食状態だけでなく、姿勢、疾病状態など他職種の意見を毎月確認し、利用者の状態に合わせた対応がスムーズにできるようになった。

② 施設間の共通献立作成を実施し、業務の効率化につなげていく。

つくし苑、成章園、ケアハウスほうおうの三施設では、共通で基本献立（常食）を作成している。共有の給食システムを導入し、旧システムから献立マスタを移行し、共通献立を作成している。各施設によって行事の内容や時期等異なることは実施前より承知していたため問題はなかったが、食材に分量については利用者の活動、身体状況の違いが大きく、つくし苑を基準とした食材料の分量については見直しが必要とされた。今後も検討や改善を継続していく。

③ 食事形態を見直し、嚥下・摂食機能等に合わせた食事の提供を行う。

経口維持の取り組みにより、摂食・嚥下状態が低下している、利用者に対して毎月の摂食スクリーニングや話し合いの場を多職種でもつことができ、状態に合わせた形態の食事に随時変更することができるようになった。また、情報の共有もできている。

【事務部門】

つくし苑事務部門では、次の4点を重点目標とし、取り組みを行った。

① 社会福祉法人制度改正に対応するため、適正な会計処理を行う。

会計担当者を中心に、予算執行状況を確認しながら、予算残高に応じた支出管理を行い、無駄な支出を抑制することで、コスト管理を徹底するとともに、コスト削減に努めた。

平成 30 年度には、消耗品の購入方法の見直しを図りながら、引き続きコスト削減に努めていく。また、財務諸表等電子開示システムによる情報公開データ作成のために、適正な決算処理を行い、社会福祉充実算残高の算出を行うとともに、今後の事業継続に必要な資産の把握を行った。

② 建物、各種設備、機器の老朽化に対し、計画的な更新や速やかな修理・修繕を行う。

施設開設から 20 年近い年月が経過したことで、建物、設備、機器は、老朽化による破損、故障等が年々増加してきている。更新、修理、修繕は、限られた予算内で、

利用者の生活に支障を来さぬよう、緊急性等を考慮しながら、迅速に対応する必要があるため、関連部署とコミュニケーションを密にしながら、予算の確保を行い、修理、修繕に努めた。

今後も厳しい収支状況が予想される中での、更新、修理、修繕を行わなければならないことため、コスト意識を持ち、適切な予算計上と予算執行に努めていきたい。

③ 窓口及び電話対応時は、やさしい言葉遣いと気配りを心がけ、丁寧な対応を行う。

窓口及び電話対応への苦情は無かったことから、今年度も引き続き丁寧な対応ができたと思われる。今後も、窓口は施設の顔であることを忘れず、やさしい言葉遣いと気配り、そして笑顔を添えることで、来苑者や電話の相手方に好感を持っていただけるように努めていきたい。

④ 高齢者をはじめとする来苑される方々が、玄関ホールを安全に利用できるように整理整頓を行う

平成 28 年度、玄関ホールに手すりや椅子の設置に合わせ、周辺の整理整頓も実施し、環境改善を行っている。その結果が継続されているおり、玄関ホールは安全安心な環境が保たれている。施設を利用される皆様が、事故怪我に合わないように環境整備の継続に努めていきたい。

【短期入所生活介護事業所】

平成 29 年度の利用実績は、年間延べ 7,280 日で、前年 7,261 日と比較して 19 日と若干の増加、前年対比 100.2%となった。稼働率「受け入れ可能日数に対する稼働率(退所や入院による正規入所者分の空床も含む)」は平均 85.0%で、平成 28 年度の 85.0%と同値となった。平成 28 年度までは、入院初期加算分の日数は空床として取り扱っていなかったが、平成 29 年度は入院初期加算対象分も含め空床扱いとしていたことから、見た目の稼働率は同値となったが、今年度の実際の稼働率は上がったことになる。

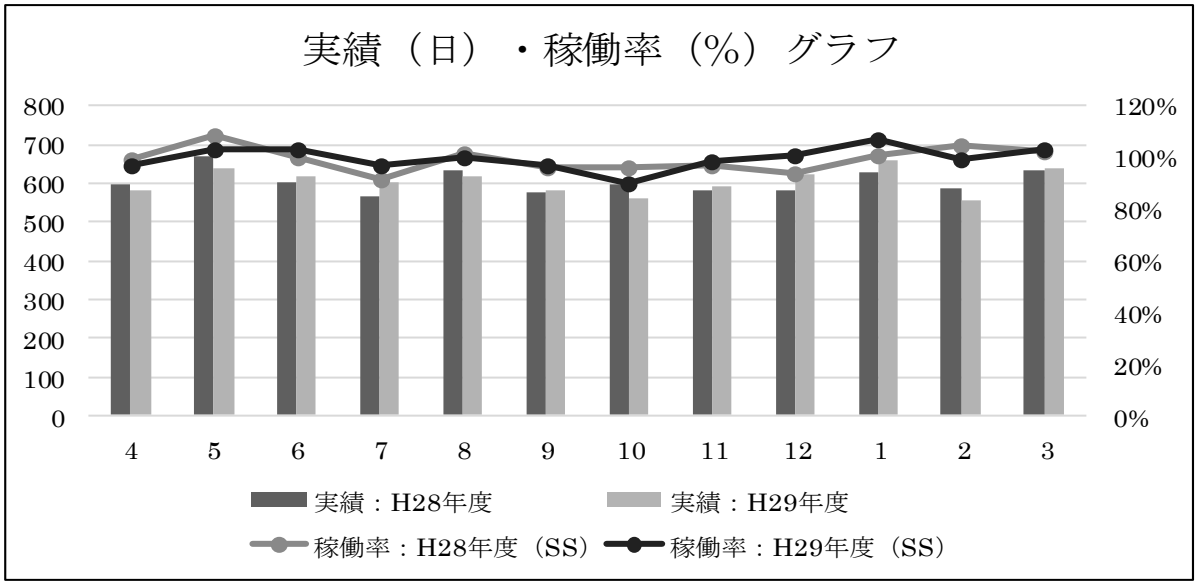
利用実人員は 101 人で年間延べ 583 人の利用があった。延べ人数は平成 28 年度と比較すると、16 人減少しているが、一人当たりの平均利用日数は 12.5 日で、平成 28 年度と同様の結果となり、長期利用者の増加が要因となった。

地区別の利用者数では、十二所地区の方の利用が全体の 6 割以下となり、逆に鹿角市からの利用者も1%となった。要介護度区分別では、要介護3の方が最も多く、平成 28 年度と比較すると軽度者の割合は増えた。

医療機関からの退院後、生活に不安のある方の長期利用の依頼が多く、定期利用の方の依頼は減少した。前年度と同様に空きベッドの迅速な調整を図るとともに、空床カレンダーでのホームページの活用も継続した。

また、顧客サービスの一環として、他事業所でも対応しているショートステイ利用時の定期通院時の送迎を開始させた。開始後、着実に市内の病院通院等の送迎ニーズが増し、対応する相談員の業務を逼迫させる結果となったことから、平成 30 年度より通院時の送迎対

応に一定の制限を設けることとなった。利用者や家族の様々なニーズを探り、安定した利用実績を確保していきたい。



2. 委員会活動

【運営委員会】

運営委員会では、施設におけるリスクやコスト管理、サービスの質に係る課題の共有と改善の検討に取り組んできた。

これまでつくし苑では、現場の部門責任者や棟リーダーといった指導的立場の職員に対し、施設経営に係る状況の報告や共有の機会は限られており、管理職や収支管理に関わる事務職員以外は施設経営の実態や課題が見えにくい状況にあった。そのため平成 29 年度は事務職員からの定期的な収支状況の報告や、感染症の発生状況等で消費量に大きく影響する衛生用品等の使用状況について共有の機会を設け、指導・監督職の経営的視点と意識強化に努めた。

また、施設内の事故や利用者・家族からの苦情等の検証や、再発防止のための対策の検討を通し、生じた結果を施設の課題として捉え、ともに解決していけるよう継続的に取り組んできた。部門だけでは効果的な対策が見出せない時や、施設全体としての対応が必要な事案については委員からも積極的に発言があり、本委員会の支持的機能が徐々に浸透してきていると感じている。

平成 29 年度は看護職員の恒常的な時間外業務の解消を図るため、医務の業務改革（棟配置体制）の実現を重点目標として取り組んできた。長年の体制を変えていくにあたっては、少なからず現場でも抵抗や動揺が生じるが、この先の施設の姿を見据え、継続的に支援していく姿勢を貫くことにより、わずかながらも前に進むことができたと考える。

介護職員の夜間の長時間勤務や不規則勤務者の確保難など、施設で抱える課題は多々あるが、今後も本委員会の管理的教育的支持的機能を十分に発揮しながら、安定した施設

運営と利用者へのサービス向上に努めていく。

【感染症予防対策委員会】

つくし苑感染症予防対策委員会は、施設内の感染管理体制の強化に努めてきた。日常の手洗い・うがい、流行期のマスク着用等の予防活動の徹底と、通年での施設内消毒の実施、また医療機関からの退院時に痰や尿中に耐性菌を保有して施設に戻られる利用者もいることから、他利用者への感染リスクを最小限にできるよう対策を講じてきた。

感染症の集団発生時には臨時委員会を開催し、感染状況の把握と現場レベルでの具体的な対策に取り組み、更なる拡大を防止するよう職員一丸となって実践した。感染症を予防するには、職員一人一人の正しい知識と実践が不可欠であることから、感染症の理解とともに職員自らが対策を考え、予防への意識を高められるような研修を実施した。今後は、感染マニュアルを整備し、予防対策と感染症発生時の対応を強化するとともに、コスト面にも考慮した感染対応の見直しを図り、利用者と職員の安全と健康の維持に努めていく。

【部門間連携委員会】

部門間連携委員会は、職種間の情報共有と相互の協働体制の維持を図るため、部門単独では解決が困難な事例や、各部門の調整が必要な施設内の課題や仕組みの構築等について協議し、改善策を検討してきた。

下剤に関わる不適合については毎月委員会で内容を確認し、対策を確認し合うことでミスの発生は減少しており、パソコン管理への移行により、下剤に関わる不適合の件数は激減したことから、長年抱えてきた下剤投与に係る課題を解決することができたと考えている。

iPadの活用による利用者の生活状況の包括的な管理については、現段階では排便・食事・水分量のみの活用となっており、目標としている生活情報全般の管理には至っていない。引き続きiPadを活用しながら、一元的にパソコンでの情報管理ができるような体制を整備したいと考えている。

平成 29 年度は医務の棟配置体制に係る介護員への業務移譲等について擦り合わせを行ない、意見交換を重ねながら 10 月より介護員への業務委譲を実施している。今後も棟配置体制の定期的な評価結果をもとに、部門間で生じる様々な課題の解決に継続的に努めていく。

【医療的ケア対策推進委員会】

活動方針に基づき、医療職と連携し、介護職員が行う医療的ケアを安全に実施できる仕組みと体制の整備に取り組んだ。

(1) 介護職員のたん吸引に係る安全確実な手技の取得とその根拠となる知識の確認を目的として、本委員会主催の内部研修を年 1 回実施し、ブランクのある方へのフォローアップを行い、介護職員が一定の水準を保持できるように努めた。また、PEG（胃瘻）から

の経管栄養注入・口腔内吸引(鼻腔内吸引)のマニュアルを 50 時間研修用テキストに準じる形式に改訂した。

(2) 定例委員会において不適合報告内容を共有し、その対応経過について検証し、再発防止を図った結果、利用者の健康状態に影響する事例の発生はなかった。

(3) 介護職員の喀痰吸引等研修事業の実地研修は、1 月から介護職員 1 名を対象に実施中である。演習、及び実地研修用の手順等の資料を見直しし、指導看護師による統一した指導体制に繋げる事ができた。

(4) 褥瘡については、定例の委員会において褥瘡発生状況の把握と、ベッドサイドカンファレンスによる対応の確認を行い、発生時の早期対応と悪化予防に繋げることができた。

【介護技術向上委員会】

介護技術向上委員会では①介護技術の習得と現場への展開②新たな介護ケアの提供と実践を重点目標に掲げ活動してきた。5 月には委員 1 名が介護技術支援セミナー(初級)に参加した。また、10 月には外部講師を招き、施設全体で根拠に基づく介護技術を習得する機会を設けることができた。

また、平成 28 年度より活動してきた新たな介護ケアとして拘縮用の手枕をケアに取り入れている。継続的な使用により拘縮進行予防と皮膚の湿潤の改善に効果を得ている。また、使用状況を記録していくことで、使用の周知が図られケアが定着化してきている。

また、介護中の事故・怪我を未然に防ぐ取り組みとして、入所者全員の骨粗鬆症・骨折既往を調べデータ化した。これにより利用者個別のリスクを把握することができた。しかし平成 29 年度の活動としては、現場への介護技術のフィードバックについては整備が不十分であり、平成 30 年度は、今年度の活動にて把握したリスク者のケア内容の見直し等を実際の現場レベルで行うことで、安全で適切な介護技術を浸透出来るように活動していく。

【栄養委員会】

栄養委員会は、利用者の口腔機能の維持と利用者が口から食べる楽しみを得られることを重点目標とし、利用者個々に応じた適切なトロミの提供と、口腔衛生管理加算の取り組みに継続的に取り組んできた。また、経口維持管理加算(Ⅰ)取得に向けた取り組みを実施し、嘱託医や歯科衛生士など多職種の連携により、より専門的な視点から利用者の経口摂取を維持できるよう活動した。

口腔衛生については、歯科衛生士による口腔衛生指導を毎月継続し、指導内容を現場の職員に周知し、適切な口腔ケアの実践により、利用者の口腔内トラブルを最小限にすることができた。利用者の口腔衛生の保持は、食べる機能の維持や肺炎等の予防につながるものであることから、引き続き平成 30 年度も効果的な活動に取り組んでいきたい。

経口維持加算(Ⅰ)への取り組みは、これまでの現行の仕組みを強化し、摂食スクリーニング(食事場面の観察)等での多職種間の連携を図り、効果的な利用者ケアに繋げられるよ

う努めてきた。今後は、これらの実績を重ね、取り組みの効果を確認していきたい。

また、平成 29 年度は委員が外部研修で学んだ知識や技術を介護職員に伝達する機会をもった。より実践的な研修であったことから、研修後に現場で早速実践に活かす姿がみられるなど、効果的な研修開催となった。

【排泄ケア向上委員会】

本委員会では以下の4つを重点目標に掲げて活動してきた。

(1) 排泄場面におけるプライバシーの確保

平成 28 年度から取り組みを続けてきたトイレの個室用カーテンについては平成 29 年度から運用を開始した。カーテンの長さや素材、数量の問題が改善されたことで、以前のようにカーテンの長さが足りず、きちんと閉めることができないということがなくなり、トイレ使用中のプライバシーが確保されるようになった。しっかりと隙間なく閉めることができるようになった為、トイレ介助を行う職員のプライバシーに対する意識の向上にもつながった。また、十分なカーテンの数量も確保された為、カーテンの交換もスムーズに実施できるようになり、衛生面でも保持されるようになった。

(2) コスト削減への取り組み

利用者にとっても快適で、かつコスト面での節減にもつながるパッドのフィッティング（適正なパッドの選定）に関しては、棟によって取り組みに差が出てきている状況にある。継続的に実施している棟では、正しいパッドの選定ができるようになり、合わないパッドを装着していることによる尿漏れが改善された結果、無駄なパッドを使用することもなくなった。また、尿漏れによる利用者の不快感や職員の介助負担も軽減できている。取り組みが消極的な棟については、この取り組みの目的やメリット等について再度職員へ周知し、委員会委員が中心となり活動を意欲的に進めてもらえるようアプローチしていく。

(3) 安全で安心できるケアの提供

施設内で使用しているポータブルトイレの使用や在庫管理や点検について、平成 29 年度より本委員会でそ管理している。在庫数の確認とナンバリングを行い、定期点検を実施できるように点検表を作成した。実際に今年度から点検表の運用も開始し、利用者の使用するポータブルトイレの安全を確保することができるようになった。

(4) 排泄ケアのスキル向上

オムツメーカー白十字の研修を利用し、介護員向けに排泄ケアの基本、オムツの当て方、陰部洗浄に関する研修を開催した。研修の内容は、介護員の通常業務で欠かせない部分であり、職員の排泄ケアの意識・技術向上に繋げることができた。

【認知症ケア推進委員会】

平成 29 年度、認知症介護実践リーダー研修に委員が 2 名参加し、認知症リーダーとして求められる指導力やチームケアを進める技能を身に付けることができた。

また、平成 29 年度の取り組みとして、各棟で新たに認知症ケアに重点的に取り組む利用者を選定し、担当職員とともにアセスメントシートの記入、個別計画書立案、個別援助計画の作成を経て、棟職員を巻き込みながらケアを実践した。現場でのケアの展開は、平成 28 年度よりも徐々に棟職員に浸透しつつあり、結果、ケアの質の向上につながった。

《重点目標》

(1) 認知症ケアの継続的な取り組みの実現に向けた体制の整備。

認知症ケアに関する施設内の実践リーダーとしての役割を担うため、委員2名が認知症介護実践リーダー研修に参加し、必要な知識や技術を学び無事に課程を終了することが出来た。平成 30 年度は、現場における実践リーダーを確保するため、認知症介護実践者研修と認知症介護実践リーダー研修へ各 1 名ずつ参加を予定している。

(2) 認知症ケアに係る質の向上への取り組みの実施。

2月に当法人の地域包括支援センター職員へ依頼し、未受講の職員や異動職員を対象に認知症サポーター養成講座を開催した。認知症の基礎知識を学びつつ、参加者全員がサポーターとして登録することができた。

9月には大館市立総合病院での講義「みんなで支える認知症」に委員が参加し、認知症利用者への対応や知識について学ぶ機会を持った。

各棟における認知症ケアの実践を継続しながら、棟職員を巻き込みケアの充実に努めていきたい。

【災害対策委員会】

平成29年度は災害対策マニュアルの見直しを行っている。見直しに合わせて、必要物品の再確認や数量の把握もできたことで、有事の際の備えはある程度できたものと思う。委員にはライフラインの復旧方法の指導を行ったことで、各棟に最低 1 名以上の対応者を置くことができた。

また、県の実地指導にて指摘された避難路の確保については、消防自主検査表を改訂し、委員が責任を持って点検するよう改善したことは、今後の災害対策につながるものと思っている。

防犯については、不審者対策として大滝駐在所の警察官に施設内を視察してもらい、要注意箇所について助言・指導をもらった。

3. つくし苑　利用者状況報告

集計日　　平成 30 年 3 月 31 日現在

（1）年齢別・性別の状況（単位：人）

年齢／性別	～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～94	95～99	100～	計
男	1	3	0	2	5	7	4	1	1	**24**
女	0	3	3	7	8	15	22	16	2	**76**
計	1	6	3	9	13	22	26	17	3	**100**
平均男(83.7)　女(88.3)　全体(87.2)　最高(107)　最低(63)										

（2）在苑期間の状況（単位：人）

期間／性別	1 年未満	1 年以上 2 年未満	2 年以上 3 年未満	3 年以上 4 年未満	4 年以上 5 年未満	5 年以上 6 年未満	6 年以上 7 年未満	7 年以上	計
男	7	3	5	3	2	0	1	3	**24**
女	24	16	8	7	5	1	4	11	**76**
計	31	19	13	10	7	1	5	14	**100**
平均　男(3 年 2 月)、女(3 年 3 月)　最高　男(11 年 11 月)、女(18 年11月)全体　(3 年 3 月)									

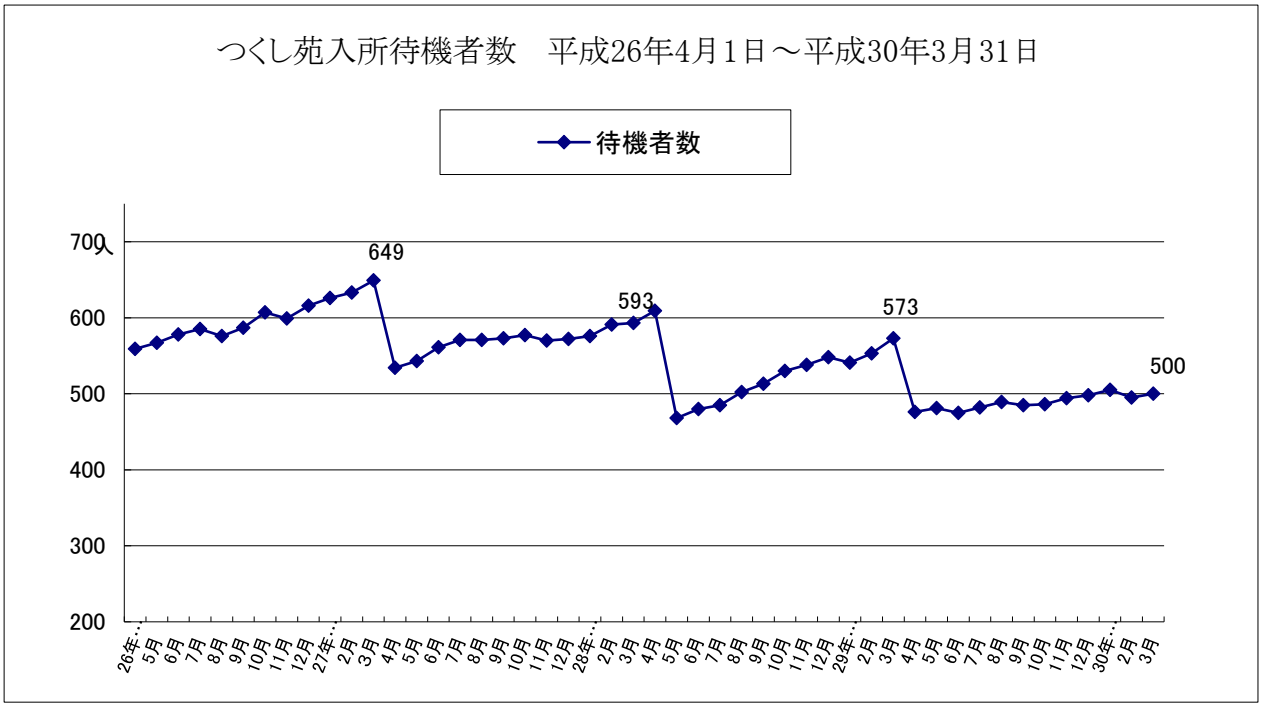
（3）入退所の状況（単位：人）

		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
新規入所者	男	2	1	2	1	1	1	0	0	0	1	0	0	**9**
	女	4	3	3	2	3	4	2	0	1	0	3	1	**26**
退所者	男	3	2	2	0	1	0	0	0	0	1	0	0	**9**
	女	4	3	2	3	3	4	1	1	0	2	1	1	**25**
月末在所者数	男	23	22	22	23	23	24	24	24	24	24	24	24	
	女	75	75	76	75	75	75	76	76	76	74	76	76	
	計	98	97	98	98	98	99	100	100	100	98	100	100	

（4）介護度別の状況（単位：人）

要介護度	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計	平均
平成 29 年 3 月末	2	3	9	35	50	99	**4.29**
平成 30 年 3 月末	1	3	16	37	43	100	**4.18**
増　　減	**－1**	0	7	2	−7		**−0.11**

（5）入所待機者の状況



4.　事業実施状況

月	日	管理関係	日	行事ほか	日	実習･研修
4	1	消防訓練	18	いなほの会ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ	17～27	秋田看護福祉大学看護実習
	3	辞令交付式、年度始め式	21	ポケットの会ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ		（３名×８日間）
	5	誘導灯用ランプ交換				
	6	県知事選不在者投票				
	7・21	浄化槽保守点検				
	12	煤煙測定				
	12	暖房機ファンヒーター修理				
	13	水質検査				
	20	ハチ公ｽﾉｰﾚﾝｼﾞｬｰ反省会議				
	22	十二所地区防犯協会総会出席				
	26	ＩＳＯ部門目標活動報告会				
5	2	大型乾燥機修理	1	観桜会	9～7/6	大館准看護学院実習
	2	ガス漏れ点検	9	賀寿祝い（１名）		（２名×３Ｇ×２７日間）

月	日	管理関係	日	行事ほか	日	実習・研修
	5・19	浄化槽保守点検	14～28	大相撲星取り大会		
	12	ガス漏れ修理	25	買い物外出レク		
	15～17	ガラス清掃				
	16	ワックス掛け				
	16	スプリンクラー保守点検				
	16	市災害ﾈｯﾄﾜｰｸ幹事会				
	17	監事監査				
	23	自動ドア保守点検				
	23	洗濯場ガス漏れ点検				
	23	ボイラー部品交換				
	29	入所調整委員会				
	30	浄化槽法定検査				
	31	理事会				
6	7	２０周年記念植樹	7	石田ローズガーデン見学		
	7	厨房機器定期点検				
	9	浄化槽保守点検	15	野外昼食会		
	9	徘徊受信機交換	16	ポケットの会ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ		
	13	外部赤外線センサー交換	20	いなほの会ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ		
	14	空調点検清掃作業				
	14	電気設備保守点検				
	20	空調点検清掃作業				
	21	特定給食施設等実地指導				
	21	定時評議員会・６月理事会				
	23	浄化槽保守点検				
	25	定期空調点検清掃作業				
	27	苦情解決第三者委員報告会				
	27	火災通報装置取替え修繕				
7	3	職員健康診断	4	利用者健康診断	26～8/3	大館桂桜高校施設実習（2名×3G×３日）
	7・21	浄化槽保守点検	6	成章小七夕飾り寄贈		
	11	県実地指導	9～23	大相撲星取大会	31～8/2	大館国際情報学院高校インターンシップ（１名×３日）
	19	労働基準監督署ヒアリング	17	遊びリテーション＆茶話会		
	20	計量器検査	23	賀寿祝い（１名）		

月	日	管理関係	日	行事ほか	日	実習・研修
	24 27 30	地下油槽清掃漏洩検査 市災害ﾈｯﾄﾜｰｸ避難訓練 高校新卒者就職情報交換会 烏合会草刈ボランティア				
8	2 4・18 21 22 23 28～29 31	ポンプ・屋内外配管点検業務 浄化槽保守点 大館市社会福祉法人連絡会 自動ドア点検 県訪問調査(転倒・誤嚥) ISO 更新審査 害虫駆除	5 10 16 18 22	なつまつり おやつづくり ひない灯篭ながし見学 ポケットの会ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ いなほの会ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ	21　～ 9/12	秋田看護福祉大学介護実習（２名×１７日間）
9	4 5-8 8 8 11 16 22 25	利用者結核検診 ガラス清掃 浄化槽保守点検 危険物保安講習受講 更衣室自動推薦電磁弁取替 職員採用試験（本部） 浄化槽保守点検 消防設備点検	10～24 13 13 19 20 22 25	大相撲星取大会 敬老会 賀寿祝い（1 名） 県から百歳の祝い（1 名） 成章小学習発表会予行見学 ポケットの会ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ 遊びリテーション＆茶話会	11～13 26	大館桂桜高校就業体験（1 名×3 日） 秋田大学医学部 5 年生福祉実習　（5 名）
10	3 6 8 18 19～27 20 23 25 26	簡易水道検査 浄化槽保守未点検 厨房ｺｰﾙﾄﾞﾃｰﾌﾞﾙ異常点検 不在者投票 床ワックス掛け 消防訓練 電気設備年次点検 安全運転管理者講習 受水槽清掃	9 17 24 27	外出レク（きりたんぽまつり見学） いなほの会ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ 賀寿祝い（１名） ポケットの会ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ	23　～ 11/2	比内支援学校高等部１年生施設実習（１名×９日間）
11	2	浄化槽保守点検	9	外出レク(買い物)		

月	日	管理関係	日	行事ほか	日	実習・研修
	7 7・14 15 21 27 28	市災害ﾈｯﾄﾜｰｸ幹事会 インフルエンザ予防接種 法人創立２０周年記念式典・記念講演 自動ドア保守点検 整備管理者選任後講習会 理事会	12～26 17	大相撲星取大会 ポケットの会ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ		
12	6 7 8・22 13 15 15 28	電気設備保守点検 苦情解決第三者委員報告会 浄化槽保守点検 ﾊﾁ公ｽﾉｰﾚﾝｼﾞｬｰ出陣式 法人避難訓練（駆付け訓練） 厨房機器点検 仕事納め式・大掃除	5 10 18 21 22 25	いなほの会ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ 賀寿祝い（1名） 利用者忘年会 もちつき ポケットの会ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ 賀寿祝い（1名）	16～17	大館鳳鳴高校定時制２年生介護職場体験（１名×２日間）
1	4 5・19 5 12～19 16 24 30 31 31 31 31	仕事始め式 浄化槽保守点検 流水調整ﾎﾟﾝﾌﾟ槽ﾌﾛｰﾄｽｲｯﾁ交換 床ワックス掛け 浄化槽流量調整ポンプ交換 大滝駐在所警察官苑内視察 大館警察署署員による防犯研修 市福祉施設等災害ﾈｯﾄﾜｰｸ図上訓練 介護サービス情報調査 居住棟コンセント取替え 個室 LED 照明交換工事	7 19 14～28 31	利用者新年会 ポケットの会ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ 大相撲星取り大会 遊びリテーション＆茶話会		
2	2・16 3	浄化槽保守点検 職員採用試験	13 16	賀寿祝い(1名) ポケットの会ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ	13 ～ 3/15	秋田看護福祉大ソーシャルワーク実習(1名×23 日間)

月	日	管理関係	日	行事ほか	日	実習・研修
	5 7 16	厨房ガス機器修理 電気設備保守点検 ねずみ・害虫駆除	18 20 22	遊びリテーション＆茶話会 いなほの会ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ だまっこ作り		
3	9・23 14 15 16～25 16 27	浄化槽保守点検 入所調整委員会 消防設備点検 床ワックス掛け 浄化槽放流ﾎﾟﾝﾌﾟ交換工事 理事会	1 10 12 29 30	ひなまつり 賀寿祝い（１名） おやつ作り 賀寿祝い(1名) ポケットの会ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ		

５．研修実施状況

（1）内部研修　※法人合同研修含む

番号	実施日	時　間	対象	内　容	講　師	場　所	参加数
1	4/3～9/30	計 3,645 分	新採用職員研修	＜主な内容＞ ①オリエンテーション ②労務関係オリエンテーション ③法人理念と運営方針 ④社会人マナー ⑤接遇の基本 ⑥チームケアとコミュニケーション ⑦事業所見学 ⑧感染症の知識と予防 ⑨介護職の倫理とコンプライアンス ⑩個人情報とプライバシー保護 ⑪介護技術の基本 ⑫ISO のしくみの理解 ⑬リスクマネジメント ⑭介護保険制度 ⑮他事業所業務体験 ⑯力量評価の仕方 ⑰先輩職員との交流 ⑱研修後の振り返り	法人内職員 (研修担当:施設長補佐　花田繁盛)	つくし苑内	6

番号	実施日	時 間	対象	内 容	講 師	場 所	参加数
2	4/26	60 分	全職員	H28 年度 ISO 部門目標報告会	報告者:佐藤英明(リハ部門)	ふれあいセンターやまびこ	25
3	6/14、15、16（延 3 回）	60 分	全職員	感染症予防研修「利用者・職員の食前の手洗いの徹底について」	主任看護師 武廣眞貴子、副主任機能訓練指導員 佐藤英明	会議室	70
4	9/20、27（延 2 回）	90 分	全職員	「看取り介護について」	弘前医療福祉大学 工藤うみ氏	ふれあいセンターやまびこ	48
5	10/11、12（延 2 回）	90 分	全職員	「生活支援技術:その人が最期まで人間らしく」	ナーシングサイエンスアカデミー代表取締役 原川静子氏	ふれあいセンターやまびこ	47
6	11/1、17、20、22（述 4 回）	60 分	介護職員	感染症予防研修 「吐物処理」	主任看護師:武廣眞貴子、副主任リハ佐藤英明 棟リーダー等	各棟	45
7	12/4、6、8（延 3 回）	60 分	介護職員	医療的ケア研修 「痰吸引・経管栄養に関する基礎知識の確認」	医療的ケア対策推進委員 副主任看護師:平澤真紀子、看護師 高坂一美	会議室	45
8	1/15, 22	60 分	介護職員	排泄ケア向上委員会	(株)白十字	会議室	35
9	2/19.22（延 2 回）	60 分	未受講者	認知症サポーター養成講座	包括職員	会議室	16
計		4965 分				延べ参加人数	337

（2） 外部研修

番号	期 間	研 修 名	場 所	参 加 職 員
1	5.11～5.12	東北ブロック老人福祉施設大会	秋田市	施設長 鎌田 俊
2	5.13～5.14	生活支援技術セミナー	川崎市	機能訓練指導員 三浦 靖代
3	6.8～6.9	医療的ケアに係る指導看護師研修	秋田市	看護師 兎澤 由美子
4	7.3～7.7	介護職員の医療的ケア研修(指導看護師)	秋田市	看護師 兎澤 由美子
5	8.1～8.3 8.22～8.24	介護支援専門員再研修	秋田市	相談員 糸田 恵

番号	期 間	研 修 名	場 所	参 加 職 員
	9.19～9.22			
6	8.31	特定給食施設等関係者研修会	北秋田市	管理栄養士 石田 夕子
7	8.25 8.28～9.1 9.4～9.8	介護職員のたん吸引等研修(講義)	秋田市	介護員 阿部 剛悦
8	9.25～9.29	介護職員のたん吸引等研修(演習)	秋田市	介護員 阿部 剛悦
9	10.4～6 10.11～13 10.17～19	認知症実践リーダー研修	秋田市	介護員 疋田 和宏 介護員 齋藤 啓子
10	10.25	安全整備管理者講習	大館市	係長 齋藤 浩 係長 松橋 隆視
11	10.30～31	県北福祉施設在宅包括職員研修会	大館市	介護員 山城屋 茜、小畑 涼 近藤 美咲、 佐藤 楓
12	11.27	整備管理者選任後講習会	秋田市	係長 齋藤 浩
13	12.22	秋田県広域災害福祉支援ネットワークセミナー	秋田市	係長 松橋 隆視
14	2.22～23	老人福祉施設長研修会Ⅱ	秋田市	施設長 鎌田 俊
15	2.24	能代山本地区老連協職員研修会	能代市	介護員 長田 美穂子 佐藤 真貴子

平成 29 年度　大館市デイサービスセンター大滝　事業報告

介護報酬の改定に伴う報酬単価の減額のため厳しい運営を余儀なくされてきたが、年間延べ利用者数としては 10,501 人となり（平成 28 年度 10,376 人）概ね計画通りの利用延べ人数となった。

また、サービス提供体制を改め加算を算定できる事業運営に努めてきた。平成 29 年度は新たな取り組みとして、介護予防通所介護及び日常生活自立支援総合事業における「運動機能向上加算」について、体制を整備することができた。しかし、これまで要介護3～5の中重度利用者の受け入れ体制を整え「中重度利用者受入体制加算」を算定してきたが、平成 29 年度実績では中重度受け入れ要件を満たすことができず、平成 30 年度はこの加算を算定することができない状況となっている。

平成 30 年度は、利用者のニーズに添えるよう個々の身体状況に合わせた介護技術の習得に努め、運動機能向上や生活機能の維持・改善に向けた介護サービス提供に努めてきた。特に、心身の機能維持についてはより専門的なサービス提供に努める。

ISO9001 の部門目標としては「デイサービス内で役割を持って活動する利用者が増える」を目標に活動した。デイサービス利用者との日頃のコミュニケーションの中から「やっていた・やれること・やりたくても出来ない」部分を、職員一同が共有することが重要であることに気づいた。利用者の役割を引き出すための関わりについては、その関わり方の流れを理解し、どの職員でも同じような対応ができるよう検討した。平成 30 年度は、作成した手順をもとにして、職員と利用者との日頃のコミュニケーションから役割や意欲を引出し、継続して活動する。

また、平成 28 年度の部門目標として取り組んだ「協力して行う仕事を共通理解する」活動についても、目標達成の証明として職員に対してアンケートを実施した。平成 28 年度活動後のアンケート結果と比較し全体として低評価が少なくなり、概ね目標達成された。平成 30 年度においても、更なる職員間の連携を図る為にも、平成 28 年度に組織内のチームワークの向上を図るべく学んだ研修を再度実施する予定である。

平成 29 年度の顧客満足度調査からは、多くの感謝の言葉やねぎらいの言葉が記載されていたが、高い評価を付けた方の中にも、援助に対する率直な意見やアドバイスの記載もされていた。記載された内容は今後の課題として新たに取り組み利用者及び家族の満足度の向上につなげていきたい。

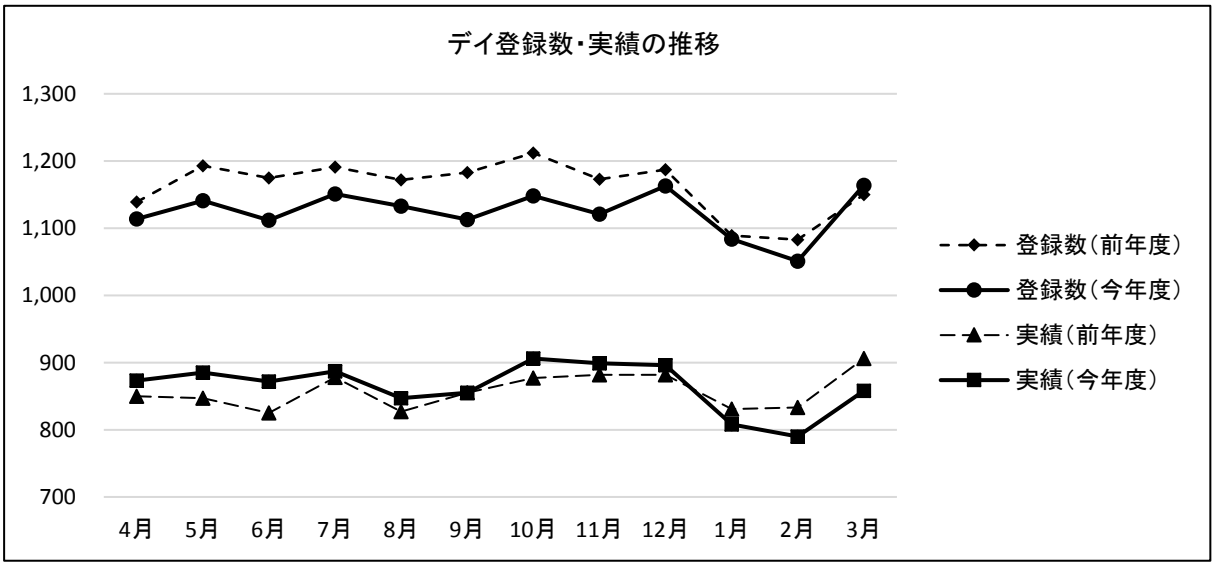
平成 30 年 3 月 31 日

大館市デイサービスセンター大滝
管理者（主任介護員）工　藤　　祐　子

1. 事業実績

(1)サービス実績

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	前年
営業日数	30	31	30	31	30	30	31	30	31	29	28	31	362	362
登録者数(延)	1,127	1,161	1,107	1,123	1,087	1,060	1,089	1,092	1,157	1,105	1,048	1,165	13,321	13,495
当日予定(延)	870	916	913	958	902	897	910	899	952	911	868	938	10,934	10,900
利用人数(延)	825	875	895	912	870	870	888	859	899	878	831	899	10,501	10,376
上:予防/総合実	51	52	52	47	47	49	51	50	51	51	52	52	605	643
中:介護実	91	92	84	82	83	83	79	81	80	83	78	77	993	1,016
下:合計	142	144	136	129	130	132	130	131	131	134	130	129	1,598	1,659
廃止停止	1	6	5	0	1	4	2	0	1	1	1	1	23	28
新規	3	5	0	1	1	3	1	5	3	1	4	0	27	37



(2)要介護度別利用者数

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	延人数	構成比
事業対象者	1	2	12	15	11	13	16	18	21	23	24	23	179	12.6%
要支援1	11	9	8	6	7	7	6	5	4	4	4	4	75	5.3%
要支援2	39	41	32	26	29	29	29	27	26	24	24	25	351	24.6%
要介護1	36	36	35	33	33	35	32	32	32	31	29	28	392	27.5%
要介護2	30	31	27	26	26	26	29	29	30	36	31	29	350	24.6%
要介護3	15	15	14	14	15	16	12	14	13	16	13	14	171	12.0%
要介護4	6	6	5	6	6	4	4	4	3	3	3	4	54	3.8%
要介護5	4	4	3	3	3	2	2	2	2	2	2	2	31	2.2%
計	142	144	136	129	130	132	130	131	131	139	130	129	1,424	100%

2. 行事実施状況

月	行事・レク名	実施日		延人数
4	観桜ドライブ	4/26(水)～5/2(火)	7 日間	169 名
5	外出レク買物(比内道の駅とっと館)	5/22(月)～5/28(日) 5/30 日(火)	8 日間	50 名
6	外出レク買物(康楽館周辺と散歩)	6/26(月)～7/6(木)	11 日間	74 名
	十二所保育園交流会	6/13(火)		32 名
7	外出レク買物(餌釣ダイソー)	7/24(月)～8/5(土)	13 日間	56 名
8	デイ夏祭り	8/14(月)～8/20(日)	7 日間	207 名
9	敬老会	9/4(月)～9/10(日)	7 日間	210 名
10	だまっこ	10/16(月)～10/22(日)	7 日間	210 名
	外出レク紅葉ツアー	10/24(火)～10/31(火)	8 日間	90 名
11	森のおうち交流会	11/21(火)		27 名
12	クリスマス会	12/18(月)～12/24(日)	7 日間	215 名
	十二所保育園交流会	12/7(木)		24 名
1	お正月を楽しもう	1/3(水)～1/9(火)	7 日間	214 名
2	節分	2/3		29 名
3	デイオリンピック	3/19(月)～3/25(日)	7 日間	210 名

3. 研修参加状況

(1)内部研修

月	場 所	研 修 名	講 師
6	デイホール	ケース記録の仕方	川嶋慎一
7	デイホール	接遇	工藤祐子
11	デイホール	感染症	畠山芳人・千葉洋子
1	デイホール	個人情報	伊藤補佐

(2)外部研修

月	研 修 名	場 所	参加者
10	県北老連協職員研修	大館市	野呂祐美
11	社会福祉施設における感染症対策について	大館市	虻川侑希

4. ISO9001 活動報告

【部門目標】 「デイサービス内での役割を持って活動する利用者が増える」

【設定理由】

デイサービスでの過ごし方として、午前・午後共にあらかじめ設定した活動の中から利用者が選択する形で活動に参加している。しかし、利用者自身が出来ることに対しても、安全性を優先してしまい殆どの事を職員側で行っている現状にもある。現在の集団的な過ごし方から利用者の方が役割を持ち「誰かの役に立つ」「ありがとう」と言って貰える環境を作り、利用者の方が楽しみを持ちながら笑顔で生き生きと過ごして貰えることを目的として活動する。

【活動状況】

(1)　現状把握

①　職員が提供している内容の洗い出しの仕方について

「職員がやっていて利用者さんが出来ること」を洗い出した。

②　利用者の方が自主的に行っている活動内容の把握の仕方について

「来所後から帰宅までの時間帯で一週間実施した。※上記内容で　5 月 1 日～5 月 7 日調査

(2)　現状把握実施結果

①について

職員がやっている業務のうち、環境を整えれば利用者にも安全に出来そうな活動を話し合い「14 の項目」があがった。

②について

現在、利用者が自主的に実施している活動として「19 の項目」があがった。

《話し合いの結果》

利用者の方に自然な導き方で「活動・役割」に取り組んでいけるように職員が道を作って行くことが大事である。現状把握した①・②の活動を分類別にまとめ、利用者の方が安全に動きやすい環境を整える事とし「ホール」「下足箱」「畳」「サークル」の 4 グループ分けをし環境から活動した。

(3)　実施内容

【環境】

（ホール班）

・殆どホール内で一日を過ごしている。⇒活動しやい環境を整えた。

・喉が渇いた時に、職員に声を掛けて水を飲んで頂いている。その流れで声を掛ける利用者の方もいる。⇒いつでも遠慮なく冷たい水が飲めるようテーブルにポット（冷水）・コップを準備した。

・脳トレプリントファイルを準備し各テーブルへ回して選んで頂いている。欲しい時にすぐに選べる事ができなく待っている時間があった。⇒いつでも脳トレプリントを選べるように、ホール入口に長テーブルを準備した。個々のスタイルに合わせて自由に

脳トレプリントを選ぶ事ができている。

・朝、お絞り・お茶を出しており、飲んだ後は職員が片付け、洗い物をしている。利用者の方によっては自分の使った物や同席の方の物を手に持って流し台まで持って来てくれる方もいたが、転ぶと危ない等の声掛けをし、職員側で対応していた。⇒利用者の方が選びやすいように各テーブルにお盆を準備した。職員と一緒に話しをしながら片付けを手伝う事が出来ている。その際、職員から「ありがと・労いの言葉」を伝えている。

（下足箱班）

・自分で外履き・内履きを交換している方もおり、名札が小さく探すのに苦慮している。⇒探しやすい・取りやすい下駄箱の整備をした。

（畳班）

・殆どの方がホール内の座席に座って一日を過ごしている。また、リハ訪問の際に、ご家族から足を伸ばして過ごせるようにお願いしたいと。⇒何時でも足を伸ばしてゆっくり休息できる環境を整えている。

※上記内容を実施して行く過程で環境を整えて終わりではなく、「利用者の方が、自主的に役割を持って活動をして行く為には、職員側の働き掛け・きっかけをどのように作っていくか」がこれからの課題でなるのではと意見があがった。

【利用者とのコミュニケーション】

利用者の方とコミュニケーションを図り、その内容をケース入力し職員間で共有した結果、自主的活動・役割として「漬物作り」を実施することとした。

（サークル班）

活動に向けてのポスターを掲示し「漬け物作り」を話題にしコミュニケーションを図っている。主となる活動の利用者以外の方からも「漬物の名人」と言われている方、「何種類かの漬け物の付け方」等新たな情報を得ることができた。必要物品・作り方に関しては利用者を先生として職員側が教えて貰うという立場で活動をすることができた。

今回の「漬物作り」の事例から、職員誰でも同じ関わり方が出来るように、一連の流れの手順を作成した。また、この活動をしていく上でコミュニケ―ション能力が重要であり、改めて職員間で利用者とのコミュニケ―ションについての原則を話し合っている。その内容も一連の流れの手順に加えて何時でも確認出来るようにすることができた。

【まとめ】

平成 29 年度は、一つの事例から課題を見つけ活動し一連の流れの手順作成で終了となった。また、活動を得て利用者の方を知る材料として日々のコミュニケーションが重要であると職員間で共有することが出来た。平成 30 年度は、作成した手順をもとに、日々の援

助の中でコミュニケ―ションを図っていき、その内容を職員間で共有し「役割を持って活動する利用者が増える」に向けて継続して取り組んでいく。

平成 29 年度　大館市社会福祉事業団ﾎｰﾑﾍﾙﾊﾟｰｽﾃｰｼｮﾝ　事業報告

ヘルパーステーションは、可能な限り住み慣れた自宅で安心して暮らしたいという利用者の思いを汲み取りサービスを提供してきた。日常生活における自由な自己決定の積み重ねが「尊厳ある生活」の基本と考え、自立支援をめざし利用者自らが創っていく意思を尊重しながら支援した。

平成 29 年度は、活動件数が月平均 661.6 件（平成 28 年度 711.8 件）であった。この減少傾向は 3 年連続で続いている。ヘルパーの人員確保の困難さによる提供体制の不足に加え、体調不良による入院やショートステイ利用、施設入所等の住み替えの影響が考えられる。限られた人数で効率の良い支援を考えると、支援を行っている援助時間を調整することで効率的にスケジュールを組む必要がある。

福祉輸送サービスの依頼は今年も増加傾向となっているが、ヘルパーの人員不足により援助対象が限定的となっている。低額な額で病院への移動を支援することは社会福祉法人の責務としても重要性を増してきている。

ISO9001 の部門目標活動においては、気付きのレベルアップを図りたいと「危険予知・原因分析・再発防止」を学ぶことを目標として活動したが、より深く学びたいとの職員の声により平成 30 年度も継続して活動する。平成 28 年度実施した記録表の流れをスムーズにする活動は、仕事の流れを見直すことにより、「訪問」から「請求」までの業務の流れも滞りなく改善された状態が維持されている。

最後に、訪問介護は、在宅介護の最前線に位置する重要なサービスであり、様々な生活スタイルで暮らす地域の高齢者に寄り添いながら、その人らしい生活を支えていくことに誇りを持ち事業に臨んでいくことを誓い、事業報告とする。

平成 30 年 3 月 31 日

大館市社会福祉事業団ホームヘルパーステーション
管理者（サービス提供責任者）　羽　澤　　紀　子

1．事業実績

（1）利用人数（実）

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	構成比
訪問型（総合）	3	3	8	8	10	20	21	23	21	22	23	22	**184**	26.2%
介護予防訪問介護	23	24	21	20	14	7	5	4	3	1	2	0	**124**	17.7%
訪問介護	34	32	29	33	29	26	29	28	30	33	35	32	**370**	52.7%
障がい者支援	3	3	1	1	2	3	2	2	2	1	2	2	**24**	3.4%

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	構成比
福祉輸送(再掲)	34	24	21	30	27	15	15	24	18	20	25	23	**276**	
計	63	62	59	62	55	56	57	57	56	57	62	56	**702**	100.0%

(2)活動件数

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	構成比
訪問型(総合)	9	12	32	48	51	83	94	108	97	97	86	103	**820**	10.3%
予防訪問介護	95	119	95	75	66	33	20	22	16	8	11	0	**560**	7.1%
訪問介護	463	491	493	498	452	404	429	430	420	410	365	410	**5,265**	66.3%
障がい者支援	9	5	1	1	2	6	3	3	4	1	3	3	**41**	0.5%
福祉輸送	98	100	105	86	81	102	101	118	112	119	107	125	**1,254**	15.8%
計	674	727	726	708	652	628	647	681	649	635	572	641	**7,940**	100.0%

2. 要介護度別利用者数

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	構成比
事業対象者	3	3	8	8	10	20	14	17	15	15	16	14	**143**	21.0%
要支援1	8	9	7	5	5	1	2	2	1	1	1	1	**43**	6.3%
要支援2	15	15	15	15	11	6	10	8	8	7	8	7	**125**	18.4%
要介護1	14	12	11	13	10	8	10	10	12	14	15	11	**140**	20.6%
要介護2	10	9	8	8	9	7	9	8	9	10	10	11	**108**	15.9%
要介護3	7	8	7	9	8	10	9	9	8	7	8	9	**99**	14.5%
要介護4	3	3	3	3	2	1	1	1	1	2	1	1	**22**	3.2%
要介護5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	**1**	0.1%
計	60	59	59	61	55	53	55	55	54	56	60	54	**681**	100.0%

3. 研修参加状況

(1) 内部研修

月	研 修 名	場 所	講 師	人数
4	マニュアルの見直し			7
4	接遇を知って介護サービスをスムーズに	ヘルパー室	伊藤 裕子 工藤 恵子	7
5	認知症ケア ～ホームヘルパーに出来る事	ヘルパー室	伊藤 裕子 工藤 恵子	7
6	夏バテ予防① ～栄養バランスを考えた調理	十二所公民館	伊藤 裕子	7

月	研 修 名	場 所	講 師	人数
7	危険予知・原因分析・再発防止を学ぶ①	在宅面談室	伊藤 裕子	7
8	倫理・法令遵守 ～プライバシー保護と個人情報保護	ヘルパー室	伊藤 裕子 工藤 恵子	7
11	感染症の対応	つくし会議室	わかば薬局	8
12	調理実習② ～高齢者の食べやすい調理	十二所公民館	工藤 恵子	8
1	救急救命	ヘルパー室	工藤 恵子	8
3	危険予知・原因分析・再発防止②	居宅面談室	伊藤 裕子	8

(2) 外部研修

月	研 修 名	開催地	参加者
4	感染対策の研修会 ～もう一度確認しておきたい感染対策の基礎知識	大館市立総合病院	工藤 恵子

4. ISO9001 活動報告

【部門目標】

「危険予知・原因分析・再発防止」について学ぶ

【設定理由】

ヒヤリハット報告書よりも不適合の提出が多いことから、気付いているがヘルパー間の話合いだけで終わり、是正処置までに至っていないことでヒヤリハットの提出が出来ずに不適合につながっているのではないかと考えた。また、気付きのレベルアップにより不適合を減らしたいと考え目標に取り組むこととした。

【活動状況】

月	取組事項	内容
4	目標の設定	H29・2月の話合いで、気付のレベルアップを図りたいと目標を設定した。
5	現状把握と原因分析 ～ヒヤリハットが上がらないのは何故	連環図を使用し原因分析した。4点の問題点が上がった。 ①定義を覚えていない。 ②提出に時間がかかる。(文章をつくるのに時間がかかる) ③事故等に繋がらないと思う。(いつもの事と思う) ④ケースに記録し周知したことで終了と考えしまう。

月	取組事項	内容
6	対策の立案①	ヒヤリハットの定義について個々に不明点・追加削除が無いか確認した。
8	対策の実施①	ヒヤリハットの定義について研修を行った。
9		内部研修「原因分析・再発防止」に参加した。
1	対策の立案②	・原因分析をした。結果として目標の「危険予知・原因分析・再発防止」について一つ一つを勉強していく必要を確認した。 ・2班に分かれて危険予知について勉強し発表することとした。
2	対策の実施	・2班で勉強した内容を発表した。 ・KYT 基礎 4R 法の進め方で再度研修を行うこととした。
3		・危険予知トレーニングを行った。

【まとめ】

研修を繰り返すことで、職員一人一人が発表する機会が増えたと感じている。「危険予知」について以前よりも掘り下げて考えることが出来るようになった。しかし今回だけでは不安があるので今後も続けたいという意見が上がった。今後も「危険予知・原因分析・再発防止」についても理解を深めることが出来るように取り組みたい。深く掘り下げることで、ヒヤリハットの提出が増え不適合が減ることを期待したい。

平成 29 年度　指定居宅介護支援事業所おおたき　事業報告

平成 29 年 4 月からは介護予防・日常生活支援総合事業が開始され、地域包括支援センターより委託されている要支援区分利用者について、関係機関と連携を図りながらサービス体系の移行を行なった。

部門内の品質目標として、会議参加者の満足度が向上するように取り組んだ。利用者の望む生活の実現に向け、利用者本人を含め、関わりを持つ人が同じ目標を持ち、その目標達成に向けて協働できるように会議進行のスキルアップを目指している。平成 30 年度にも同目標を掲げ、引き続き取り組んでいく。

部門内の研修では虐待への対応や医療連携のポイント、介護支援専門員の役割について学び、外部研修については、各団体や組織が企画する研修に参加し、関連領域に関する学びの機会を設けることができた。このほかにも、大館市居宅介護支援事業所連絡会や地域包括支援センターが定期で開催している事例検討会に参加し、知識や技術の研鑽を図っている。また、大館市在宅介護医療連携推進協議会における各取り組みにも参加し、行政を含む関係機関と協働しながら大館市の在宅医療の普及等について取り組んできた。

年間の給付管理件数は、平成 28 年度（2,324 件）に対し 2,284 件と 1.7％の減となった。「要介護 3～5」の中重度者といわれる方の割合は、37.0％となり、前年度の 39.6％と比較して減少している。中重度者の施設等への入所の影響が考えられる。

地域包括ケアシステム内における、医療と介護の連携については、ケアマネジャーの存在はますます大きなものとなっている。医療との連携を通じ、医療機関からの信頼はもとより、患者が安心して在宅での療養が可能となるよう協働していたい。

第7期の介護保険事業計画内には、基本理念として「高齢者が生きがいと尊厳をもち、安心して暮らせる地域社会づくり～ひとりぼっちにさせない地域支え合い～」とうたわれている。高齢者が生きがいと尊厳をもちながら安心して暮らしていくためには、ケアマネジャーによるケアマネジメントの展開過程を通じて、介護保険法の基本理念でもある自立支援を実現させていくことが求められる。当事業所においては、ケアマネジャー個々の資質向上に努め、地域の居宅介護支援事業所のリーダーとして今後も大館市全体の利益を見据え活動していくことを誓い、事業報告とする。

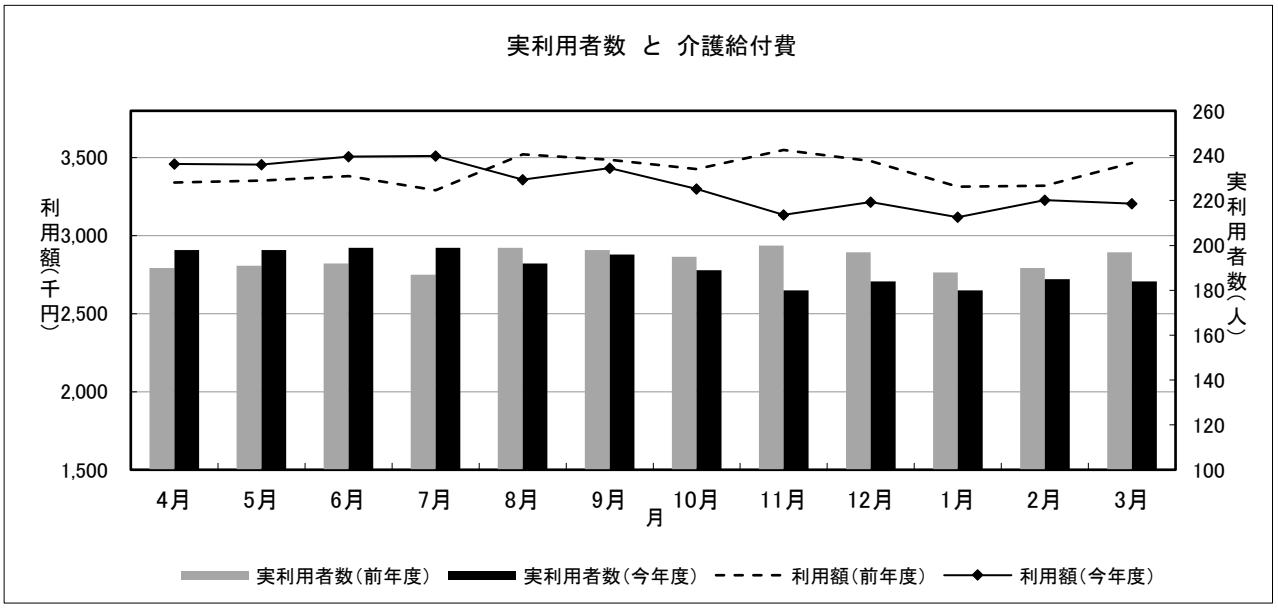
平成 30 年 3 月 31 日

指定居宅介護支援事業所おおたき
管理者　伊　藤　　政　利

1. 事業実績

(1)サービス実績

	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	前年実績	対前年比
請求利用者数(実)	H28	190	191	192	187	199	198	195	200	197	188	190	197	2,324	2,187	106.3%
	H29	198	198	199	199	192	196	189	180	184	180	185	184	2,284	2,324	98.3%
予防受託件数	H28	20	19	17	19	17	19	19	19	18	17	16	16	216	211	102.4%
	H29	16	15	15	14	12	13	14	15	15	15	15	15	174	216	80.6%
廃止・停止件数	H28	6	5	11	8	9	4	5	8	4	10	6	4	80	94	85.1%
	H29	7	11	1	8	4	9	11	6	5	10	3	1	76	80	95.0%
新規依頼数	H28	11	9	7	8	8	11	2	8	7	8	7	11	97	84	115.5%
	H29	1	7	7	7	3	7	3	6	6	4	4	7	62	97	63.9%



(2)要介護度別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	延数	構成	計
要介護1	64	63	61	57	55	58	55	52	55	52	52	55	679	29.7%	63.0%
要介護2	57	57	61	62	64	65	64	62	66	67	69	67	761	33.3%	
要介護3	45	48	41	43	39	41	37	36	35	35	34	37	471	20.6%	37.0%
要介護4	21	19	22	24	20	20	23	21	19	20	21	17	247	10.8%	
要介護5	11	11	14	13	14	12	10	9	9	8	9	8	128	5.6%	
計	198	198	199	199	192	196	189	180	184	182	185	184	2,286		

2. 研修参加状況

(1) 内部研修

月	研 修 名	場 所
4	マニュアルの振り返り	在宅事業所面接室
6	記録の方法	在宅事業所面接室
7	エコマップの書き方	つくし苑会議室
9	介護支援専門員の役割	つくし苑会議室
11	医療連携のポイント	在宅事業所面接室
12	ICF の考え方	在宅事業所面接室
2	虐待対応	つくし苑談話面接室

(2) 外部研修

月	研 修 名	場 所	参 加 者
9	糖尿病サポーター研修	北秋田市	児玉京子
9	みんなで支える認知症勉強会	大館市	目時恵、黒澤繁子 石垣恵美子、児玉京子 上田美穂子、平澤陽
10	秋田県北能代山本地区老人福祉施設地域包括・在宅介護研修会	大館市	石垣恵美子
11	ICF に基づく生活行為の実現に向けた目標の立て方研修	大館市	上田美穂子
11	対人援助スキルアップ研修	大館市	児玉京子
11	主任介護支援専門員研修	秋田市	目時恵
12	キャラバンメイトフォローアップ研修	北秋田市	伊藤恵子

3. ISO9001活動報告

【部門目標】　会議参加者の満足度が向上する。

【設定理由】

利用者の望む生活の実現に近づけていくためには、利用者本人の主体性や家族の協力を含め、様々な社会資源の関わりが必要である。生活の目標を共有するツールとして、ケアプランを用いるが、ケアプランの目標を共有する場であるサービス担当者会議の実施について、介護支援専門員によって進め方に悩みがあることがわかった。利用者本人を含め、関わりを持つ人たちが同じ目標を持ち、その目標達成に向かって協働できるよう、

会議進行についてのスキルアップを図りたい。

【活動状況】

月	取組事項	内容
4	ゴールの共有、年間活動計画の策定	方向性の検討を行なう
5	課題分析	課題の整理を行なう
6	現状の把握①	満足度とは何か検討する
7	現状の把握②	会議参加者の満足度調査の方法検討
8	現状の把握③	会議参加者の満足度調査の方法検討
9	現状の把握④	会議参加者の満足度調査の方法検討
10	現状の把握⑤	会議参加者の満足度調査方法の決定
11	現状の把握⑥	調査の実施
12	現状の把握⑦	調査の実施
1	現状の把握⑧	調査の実施
2	現状の把握⑨　対策の検討①	調査結果の分析　改善方法の検討
3	対策の検討②	改善方法の検討及び決定

【まとめ】

現状を把握する時点で「把握する方法の検討」など、時間がかかってしまい、当初予定していた計画の通りには進めることができなかった。そのため、取り組みが大幅に遅れるに至る。

次年度も同様の活動目標を設定し、引き続き取り組みを行なう。

平成 29 年度　大館市地域包括支援センターおおたき　事業報告

地域の高齢者が住み慣れたまちで自立して生活していくこと、言い換えれば「地域包括ケアシステム」を構築していくため、地域包括支援センターは総合相談、個々の状況に応じた介護予防マネジメントや介護予防事業など、様々な活動を行っている。

平成 29 年度は、地域包括ケアシステムの構築に向けた取り組みとして、地域ケア会議の開催に力を入れ取り組んだ。

地域ケア会議は、包括支援センター担当圏域単位で実施するもの（「地域ケア会議」）、そして対象者個別の事例をもとにして実施するもの（「地域ケア個別会議」）があるが、「地域ケア個別会議」については、開催頻度を増やすことができた。その結果、個別の事例をもとに地域のニーズ・課題を抽出することができ、また、「地域ケア会議」においては、個別事例から抽出された地域のニーズ・課題を共有し、市に報告することができた。

平成 29 年度における総合相談業務については、月毎にバラつきはあるものの、年間推移として前年度を上回る件数となっている。

また、平成 29 年度よりスタートした介護予防・日常生活支援総合事業（以下「総合事業」）の移行に伴い、業務が煩雑となりその対応に追われる 1 年ではあったが、これまで介護予防給付を受給していた利用者が総合事業へスムーズに移行できるよう対応に努めた。

平成 29 年度から市より受託することとなった「生活支援体制整備事業」は、地域の支え合い・助け合いを創出していく活動を求められているが、これについては生活支援コーディネーターを中心に、地域へ足を運びながら住民への説明や普及活動を行ってきた。この活動によって、センター職員がこれまで以上に地域を知り地域とつながる機会となった。

そのほか介護予防事業や地域支援事業については、平成 28 年度に重点目標に置いた地縁組織との協働活動が土台となり、参加人数の確保や地域住民とのつながりの強化、そして微力ながら地域の活性化に向けて住民と共に取り組むことができたと感じる。

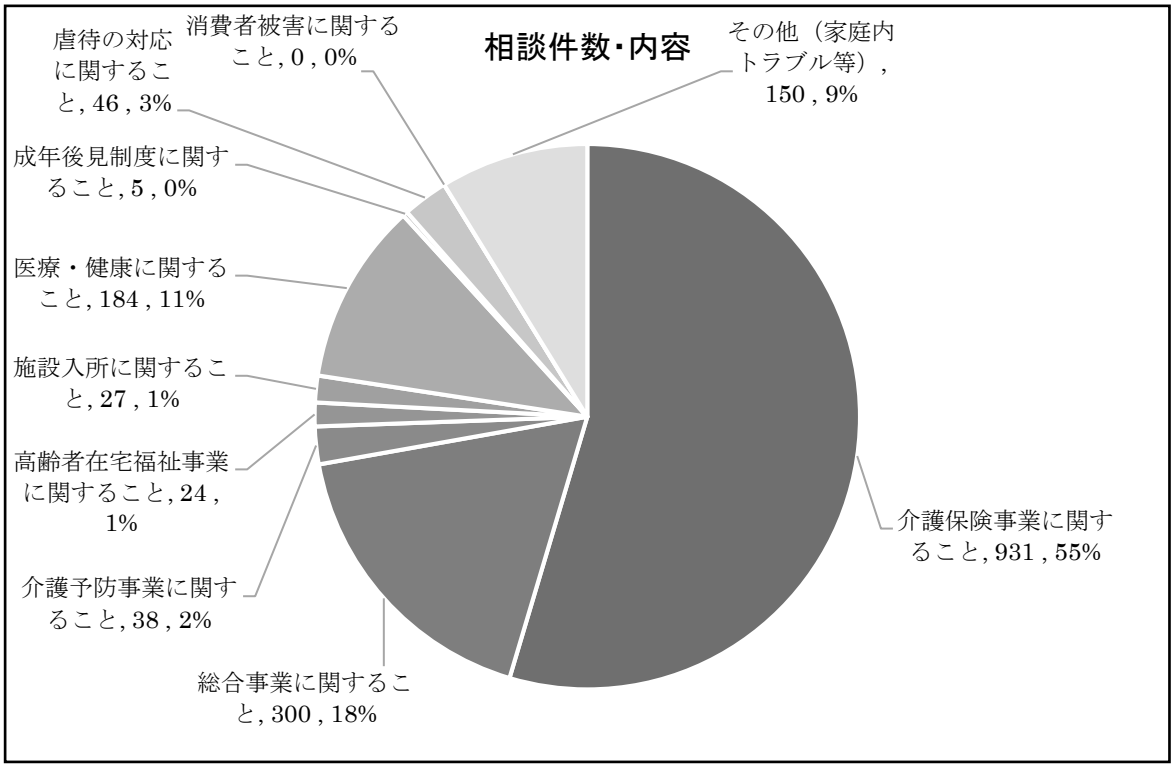
市の第7期介護保険事業計画における基本理念である「高齢者が生きがいと尊厳をもち、安心して暮らせる地域社会づくり～ひとりぼっちにさせない地域支え合い～」の実現に向けて、センターの活動については市との連携・協働のもと、市内にある他の地域包括支援センターのモデルとなるべく活動していくことを誓い、事業報告とする。

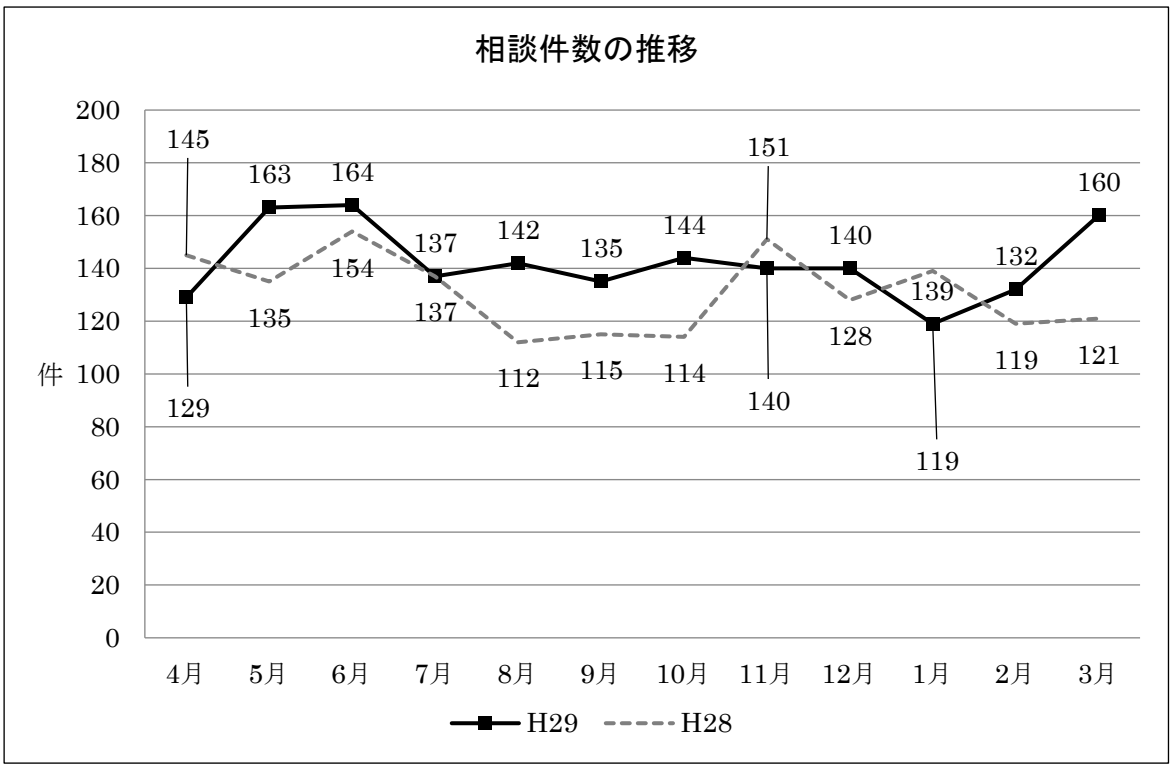
平成 30 年 3 月 31 日

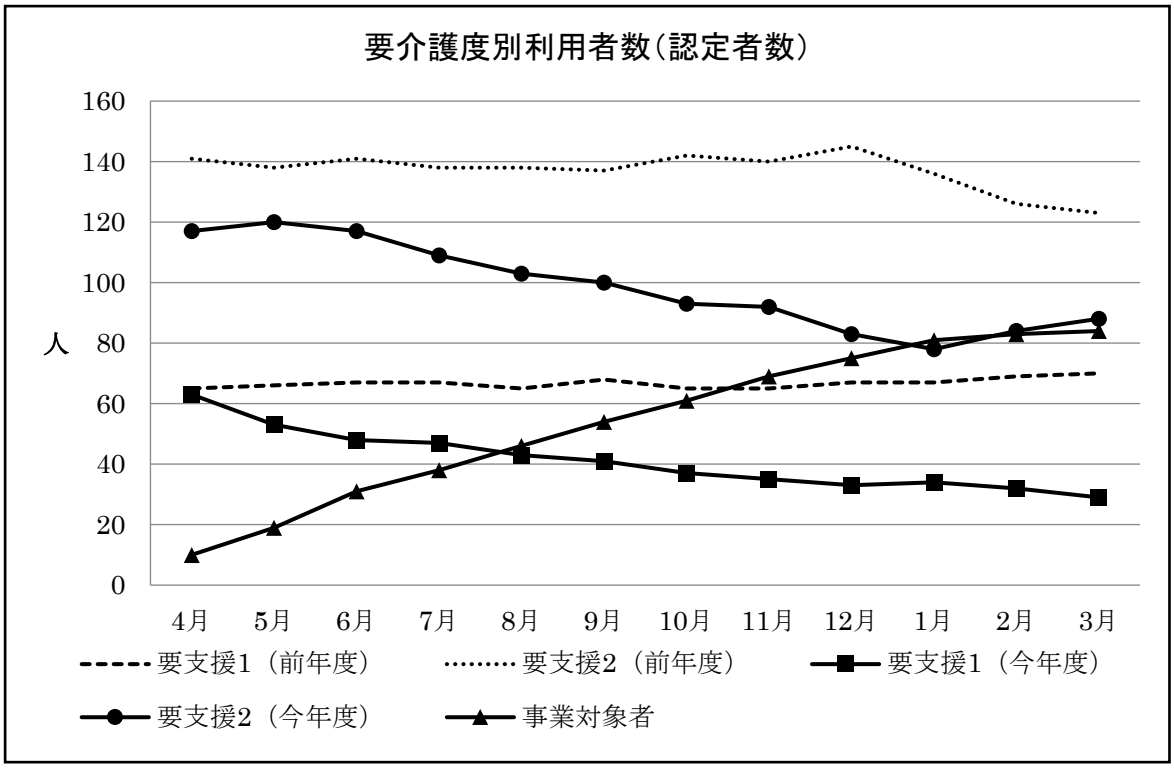
大館市地域包括支援センターおおたき
管理者（主任介護支援専門員）　畠　山　　美　香

【包括的支援事業およびその他の事業】

１．事業実績







２．会議開催状況

（１） ネットワーク協力員関係

開催日	会議名	概　要
4月28日	地域ネットワーク協力員会議	新任協力員への委嘱状交付 事業報告・事業計画説明、その他意見交換等
9月5日	地域ネットワーク協力員会議	『暮らしやすいまちづくり』ワークショップ
3月1日	地域ネットワーク協力員会議	これまでの会議『地域づくり』に関わるフィードバック 『生活支援体制整備事業』に係る説明および実績報告

（２） 地域ケア会議

回	開催日	概　要	年度末の状況
1	4月24日	地域ケア個別会議（独居高齢者認知症） 支援者（担当ケアマネ）が困難を感じているケース	在宅生活の継続
2	7月26日	地域ケア個別会議（独居高齢者） 地域課題に関するケース	在宅生活の継続
3	8月18日	地域ケア個別会議（高齢若年世帯） 支援が必要だがサービスにつながっていないケース	在宅生活の継続
4	9月29日	地域ケア個別会議（高齢若年世帯）	在宅生活の継続

回	開催日	概　要	年度末の状況
		地域課題に関するケース	
5	10月18日	地域ケア個別会議（若年高齢世帯） 地域課題に関するケース	在宅生活の継続
6	11月28日	地域ケア個別会議（独居高齢者） 個別課題・地域課題に関するケース	在宅生活の継続
7	12月20日	地域ケア個別会議（高齢者世帯） 地域課題に関するケース	在宅生活の継続
8	3月1日	地域ケア会議 地域ケア個別会議において抽出された地域課題について	

（３）　高齢者虐待対応会議

回	開催日	概　要	年度末の状況
1	4月17日	息子から要介護状態の母に向けた身体的・心理的虐待　※ケース① ⇒緊急保護、家族支援およびサービス調整	在宅生活の継続
2	4月18日	精神疾患を抱える息子から母に向けた心理的・経済的虐待（前年度から引続き）　※ケース② ⇒支援継続の結果分離保護	施設入所
3	5月24日	息子から要介護状態の母に向けた不適切な対応※ケース③ ⇒虐待なしとするが、在宅サービス導入および経済的支援を実施	ショートステイ利用
4	9月13日	認知症高齢者の主介護者となる夫からの身体的虐待　※ケース④ ⇒緊急保護、家族支援	グループホーム入所
5	9月22日	継続会議　※ケース④ ⇒虐待対応支援の継続	
6	9月22日	継続会議　※ケース③ ⇒放棄、放任虐待として認定し支援継続	
7	1月23日	継続会議　※ケース③ ⇒虐待対応支援の終結	
8	3月3日	息子から要介護状態の母に向けた身体的虐待※ケース⑤	ショートステイ利用

回	開催日	概　要	年度末の状況
		⇒緊急保護（入院→ショートステイ）	

４．生活支援体制整備事業

大館市生活支援体制整備事業は、住民主体の助け合い・支え合い活動による生活支援（外出支援、買い物代行、その他）を創出していくことを狙いに平成 29 年度より受託している事業であるが、事業開始以降、おおむね月１回開催されている生活支援体制整備事業連絡会に参加し、継続的に大館市及び他の圏域の第2層生活支援コーディネーターと情報共有を図ってきた。また、外部研修等への参加を通して他市町村の取り組みなども参考として活動した。

当法人では、担当する日常生活圏域（十二所・二井田・真中・上川沿の4地区）を、それぞれ分けて地区ごとに活動に取り組む方針を立て、まずは十二所地区から、関係者のネットワーク化や資源状況の見える化に努め、支え合い体制づくりを推進してきた。

二井田・真中・上川沿の3地区については、十二所地区の取り組みを紹介しながら、事業説明を進めているところだが、地域支え合い推進会議の設置の前提となる、各地区での住民向け勉強会開催までには至らなかった。勉強会を開催するためには、その前提として地域を支える様々な組織を現在担っている人たちへの事前の事業説明が必要で、これらの地域住民の協力が不可欠である。地域住民の十分な理解がないまま開催案内を出しても、そもそもこの事業に対する関心を持ってもらうことや、勉強会に対する参加者の確保が難しい状況であることから、各地区の特徴を生かしながら地域住民とともに丁寧に事業を進め、今後の勉強会開催や地域支え合い推進会議の設置に努めていきたい。

①　地域支え合い推進会議の開催状況

月日	場所	協議体委員	協力者
12 月 18 日	十二所公民館	十二所地区　10 人	5 人

②　勉強会の開催状況

月日	場所	開催内容	参加者
8 月 9 日	十二所公民館	事業説明 地域助けあい体験ゲーム	25 人
9 月 5 日	北部シルバーエリア	地域ネットワーク協力員を対象にワークショップ	20 人
11 月 11 日	真中公民館	真中地区民生委員・福祉員を対象に事業説明、ワークショップ	18 人
1月 11 日	特別養護老人ホーム山館苑	事業説明、質疑応答	10 人

月日	場所	開催内容	参加者
3 月 1 日	十二所公民館	地域ネットワーク協力員を対象に今年度の事業報告と、9 月 5 日のワークショップの結果報告	20 人

５．介護予防事業など

(1) 生きがい健康づくり支援事業

（年間計 51 回開催、参加延べ人数 523 名）

内容：脳トレーニング、軽体操、レクリエーション

・レクリエーション内容：①ゴルフ　②創作活動　③ボーリング④太極拳
⑤スカットボールなど

(2) 認知症予防事業 （年 1 回開催、21 名参加）

テーマ：頭と身体を使って認知症を予防しよう

講師：田中美香（大館市デイサービスセンター大滝　機能訓練指導員（理学療法士））

(3) 家族介護者教室 （年 3 回開催）

■　7月（19 名参加）

テーマ：認知症の人　そして家族を支えるために

講師：小貫弥生氏　（デイサービスゆいまーる　管理者）

■　11月（22 名参加）

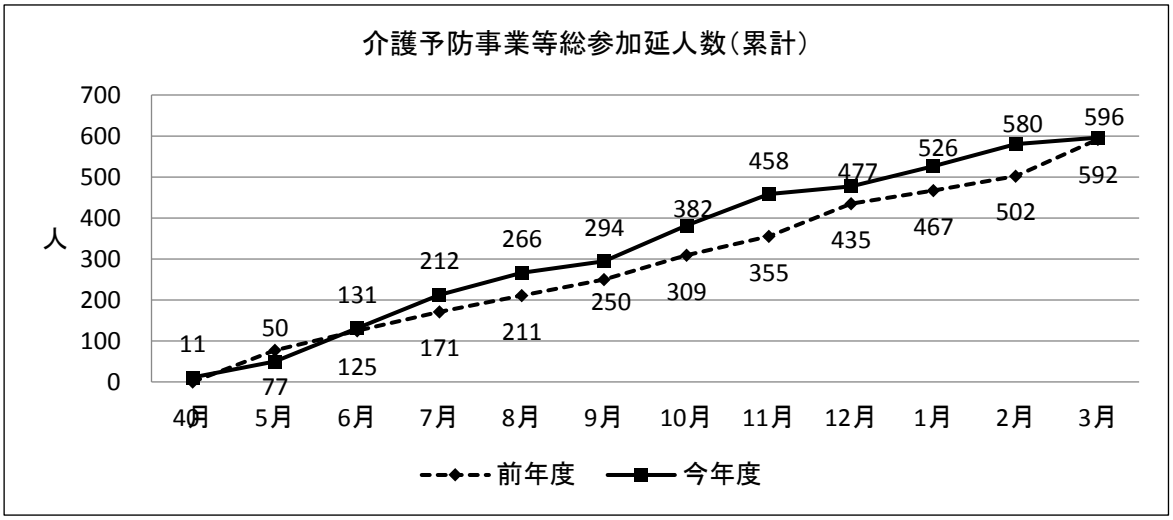
テーマ：高齢者の口腔ケア・お口の健康について

講師：菅原久美子氏　（大館福祉環境部　歯科衛生士）

■　3月（11 名参加）

テーマ：介護保険について知ろう

講話：町井脩徒　（包括おおたき）



６．その他の会議等への参加状況

会 議 名 等	回数
大館市在宅医療・介護連携推進協議会実務者会議	3 回/年
大館市在宅医療・介護連携推進協議会「専門職の勉強会・場づくり」専門部会	9 回/年
グループホーム山王台運営推進会議	6 回/年
グループホーム鮎乃里運営推進会議	6 回/年
大滝温泉サロン千歳運営推進会議	2 回/年
特別養護老人ホームつくし苑入所調整会議	3 回/年
特別養護老人ホーム山館苑地域連携会議	1 回/年
認知症カフェ	5 回/年
認知症サポーター養成講座	4 回/年
防火診断（消防署との同行訪問）	1 回/年
成章中・成章小の地域安全・安心推進事業実行委員会	3 回/年
大館市地域包括支援センター連絡会	毎月
包括おおたき圏域居宅連絡会	毎月
生活支援体制整備事業連絡会	毎月
町内会（自治会・区長会）、老人クラブ、地域団体、専門職団体の集会への参加協力	随時
各地区の民生児童委員会議への出席	随時
各地区のサロン集いの場などへの訪問参加	随時

７．研修等への参加状況

月	研修名	場 所	参加者
5	H29 年度 秋田県地域包括在宅介護支援センター協議会セミナー	秋田市	伊藤 政利
6	H29 年度 配偶者暴力相談支援ネットワーク会議	大館市	市村 めぐみ
	認知症サポーター向けフォローアップ研修	鹿角市	虻川 江美子
8	H29 年度 介護支援専門員再研修	秋田市	市村 めぐみ
9	地域包括ケアセミナー	秋田労災病院	虻川・畠山
10	H29 年度 秋田県高齢者虐待対応現任者研修	秋田市	町井 脩徒
	H29 年度 秋田県北・能代山本地区老人福祉施設・地域包括・在宅介護職員研修会	大館市	町井 脩徒
	H29 年度 県北地区精神保健福祉研修会	大館市	町井 脩徒
11	認知症サポーターステップアップ講座 指導者養成研修	秋田市	虻川 江美子

	H29 年度　東北ブロック地域包括在宅介護支援センター職員研修会	秋田市	畠山　美香
12	認知症サポーターステップアップ研修	北秋田市	虻川　江美子

（生活支援コーディネーター関係）

月　日	場所	開催内容
6 月 12～13 日	遊学舎（秋田市）	コミュニティソーシャルワーク実践者養成研修
8 月 29～30 日	遊学舎（秋田市）	平成29年度生活支援コーディネーター養成研修
10 月 3 日	北部シルバーエリア	生活支援コーディネーター情報交換会（大館鹿角圏域）
11 月 10 日	県南（横手・大曲）	秋田県助け合い活動視察研修（県南コース）
3 月 18 日	秋田看護福祉大学	地域支え合いフォーラムin大館にシンポジストとして参加

8．ISO9001活動報告

【部門目標】　　地域ケア会議の開催により地域ニーズを把握する

【設定理由】

地域包括支援センターは、地域住民や専門機関との連携を強化し地域包括ケアシステムの構築を図る必要がある。その要となる『地域ニーズ』を把握するためのひとつの手段として地域ケア個別会議が位置付けられるが、これまでの会議開催頻度では地域全体を把握することが難しかった。

そのため、まずは会議開催頻度を増やし、最終段階としてニーズを把握できるということに目標を置いた。

【活動状況】

	項　目	内　容
4	目標の共有 会議に対する意識調査アンケートの実施	設定目標などを共有し活動計画作成 担当圏域居宅 CM（包括職員含）へのアンケート項目を確認し調査を実施
5	アンケートの集計結果を確認	集計結果から会議の日程・参集範囲を検討
6	会議参加者の確認 参加者・居宅介護支援事業所 CM への周知	参加の対象となるメンバーを確認し周知依頼 会議開催時の包括スタッフ役割分担

7～8	地域ケア個別会議の開催	月 1 回の個別会議を開催　計 6 回
1	会議の振り返り 地域ケア会議の打ち合わせ	地域ケア個別会議から見えた地域ニーズ、今後の取り組みを共有
3	地域ケア会議の開催 まとめ	ネットワーク協力員、会議参加協力者、圏域居宅 CM、行政参加の地域ケア会議開催 活動の振り返り

【地域ケア会議開催頻度】

種　別	平成 28 年度	平成 29 年度	比較
地域ケア個別会議	3 回	7 回	4回の増
地域ケア会議	1 回	1 回	増減なし

【把握できた主な地域ニーズ】

・移動手段が限られる
・買い物することが難しい
・集う場が少ない
・地域住民の関係が希薄化している
・安否確認ができない

【まとめ】

活動目標となる地域ニーズを把握することができ、また、生活支援コーディネーター業務とのマッチングにより示しやすい形ができた。

そして、会議の積み重ねにより、改めて地域ケア会議の目的を共有でき、関係者とのつながりが強くなったと感じている。

しかし、会議参加に消極的・拒否的な方、負担を感じるなどの声もあり、この取組を通じて未だ地域住民や関係機関の理解が不十分なことも見え、今後の不安や課題も見えた。これらを踏まえると地域ケア会議を推進していく取り組みを今後も続けていくことが大切であり、次のステップアップにつながる 1 年となった。

平成 29 年度　大館市ケアハウスほうおう　事業報告

（1）大館市ケアハウスほうおう（一般型）

年々身体機能の低下は感じられ、一般型の入居者でも介護の必要な状態の方が増えている。そのため、社会的な交流が少なくなり、外出範囲も狭くなっている。平成 29 年度は健康で楽しみのある生活を感じることができるよう支援してきた。

平成 28 年度実施したアンケートでは、特に介護予防や健康に関する関心は高く、その結果を踏まえ平成 29 年度の取り組みとして身体機能維持につながる「勉強会」を実施した。また、他者との交流や、楽しみのある生活の支援として「作品つくり」「外出支援」を実施した。特に外出支援は「外出支援回数」「参加者延べ人数」共に前年を上回る結果となった。今後も計画の段階から入居者の意向を取り入れ、選択性、自主性等、自己決定を意識した取り組みを継続する。

平成 29 年度の顧客満足度調査では、「体調が悪い時でも対応してくれるので安心である」に対する評価が高かった。一般入居者の受診状況、健康状態について把握しにくい状態にあったが、アセスメントの実施による面談の機会が増えたことが評価につながったと思われる。平成 30 年度はアセスメント情報を、生活場面でどのように活用して支援につなげていくか検討する。

（2）特定施設入居者生活介護事業

特定入居者の契約件数は、年間を通してほぼ満床であった。また、一般入居者の殆どの方から「24 時間の介護が必要になったら特定契約をしたい」という意向が確認出来ている。特定入居者の退居理由は殆どが特別養護老人ホームへの移設であり、理由として身体機能の低下からケアハウスでの生活が困難になったことがあげられた。入居中に身体機能を維持することが課題となることから、個別ニーズとして機能訓練指導員と連携を図りながら、機能訓練実施していくか検討した。

毎年顧客満足度調査を実施しているが、今までは「入浴」「食事」「排泄」と言った基本的な生活援助に対する期待が聞かれていたものの、平成 28 年の調査では「健康管理」「生活の楽しみ」といった個別ニーズに対する期待が聞かれるようになった。これを踏まえ平成 29 年度は入居者の個別の意向を確認しながら、ひとりひとりが生活に楽しみのもてる活動を提供した。また、ご家族にもその実施状況や、健康状態について定期的に伝えた。

平成 30 年度は、入居者自身の身体機能を活用し、安全に自立した動作が行なえる環境を作る。

（3） 配食サービス事業

平成 29 年度より、大館市介護保険事業の地域支援事業として事業を開始した。夕食の配食と安否確認を行ってきた。平成 30 年 3 月の総配食数は 153 食となり、利用

者数が伸びていることから、地域に密着したサービス提供が定着しつつある。また、市内の他事業者への情報提供も行い、配食サービス実施事業者も増えた。大館市内において当事業所が果たした公益的な役割は大きい。

平成 30 年 3 月 31 日

大館市ケアハウスほうおう
施設長　渡　部　　清　美

1．部門別報告

（1）介護部門

平成 29 年度は顧客満足度調査の結果を受け、「外出機会の増加」を目標に、入居者のニーズに合わせた外出機会、楽しみのもてる活動の提供を行った。結果、平成 28 年度より外出回数、外出延べ人数共に増加した。

しかしその反面、行事自体のマンネリ化や、大人数の参加者を募る外出行事のニーズの減少等、新たな課題が浮き彫りとなる結果となった。外出行事自体は好評であった為、H30 年度も継続して実施する。また、内容についてもアンケートを実施するなど、より個別のニーズに対応したものを提供する。

（2）看護部門

平成 28 年度の顧客満足度調査で、ご家族より利用者の健康管理の要望が多かった為、平成 29 年度は、健康に関する「健康管理」「骨折予防」「感染予防」について、取り組みを行った。毎月の健康チェックの見直しや骨折予防として、リハビリ主催の勉強会の実施、昼食前の下肢筋力運動、口腔体操の実施、感染予防対策として、職員の研修、昼食前の感染予防対策の呼びかけ、ポスターの掲示等実施した。

結果として、健康状態の把握や体調不良時の情報共有と迅速な対応に繋げる事ができ、感染拡大には至らなかった。骨折に関しては、今年度 7 件と多かった為、骨折予防対策は、次年度も引き続き取り組んでいく。

（3）栄養部門

平成 29 年度も、季節感を感じて頂けるようなバイキング食や行事食の提供を心掛け、顧客満足度調査において良い評価をいただくことができた。

おやつ作りは、レクリエーションの中に取り組み、みんなのおやつタイムと名称を変更した。おやつ作りを楽しむスタイルから、おやつの時間を楽しむスタイルに変更したところ、参加者が増え毎回好評であった。昨年度実施できなかったサルコペニアチェックを今年度は健康チェック時に、ふくらはぎ周囲長、握力測定を年3回実施できた。結果として、本人の ADL 変化とサルコペニアチェックが連動する事が確認でき、数値により的確に判断

することができた。しかし、一般入居者の方については、サルコペニアが疑われても介入が難しくアプローチができなかったため、次年度の課題として継続し取り組む事とした。

（4）相談部門

平成 29 年度は一般入居者に対象を絞り「意欲の持てる活動の提供」に取り組んだ。一般入居者とは言え、何かしらの援助がなければ活動に参加することができず、施設内で過ごす時間が多くみられた。対象者に興味のあることについてアンケート実施。結果「創作活動」「勉強会」「外出ツアー」を実施した。計画の段階から入居者の意見を確認、反映することで、より参加に興味が持てるよう取り組んだ。特に健康に関する活動については興味が高く、介護予防につながる内容で実施することができた。今後も入居者の心身機能に働きかけるための活動の実施を継続する。

（5）事務部門

各居室に設置されているような台数の多い設備については、交換部品を買い置きするなどし、迅速に対応することができた。また、機器の入替についても年度内で必要な分は確保することができた。

居室の出窓、温水器交換などの大規模な工事については、工事概要調査、見積りを依頼し、新年度以降大館市に予算要望するにあたっての準備を行なった。

2. ISO9001 「品質目標活動報告」

【部門目標】外出機会の増加

【設定理由】

顧客満足度調査にて「外食」「旅行」「買物」等といった「外出」に関する要望が、特に一般入居者から多くあった。平成 29 年度は、今まで以上に外出する機会を増やし、外出人数の増加を図りたい。

【活動状況】

月	項　目	内　　容
4月	年間活動計画の策定	年間の活動計画を策定した。
5月	現状把握	現状把握として、昨年1年間提供した外出実績（外出行事、個別外出含む）について調べた。
6月	外出に関するアンケートの実施	アンケート内容は、外食ツアーで行きたい場所と日帰り旅行の場所について行った。
7月	アンケート結果の集計	外食に関しては回転寿司、ラーメン店が９件、ファミリーレストラン８件、焼肉４件という結果であった。日帰り旅行につい

月	項 目	内　容
		ては、希望がバラバラであった。また、外食ツアーの実施については今後隔月で行う事とした。
8月～ 3月	アンケート結果に基づいた外出計画の立案、外出サービスの提供	8 月　外食ツアー（ラーメン店） 10 月　日帰り旅行（場所未定） 11 月　外食ツアー（焼き肉店） 12 月　シャイニングストリート見学 １月　外食ツアー（場所未定） ３月　外食ツアー（場所未定）
2月	顧客満足度 調査の結果	外出の行事を増やし、外出する機会を増やしてきたが、思った以上に行事に対する評価が低かった。外出行事に限らず、行事自体がマンネリ化している事から、行事に対する期待感が薄れてきていると推測された。
3月	効果の確認	外出回数、参加延べ人数共に昨年度より増えた。 割合としては、外出回数が 13 回増の 37%増に比べ、延べ人数が 22 人増の 15%増で目標は達成された。

【まとめ、歯止め】

これまでのケアハウスでは、買物ツアーも日帰り旅行もマイクロバスなどを利用し、10 数名の参加者がいるのが通常であった。それが近年は一般入居者の高齢化が進んだこともあり、外出行事への参加人数が著しく減少していた。それでも一部の利用者から外出、外食へのニーズが高い事もありこういった取り組みを行った。特定入居者に限らず、一般入居者においても施設外に出るということは社会との関わりを持つ機会であると共に、気分転換であったり、生活上の活動であったりと、さまざまな意味合いがあると考える。

身体状況の変化により外出が難しくなった入居者が多くなったとはいえ、外出に関しては根強いニーズがあるので、今年度実施した外食ツアーの回数の増加やシャイニングストリート見学等の行事は来年度以降の行事予定としても組み込み、また個別外出についても来年度以降も計画的に実施していくこととした。

３．事業実施状況

月	実施日	行事部門	実施日	管理部門
４	12	買物ツアー	2	総合避難訓練
	27	外食ツアー　買い物代行	3	宿直室流し台混合栓修繕
				105 号室　電気温水器取り換え修繕
			13	特殊浴槽バブル交換修繕
			19	緊急連絡装置点検
			24	飲用水　水質検査
５	10	買い物ツアー	8～10	ガラス清掃
	17	鶏めし弁当昼食会	10	エレベーター点検
			11	115 号室　電気温水器取り換え修繕
			13	職員給湯の蛇口修理
			16	緊急連絡装置点検
			19	浄化槽保守点検
			23	自動ドア点検
			24	125 号室　213 号室　218 号室居室等修繕
				206 号室窓枠修繕
			30	衛生害虫駆除(館内、厨房、トイレ等)
６	14	買い物ツアー	5	216 号室　トイレ水漏れ修繕
	21	外食ツアー(寿司)	6	身障用トイレ、ウォシュレット取り付け
	30	バイキング	7	男性一般浴槽バルブ交換修繕
			8～9	空調機器清掃点検
			9	浄化槽保守点検
			10	エレベーター点検・エレベーターロープ取り換え修繕
			14	電気保安協会設備定期点検
			16	食器洗い器の取り換え（市）
７	12	買物ツアー	3	102 号室窓修繕
	13	お楽しみ昼食会	5	食堂　223 号室　網戸修繕
	19	成章小学校3年生交流会		女性風呂排煙窓ワイヤー修理
			6	貯湯タンク弁取り換え修理
				エレベーターブレーキ・チェックスイッチ取り換え修理
			10	緊急連絡装置点検
			12	食堂エアコン、基盤、モーター、取り換え修理

月	実施日	行事部門	実施日	管理部門
			24	スチコン・ドアパッキン、庫内灯交換
				101、123、217 号室窓修繕
			27	機械室、地下水槽位調整
				122 号室窓修繕
8	5	つくし苑・ほうおう合同夏祭り	3	102 号室　窓修繕
	9	買い物ツアー	5	食堂・223 号室網戸修繕
	22	外食ツアー		女性浴室排煙窓ワイヤー修理
	30	バイキング昼食	6	貯湯タンク弁取り換え修理
	30	作品作り・みんなのおやつタイム		エレベーターブレーキ・チェックスイッチ取り換え修理
			10	緊急連絡装置点検
				食堂エアコンの基盤、モニター取り換え修理
			12	スチコンのドアパッキン、庫内灯交換
			24	101、123、217 号室窓修繕
				機械室、地下水槽水位調整
			27	122 号室窓修繕
9	13	敬老会	1	食堂ブラインド修理
	20	買い物ツアー	6	浄化槽保守点検
			8	緊急連絡装置点検
			12	エレベーター点検
			19	浴槽濾過機修繕
			28	125 号室、アコーディオンカーテン取っ手修理
10	11	買い物ツアー	1	消防設備等特殊消防用設備点検
	20	昼食きりたんぽ会	3	飲料水水質検査
	25	日帰り旅行（弘前方面）	5	蓄熱暖房機のメンテナンス
				緊急連絡装置点検
			11	女性浴室換気扇交換
			18	108 号室　流し台パッキン交換
				エレベーター点検
			23	電気設備点検
			25	雨水マンホール清掃
			26	105 号室　窓修理
				106 号室　トイレタンク修理
				浄化槽保守点検

月	実施日	行事部門	実施日	管理部門
			27	機械浴室換気扇取り換え修理
11	8	買い物ツアー	2	浄化槽保守点検
	22	外食ツアー	4	ナースコールPHS修理
	24	バイキング		食堂ドアワイヤー部品交換
				機械浴室、換気扇修理
			6	緊急連絡装置点検
			14	108 号室　流し台パッキン交換
			15	エレベーター点検
			16	窓ガラス、サッシ清掃
			17	特定施設点検
			18	床清掃
			21	自動ドア点検
12	12	買い物ツアー	1	特定建物調査
	20	クリスマス会・森のおうち交流会		緊急連絡装置点検
			5	一般浴女性浴槽、天井浴槽扇修理
			8	浄化槽保守点検
			19	厨房設備メンテナンス
			25	厨房流し台、水漏れ修理
			27	206 号室　トイレパッキン修理
				116 号室　トイレ洗面所S字水漏れ修理
1	10	買い物ツアー	5	浄化槽保守点検
	26	だまっこ鍋		緊急連絡装置点検
			9	FAX回線修理
			15	女性浴室シャワー水漏れ修理
				女性脱衣室洗面所水流調整
			22	女性浴室洗面所サーモ交換
				106、116 号室　洗面所カードリッジ交換
			24	108 号室　換気扇修理
			25～26	貯水槽凍結修理
			27	貯水槽ヒーター取り換え
			29	省エネ診断（ガス、電気使用状況）

月	実施日	行事部門	実施日	管理部門
2	1	開園記念日昼食会	1～2	館内床ワックスがけ
	14	買い物ツアー	2	浄化槽保守点検
	21	外食ツアー	8	一般浴室トイレのセンサー取り換え
				106 号室　温水器取り換え
			14～15	食堂照明器具交換(20 台)
			16	合併処理施設保守点検
				厨房トイレ、洗面所、 衛生有害虫防除
			17	120 号室　サッシ修理
			22	エレベーター点検
			23	105 号室　窓修理
			26	湯沸し室　ガスコンロ取り換え
3	3	ひな祭り	8	施設内火災報知器点検
	14	買物ツアー	9	浄化槽保守点検
	21	彼岸(ぼたもち)	12	115 号室　水漏れによる床の張り替え
				居室水回り点検
			13	厨房廃棄設備点検
			20	エレベーター点検
			23	合併処理施設保守点検
			28	廊下の壁修理
				ろ過機点検、蓄熱温水器点検
				220 号室　温水器交換取り換え

4. 研修実施状況

(1)内部研修　※法人合同研修含む

月	日	内部研修(法人含)	参加者
4	21	介護記録の理解と実践	介護・看護職員
	26	(法人研修)ISO部門目標活動報告会	全職員対象
6	22	食中毒を防ぐ 3 つの原則・6 つのポイント	介護・看護職員
7	20	緊急時の対応	介護・看護職員
8	25	高齢者虐待ゼロの実践　コンプライアンスの徹底と理念の共有 プライバシー保護	全職員
	24	(法人研修)OJT研修	指導職員
	25	(法人研修)リーダーシップ研修	ステップⅢ職員
9	1・22	根本原因の分析と体系的な是正処置	ステップⅣ職員

月	日	内部研修(法人含)	参加者
	20	看取りケアの実践	介護・看護職員
	27	倫理及び法令遵守	全職員
10	11	ナーシングバイオメカニクスに基づく生活支援技術の理論と実践	介護・看護職員
	19	時常時災害時の対応について	全職員
	19・20・26	(法人研修)腰痛予防	全職員
12	5・8・11	感染症及びまん延の予防について	全職員
	26	接遇	介護・看護職員
1	23	認知症ケア「ユマニチュード」について	介護・看護職員
2	21	復命研修　「共に歩む認知症ケア」「A-デザイン」	全職員

(2)外部研修

月	日	外部研修(会議含)	場所	参加者
6	20	H29 年度秋田県栄養士会県北地区会研修会	北秋田市	管理栄養士　明石淑子
	全 12 日間	介護支援専門員　更新研修	秋田市	相談員兼副主任介護員　石田浩幸
7	6	社会福祉施設における労働災害防止等講習会	鹿角市	副主任看護師　田子晃代
8	18	高齢者虐待防止セミナー	秋田市	介護員　佐々木美枝子
9	22	福祉保健施設、事業者等看護職員研修	秋田市	副主任看護師　田子晃代
10	6	栄養指導技術研修会	秋田市	管理栄養士　明石淑子
	28	栄養情報提供書研修会	仙台市	管理栄養士　明石淑子
	30	秋田県北・能代山本地区　老人福祉施設・地域包括・在宅介護職員研修会	大館市	相談員兼副主任介護員　石田浩幸
11	7	秋田県老人福祉施設協議会	秋田市	主任　宮腰徹
	24	社会福祉施設における感染症対策研修会	秋田市	副主任看護師　田子晃代
	29・30	秋田県老人福祉施設協議会研修 I	横手市	介護員　佐々木美枝子
12	6	大館福祉環境部館内給食施設関係者等研修会	大館市	管理栄養士　明石淑子
3	12	介護保険事業者説明会	北秋田市	相談員兼副主任介護員　石田浩幸

5. ほうおう 利用者状況報告

集計日　　平成 30 年 3 月 31 日現在

(1) 年齢別・性別の状況(単位:人)

年齢 / 性別	～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～94	95～99	100～	計
男	0	0	1	1	1	2	1	0	0	**6**
女	0	0	2	3	5	10	14	1	1	**36**
計	0	0	3	4	6	12	15	1	1	**42**
平均男(83.5 歳)　女(87.3 歳)　全体(86.8 歳)　最高(104 歳)　最低(71歳)										

(2) 在所期間の状況(単位:人)

期間 / 性別	1 年未満	1 年以上 3 年未満	3 年以上 5 年未満	5 年以上 10 年未満	10 年以上 15 年未満	15 年以上 20 年未満	20 年以上 25 年未満	25 年以上	計
男	0	4	1	0	1	0	0	0	**6**
女	6	6	7	7	9	1	0	0	**36**
計	6	10	8	7	10	1	0	0	**42**
平均　男(3 年 9 ヶ月)、女(6 年)　最高　男(10 年)、女(18 年 11 ヶ月)全体　(5 年 9 ヶ月)									

(3) 入退所の状況(単位:人)

		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
新規入所者	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	**0**
	女	0	3	1	0	1	1	0	0	1	0	0	0	**7**
退所者	男	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	**1**
	女	1	1	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0	**5**
月末在所者数	男	7	7	7	7	7	7	6	6	6	6	6	6	
	女	33	35	36	36	37	36	36	36	37	37	36	36	
	計	40	42	43	43	44	43	42	42	43	43	42	42	

(4) 入所待機者の状況(単位:人)

	大館市内	他市町村・県外	合計
平成 29 年 3 月末	7(内夫婦 2 組)	8(内夫婦 3 組)	**15(内夫婦 5 組)**
平成 30 年 3 月末	7(内夫婦 2 組)	8(内夫婦 3 組)	**15(内夫婦 5 組)**
増　減	0	0	**0**

（5）介護度別の状況（単位：人）

要介護度	支援 1	支援 2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計
平成 29 年 3 月末	4	4	9	11	4	2	0	33
平成 30 年 3 月末	1	1	11	8	6	0	0	31
増　　減	−3	−3	2	−3	2	−2	0	

（6）特定入居者介護度別の状況（単位：人）

要介護度	支援 1	支援 2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計
4 月	0	0	4	10	3	1	0	18
5 月	0	0	5	10	4	1	0	20
6 月	0	0	5	10	4	1	0	20
7 月	0	0	5	10	4	1	0	20
8 月	0	0	5	10	4	1	0	20
9 月	0	0	6	9	5	0	0	20
10 月	0	0	6	9	5	0	0	20
11 月	0	0	6	9	5	0	0	20
12 月	0	0	6	9	5	0	0	20
1 月	0	0	6	8	6	0	0	20
2 月	0	0	8	7	5	0	0	20
3 月	0	0	8	5	7	0	0	20
計	0	0	70	106	57	5	0	
割　合	0%	0%	29.4%	44.5%	23.9%	2.1%	0%	

平成 29 年度　大館市立老人福祉センター　事業報告

平成 29 年度は、大きなトラブル等が無かったことから、計画通りに開館し事業運営を行うことができた。

利用者数の増加を図るために、女性浴室の水栓設備を更新し、温度調整の利便性の向上や、長靴用の下足置き場を設置するなど、利用者の視点で改善に取り組んだ。ただ、利用者の方々から寄せられた苦情要望が例年以上に多く、特に新聞の中止やシャワーの不具合については、書面と口頭の両方で寄せられ、迅速な対応が求められた。投書の中には、館内の美化に対するお褒めの言葉も数点あり、手作りの作品や生花を飾るなど、館内外全体での環境整備への取り組みの成果と捉えている。

利用者数については、例年人数が減少する夏季も含め、今年度は年間を通じて大きな増減もなく安定した人数となり、目標を大幅に上回る実績となった。変わり風呂は、土用の丑の日と１１月２６日(いい風呂の日)の 2 回実施し、普段とは違う入浴を多くの方々に楽しんでいただくことができ、好評の投書もあった。

のぼりの設置や HP での情報提供により、遠方からお越しいただきコメントを寄せた利用者の方もおり、情報発信の重要性を再認識した。施設を利用される方からの反応が、投書や口頭でタイムリーに返ってくることは、有り難いことであり、結果として利用人数に反映されることを励みにしながら、今後も安全で気持ちよく利用していただくための努力を継続していきたい。

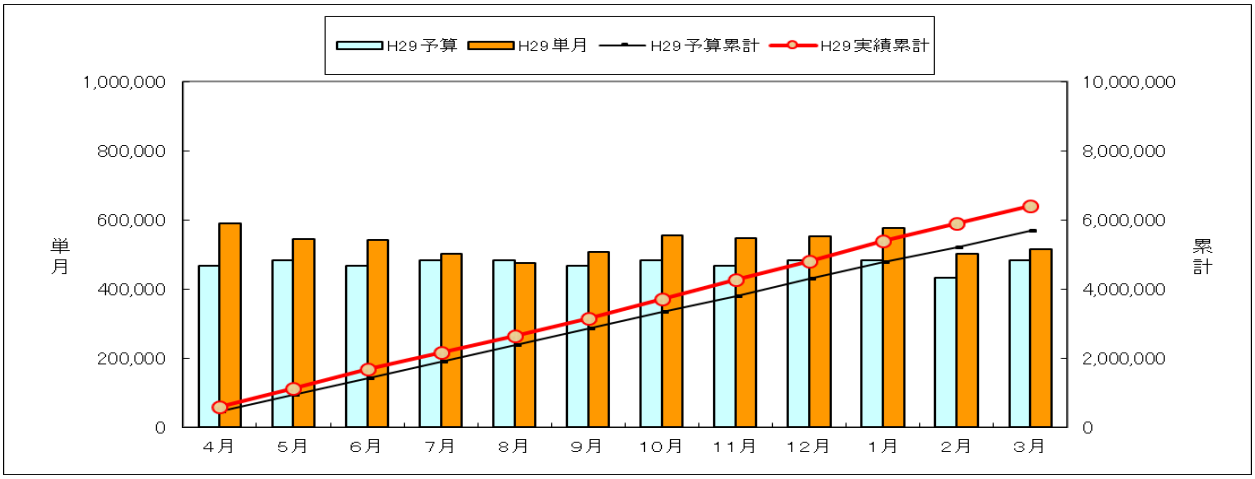
平成 30 年 3 月 31 日

大館市立老人福祉センター
所　長　　花田　繁盛

1.　月別・利用区分別利用実績表

H29			4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計	前年	前差
入浴		老人	3,157	3,289	3,221	2,911	2,907	2,959	3,313	3,271	3,361	3,296	2,936	3,297	37,918	33,266	4,652
		一般	226	264	245	240	254	242	242	209	216	260	212	204	2814	2543	271
		子供	26	26	13	11	24	14	10	13	19	25	11	19	211	202	9
		計	3,409	3,579	3,479	3,126	3,185	3,215	3,565	3,493	3,596	3,581	3,159	3,520	40,943	36,011	4,932
ひる	個室	老人	194	69	137	148	84	145	104	114	104	186	140	132	1,557	1,620	-63
		一般	9	1	3	6	3	7	3	26	4	15	4	5	86	66	20
		子供	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	5	5	0
		計	203	70	140	154	87	152	107	140	108	206	144	137	1,648	1,691	-43
	大広間	老人	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	5	9	-4
		一般	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	-6
		子供	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	5	0
		計	0	0	0	0	0	5	0	0	0	5	0	0	5	15	-10
よる	個室	老人	6	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2	0	10	12	-2
		一般	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	4	4	0
		子供	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		計	6	0	0	0	0	0	2	4	0	0	2	0	14	16	-2
	大広間	老人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		一般	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		子供	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
身障等無料			70	88	60	64	88	234	63	67	50	61	53	49	947	936	11
合計			3,688	3,737	3,679	3,380	3,360	3,606	3,737	3,704	3,754	3,848	3,358	3,706	43,557	38,669	4,888
回数券・老人			1,969	2,034	1,978	1,861	1,848	1,849	2,019	2,030	2,175	2,065	1,887	2,135	23,850	20,288	3,562
回数券・一般			117	93	90	79	80	85	86	84	89	64	70	81	1,018	691	327
回数券 1500			13	12	13	8	16	13	12	12	18	17	17	13	164	145	19
回数券 3000			93	86	78	77	70	72	86	80	89	79	76	78	964	816	148
回数券 2300			9	7	10	7	6	8	7	10	7	7	6	7	91	68	23

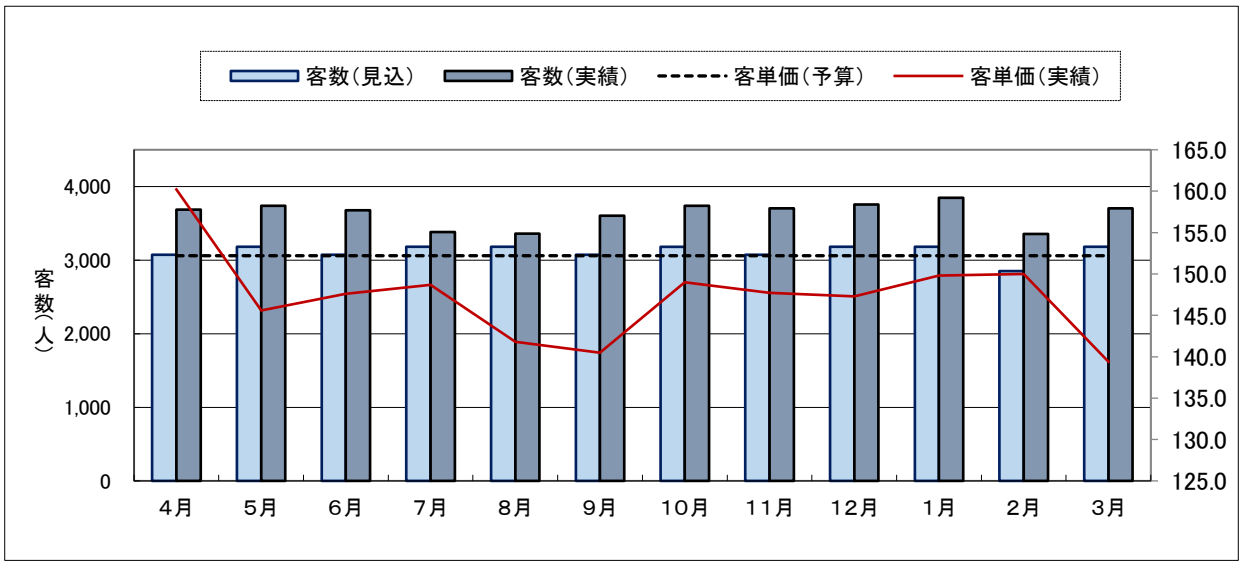
2.　売上高、単月・累計



単位:円

	予算	収入実績	予算対比	予算累計	実績累計	累計対比
4月	467,406	590,950	126.4%	467,406	590,950	126.4%
5月	484,148	544,260	112.4%	951,554	1,135,210	119.3%
6月	467,406	542,890	116.1%	1,418,960	1,678,100	118.3%
7月	483,996	502,460	103.8%	1,902,956	2,180,560	114.6%
8月	483,996	476,490	98.4%	2,386,925	2,657,050	111.3%
9月	467,406	506,580	108.4%	2,854,358	3,163,630	110.8%
10月	484,148	556,880	115.0%	3,338,506	3,720,510	111.4%
11月	467,406	547,190	117.1%	3,805,912	4,267,700	112.1%
12月	484,148	552,880	114.2%	4,290,060	4,820,580	112.4%
1月	484,148	576,380	119.1%	4,774,208	5,396,960	113.0%
2月	434,074	503,380	116.0%	5,208,282	5,900,500	113.3%
3月	484,148	516,760	106.7%	5,692,430	6,417,260	112.7%

3.　利用者数、客単価（前年比較）



	客数見込	客数実績	客数対比	客単価予算	客単価実績	客単価対比	一日当たり平均客数	営業日数	備考
4月	3,071	3,688	120.1%	152.2	160.2	105.3%	131.7	28	
5月	3,181	3,737	117.5%	152.2	145.6	95.7%	128.9	29	
6月	3,071	3,679	119.8%	152.2	147.6	97.0%	131.4	28	
7月	3,180	3,380	106.3%	152.2	148.7	97.7%	116.6	29	
8月	3,180	3,360	105.7%	152.2	141.8	93.2%	115.9	29	
9月	3,071	3,606	117.4%	152.2	140.5	92.3%	128.8	29	9/18 敬老の日無料日
10月	3,181	3,737	117.5%	152.2	149.0	97.9%	128.9	29	
11月	3,181	3,704	120.6%	152.2	147.7	97.0%	132.3	28	11/2 ﾎﾟﾝﾌﾟ修理(pm 休業)
12月	3,181	3,754	118.0%	152.2	147.3	96.8%	129.4	29	12/31、1/1 短縮営業
1月	3,181	3,848	121.0%	152.2	149.8	98.4%	132.7	29	
2月	2,852	3,358	117.7%	152.2	150.0	98.6%	129.2	26	
3月	3,181	3,706	116.5%	152.2	139.4	91.6%	127.8	29	
計	37,401	43,557	116.5%	152.2	147.3	96.8%	127.7	341	

平成 29 年度　大館市ふれあいセンターやまびこ　事業報告

ふれあいセンターやまびこは、保育事業、放課後児童クラブの事業をはじめ、幼児から高齢者までの各年代層が気持ちよく利用できる生きがいづくりや健康づくりの場として、関係各施設や地域と連携を図りながら、利用者の側に立ったサービスに努めてきた。

平成 29 年度の利用者数は、23,009 人と平成 28 年度より 477 人減少した。屋外の子ども広場・ふれあいの森公園の利用は 175 名増加し、屋内の施設では放課後児童クラブ「にこにこクラブ」が 232 人増加したものの、中学生を含む一般の利用者が 419 名減少し、それにともない幼児が 341 人の減となったことが大きい。

今後は施設設備の点検などの安全を図りながら、交流の場としてのふれあいセンターの機能を一層発揮し、地域や関係各機関との連携を強め、時代の変化に対応しながら、利用者及び市民の要望に応えられるよう、職員一丸となって利用促進や事業展開に努めることを誓い、事業報告とする。

《利用状況》

(1)子育て中の親子や、孫を連れての一般の来館者については、利用者数の減少となったが、子ども広場等屋外の利用は昨年よりも増加している。

(2)幼児から高齢者までの多世代交流事業は、「成章保育ルーム森のおうち」を開園したことでより一層活発になり、成章小学校、十二所保育園や老人福祉施設への働きかけを行い、交流事業を実施してきた。今後は、利用されている幼稚園、保育所等との交流もしていきたい。生きがい・健康づくりの場として実施しているフラワーアレンジメント教室、屋外のグランドゴルフも好評を得ており、引き続き、活動の場を提供していきたい。

(3)「森のおうち」、「にこにこクラブ」の行事は、入所者はじめ地域の方々の参加も多く、今後も広報活動も含め、一層充実した活動内容にしていきたい。

(4)「にこにこクラブ」については、制度改正により一昨年度から対象者を小学校6年生までに拡大するとともに、利用時間をこれまでより 30 分延長し、保護者が利用しやすくしたことにより、登録児童数が若干増加した。今後は、活動のメニューやプログラムを多彩にするなど工夫を凝らし、児童が楽しく過ごせる環境になるよう努め、利用者の増加を図る。

平成 30 年 3 月 31 日

大館市ふれあいセンターやまびこ
管理者　芳 賀　利 彦

1.　平成 29 年度　ふれあいセンター利用状況調べ

平成 30 年 3 月 31 日現在(月の下段は前年度実績)

月	成章保育ルーム森のおうち	にこにこクラブ	幼児	小学生	一般・中学生含む	子ども広場・ふれ森公園	見学	計	主な利用団体及び事業
4	**268**	**626**	**267**	**93**	**340**	**396**	**10**	**2,000**	フラワーアレンジメント・十二所グランドゴルフ
	251	593	209	75	336	254	8	1,726	
5	**296**	**663**	**277**	**83**	**254**	**949**	**8**	**2,530**	十二所グランドゴルフ・フラワーアレンジメント・城南保育園分園・子育て相談室・錦木保育所
	269	648	346	94	352	1269	10	2,988	
6	**331**	**695**	**194**	**98**	**264**	**670**	**72**	**2,324**	十二所グランドゴルフ・フラワーアレンジメント・鹿角あおぞら子ども園・下川沿保育所・早口小・花輪にこにこ保育園・こどもプラス
	326	798	166	68	162	787	20	2,327	
7	**282**	**732**	**184**	**71**	**192**	**551**	**1**	**2,013**	十二所グランドゴルフ・フラワーアレンジメント・成章小
	289	738	283	62	343	562	2	2,279	
8	**251**	**699**	**244**	**87**	**237**	**699**	**5**	**2,222**	十二所グランドゴルフ
	250	633	210	79	194	481	20	1,867	
9	**287**	**639**	**239**	**66**	**308**	**1,074**	**4**	**2,617**	十二所グランドゴルフ・フラワーアレンジメント・有浦小・釈迦内保育園・扇田保育園子育て支援センター・とっと工房なかよしとっと・成章小・十二所保育園
	275	649	352	171	649	804	14	2,914	
10	**299**	**743**	**347**	**138**	**741**	**972**	**10**	**3,250**	第30回ボランティアフェスティバル・花岡保育所・十二所保育園・城南子育て支援室・東館小・山館児童館・川口小・八幡子ども園・城西小・扇田小
	259	652	221	44	346	870	16	2,408	
11	**289**	**697**	**178**	**80**	**192**	**126**	**0**	**1,562**	フラワーアレンジメント・にこにこ食堂
	288	651	166	68	176	147	0	1,496	
12	**290**	**618**	**35**	**13**	**99**	**0**	**0**	**1,055**	フラワーアレンジメント・包括おおたき健康教室
	283	596	111	75	211	45	0	1,321	
1	**257**	**584**	**14**	**4**	**41**	**4**	**5**	**909**	フラワーアレンジメント

月	成章保育ルーム森のおうち	にこにこクラブ	幼児	小学生	一般・中学生含む	子ども広場・ふれ森公園	見学	計	主な利用団体及び事業
	277	523	160	46	180	2	0	1,188	
2	**286**	**615**	**10**	**3**	**35**	**0**	**5**	**954**	フラワーアレンジメント・包括おおたき健康教室
	315	609	121	82	143	0	0	1,270	
3	**281**	**676**	**246**	**90**	**252**	**20**	**8**	**1,573**	包括おおたき健康教室
	357	665	231	102	282	65	0	1,702	
計	**3,417**	**7,987**	**2,235**	**826**	**2,955**	**5,461**	**128**	**23,009**	
昨年	3,439	7,755	2,576	966	3,374	5,286	90	23,486	
前年比	△22	232	△341	△140	△419	175	38	△477	

2. 平成 29 年度 にこにこクラブ 事業報告

月	行 事 内 容	参加人数
4	７（金）にこにこクラブ開講式 １９（水）新入生を迎える会 ２４（月）避難訓練（火災）	４１人、保護者等１７人 ３６人 １９人　森１５人
5	１７（水）じゃがいも植付け ２４（水）さつま芋の植付け	４１人 ３４人
6	１４（水）おやつ作り（ホットケーキ） ２１（水）誕生日会（４・５・６月生まれの人） ２７（火）～３０（金）七夕の飾り作り	３５人 ３６人
7	７（金）七夕集会 １４（金）夕涼み会（森のおうちとケアハウスと交流） ２４（月）野外活動・じゃがいもの収穫 ２７（木）カレーライス　クッキング	１２人 ４０人、保護者等６２人 ３５人 ４６人、保護者５人
8	１（火）泥団子つくりに挑戦しよう会 ５（土）事業団［夏まつり］ ９（水）流しそうめん大会 １８（金）総合避難訓練 ２３（水）スイカ割り（森と交流）	３８人 ４３人、保護者１人 ３８人、森１２人 ３５人、森１２人

月	行　事　内　容	参加人数
９	７（水）おやつ作り ３０（水）誕生日会（７・８・９月生まれの人）	３８人 ３８人
１０	２（月）合同防犯訓練 野外活動・さつま芋の収穫 ３（火）～　ハロウィーンパーティー衣装作り １０（火）野外活動・北欧の杜（バス利用） ２４（火）野外活動・焼いも会 ハロウィンパーティー （ケアハウス、つくし苑訪問）	２５人、森１１人 ２５人 ４０人　保護者７人 ４１人 ４２人
１１	１５（水）おやつ作り（さつま芋餃子） １８（土）にこにこ食堂 ２９（水）誕生日会（１０・１１・１２月生まれ）	３６人 ２０人、森３人、保護者５人 ３９人
１２	２５（土）クリスマス会 ２８（水）にこにこクラブ忘年会	４３人 ２９人
１	４（木）平成３０年度にこクラ会員募集開始（　～２月３日まで） ９（金）昔遊びの会 １２（火）作って食べよう会(だまっこ鍋)	 ２８人、保護者等１人 ３５人 ３７人　保護者１人
２	２（金）節分・豆まき ７（水）避難訓練（暴風雪・着衣訓練） ２１（木）誕生日会（１・２・３月生まれ）	２８人 ３７人、森１３人 ３８人
３	２（金）ひなまつり会 １６（金）にこにこクラブ閉講式 ２８（水）お別れ会	２９人 ３６人、保護者等６人 ４４人

平成 29 年度　年間事業報告（成章保育ルーム森のおうち）

月	日(曜)	行 事 名	参 加 者	参加人数
4	5(火)	入園式	入園児 15・保護者 18･来賓 6	39
	24(月)	やまびこ避難訓練	園児 15・にこにこクラブ 19	34
	25(火)	交通安全教室	園児 15・交通指導隊	20
5	19(金)	保育参観	園児 15・保護者 13	29
	26(木)	さつま芋植え（世代間交流事業）3・4・5 歳児	森のおうち・市内各保育園・各町内寿壮会（老人クラブ）	15
6	3(土)	運動会	全園児・保護者その他地域の方	62
	13(火)	ピクニック	園児 13 ・職員	18
	17(土)	成章園地域交流会	園児（４・５歳児）10・職員	15

月	日(曜)	行 事 名	参 加 者	参加人数
	23(火)	歯科検診	全園児	12
7	15(金)	夕涼み会	全園児保護者･にこにこクラブ・ケアハウスその他地域の方	130
	27(木)	川遊び	年長児５職員・十二所保育園児・少年自然の家職員	25
8	4(金)	花輪市民プール	園児（５歳児)・職員	7
	5(土)	事業団夏祭り・年長児お泊まり保育	園児（５歳児）5・森ＯＢ2・職員	9
	18(金)	総合避難訓練	園児 12・にこにこクラブ 38	50
	23(水)	スイカ割り	園児 12･にこにこクラブ 38	50
9	13(水)	つくし苑敬老会お遊戯	園児（４・５歳児）	11
	29(金)	成章小ふれあい交流会	５歳児 5・十二所保育園・成章小	30
	30(土)	健康診断	５歳児を除く園児	10
10	1(日)	第 30 回ボランティアフェスティバル	園児（４・５歳児）	11
	2(月)	サッカー教室（十二所保育園合同)	園児（４・５歳児）	9
	5(木)	親子遠足	全園児・保護者・職員	35
	17(火)	さつま芋掘り（世代間交流事業）2・3・4・5 歳児	森のおうち・市内各保育園・各町内寿壮会（老人クラブ）	15
	31(月)	ハロウィンパーティー	園児 15･にこにこクラブ	57
11	2(木)	成章小体験入学	5 歳児 5・職員	6
	17(金)	親子虫歯予防教室	園児 15・保護者 14	29
	21(火)	デイサービス訪問	園児 15	15
12	8(金)	お楽しみ会	園児 15・保護者・祖父母・来賓	49
	14(水)	成章園訪問	全園児・成章園入居者の方	68
	18(月)	つくし苑訪問	全園児・つくし苑入居者の方	74
	20(水)	ケアハウス訪問	全園児・ケアハウス入居者の方	46
	25(月)	クリスマス会	全園児	15
1	11(水)	ＯＢ会（１年生と遊ぼう）	全園児・ＯＢ１年生	17
	23(木)	保育参観	全園児・保護者	29
2	1(木)	節分	全園児	15
	14(水)	Ｈ２９年度記念写真撮影	全園児、職員	19

月	日(曜)	行 事 名	参 加 者	参加人数
	17(土)	Ｈ３０年度入所児童健康診断	H30 年度入所児童 10	10
3	2(金)	ひな祭り会	全園児・祖父母	30
	9(金)	お別れ遠足	園児	15
	24(土)	卒園式	3. 4. 5歳児保護者･来賓	35

※ 毎月の行事 〈交通指導･避難訓練･身体計測〉 お誕生会(誕生日の子がいる月のみ)

※ 内科検診 年2回、歯科検診 年1回、虫歯予防教室 年1回

白抜 保護者参加行事

平成 29 年度　大館市へき地保育所　事業報告

へき地保育所は、大館市の地域の幼児教育施設として、住民から信頼され、地域に根ざした保育所としての役割を果たしてしており、これまで、保護者や地域住民の協力を得て、保育事業を行ってきた。

平成22年度から5年間の指定管理期間が終了し、平成27年度から新たに5年間の指定管理を受託している。平成29年度も、社会やご利用者のニーズに対応できる、質の高い保育を目指してきた。特に発達上課題が見られる幼児に対する配慮や、2才児保育への配慮などを重点課題として、保育士の確保に努めた他に保育補助員を配置しながら保育を進めてきた。

また、インターンシップの受け入れや地域の介護保険事業所への訪問、地域の行事への参加など地域とのふれあいの機会を大切にしてきた。

そして、3月の卒園式には5才児合計82名が卒園し、小学校入学に向けて夢と希望をもって巣立っていった。

最後に、今後も質の高い保育を提供できるよう、保育環境の整備、職員の研修の充実を図りながら保育業務を推進してまいることをお誓いし、事業報告とする。

平成 30 年 3 月 31 日

大 館 市 へ き 地 保 育 所
管 理 者　芳　賀　　利　彦

1.　平成 29 年度保育所児童数

平成 30 年 3 月 31 日現在

単位:名

No.	保　育　所　名	２歳児	３歳児	４歳児	５歳児	計
1	二井田保育所	3	5	9	13	304
2	真中保育所	2	3	3	5	13
3	下川沿保育所	8	4	10	14	36
4	沼館保育所	3	7	4	7	21
5	花岡保育所	4	7	5	10	26
6	矢立保育所	2	5	2	7	16
7	長木保育所	11	7	17	26	61
	合　　計	33	38	50	82	203

2.　平成 30 年度保育所児童数

平成 30 年 4 月 1 日現在

単位：名

No.	保　育　所　名	２歳児	３歳児	４歳児	５歳児	計	増減
1	二井田保育所	2	2	5	9	18	▲ 12
2	真中保育所	4	2	3	3	12	▲ 1
3	下川沿保育所	2	8	5	10	25	▲ 11
4	沼館保育所	7	6	7	4	24	3
5	花岡保育所	3	4	7	5	19	▲ 7
6	矢立保育所	1	2	5	2	10	▲ 6
7	長木保育所	7	20	10	16	53	▲ 8
	合　　計	26	44	42	49	161	
	増減	▲ 7	6	▲ 8	▲ 33	▲ 42	

平成 29 年度　年間事業報告（二井田保育所）

月	日	曜	行 事 名	参 加 人 数 ・ 内 容 等
4	5	水	入園式・保護者会総会	児童 27 名　保護者 40 名　来賓 2 名
	12	水	新入児歓迎会	児童 28 名　新入児を歓迎して手作りプレゼント
	24	月	鮭の稚魚放流	児童 30 名
	25	火	子どもの日祝会	児童 28 名　おやつに柏餅を食べる
5	10	水	交通安全教室（大館市交通指導隊）	児童 26 名　大館市交通指導隊 5 名　市担当者 1 名
	17	水	足型とり	児童 30 名
	21	日	保護者会主催保護者早朝草取り	保護者 31 名・保育士 2 名
	24	水	世代間交流事業さつま芋苗植え	年長児 13 名・保育士 3 名
	25	木	南中学生職場体験学習	南中生 2 名
	26	金	保育参観・フッ化物洗口説明会	児童 28 名・保護者名 29 名
6	4	日	地区運動会	大雨・低温の為保育所園児不参加
	6	火	南小学校保育所連絡協議会	教諭、保育士間で交流の年間計画確認・会場小学校
	13	火	フッ化物洗口巡回指導	年長児 13 名・保健師 2 名
	14	水	石田ローズガーデン見学・桂城公園	年長児 13 名・保育士 3 名
	14	水	歯科検診	児童 31 名・髙橋歯科医師・衛生士
	24	土	保育所運動会	児童 29 名・保護者祖父母他約 100 名・来賓 2 名
7	7	金	七夕集会	児童 31 名
	11	火	個人面談　11 日～21 日	保護者全員
	11	火	プール開き	児童 31 名
	19	水	交流保育・真中保育所とブルーベリー摘み	年長児 13 名・保育士 3 名・本宮ブルーベリー園
	24	月	歯みがき指導訪問	児童 28 名・南小・中学生 12 名・教諭 5 名・衛生士 1 名
	26	水	交流保育・真中保育所訪問（プール）	年長児 13 名・保育士 3 名
8	3	木	南小学校教諭保育体験・施設見学	南小学校教諭 2 名
	30	水	交流保育・真中保育所訪問（おばけやしき）	年長児 13 名・保育士 3 名
9	3	日	保護者会主催早朝草取り	保護者 26 名・保育士 2 名
	8	金	親子レクレーション	児童 26 名・保護者 32 名

月	日	曜	行 事 名	参 加 人 数 ・ 内 容 等
	14	木	りんごがり・真中保育所交流(矢立保育所)	年長児 12 名・保育士 3 人
	16	土	二井田地区敬老会参加	年長中児 22 名・保護者他 40 名・保育士 3 名
	26	火	健康診断	児童 18 名・梅内小児科クリニック医師・看護師
	28	木	北教育事務所 要請訪問	指導員 3 名・地域連携委員、公民館長富樫氏・南小学校長
10	6	金	世代間交流事業さつま芋ほり	年長児 13 名・保育士 3 名
	10	火	歩き遠足(地域めぐり)	児童 28 名・錦神社、郵便局見学、一関さんのお庭見学(隣)
	11	水	祖父母交流会・焼き芋会	児童 25 名・祖父母、保護者 25 名
	12	木	南小学校 学習発表会予行参観	年長児 13 名・保育士 2 名
	18	水	南小学校 就学時健診	年長児 12 名
	31	火	ハロウィン	児童 31 名 町内練り歩き(町内、郵便局、公民館)
11	1	水	親子虫歯予防指導	児童 25 名・保護者 25 名・髙橋歯科医師・衛生士・技工士
	5	日	二井田公民館文化祭	児童 31 名・保護者 55 名
	7	火	南小学校 1.2 年生とふれあい交流会	年長児 13 名・保育士 3 名
	13	月	祖父母交流会・おにぎり会	児童 30・祖父母、保護者 27 名
	15	水	七五三お祝い	児童 31 名
	21	火	総合防犯訓練	児童 31 名・警察署員 3 名
	21	火	総合防災避難消火訓練(引き渡し訓練)	児童 31 名・消防署員 3 名・保護者 31 名
	24	金	絵本読み聞かせ・南小学校 3 年生	児童 31 名・小学生 3 名・教職員 1 名
12	9	土	お遊戯会	児童 31 名・保護者 85 名・お客様 2 名
	19	火	親子クリスマス会	児童 31 名・保護者 28 名・少年自然の家から2名
1	26	金	南小学校体験入学	年長児 13 名
2	1	木	節分集会	児童 30 名・少年自然の家から 2 名
	7	水	保育参観	児童 30 名・保護者 30 名
	9	金	真中保育所交流(二井田保育所にて)	児童 13 名・真中保育所から年長児・雪遊び
	15	木	30年度健康診断・新入児面接・説明会	健康診断対象児 18 名・新入児保護者 2 名
	16	金	手形足型とり	児童 30 名
3	2	金	ひな祭り会・祖父母地域交流	児童 30 名・祖父母 30 名・地域老人会 10 名・公民館 1 名
	8	木	南小学校連絡協議会、引き継ぎ	教師、保育士間で交流について、次年度計画

月	日	曜	行 事 名	参 加 人 数 ・ 内 容 等
	9	金	年長児親子お楽しみ会	年長児親子 13 組･会食、ゲームなど
	14	水	卒園式予行練習	児童 30 名･祖父母 5 名
	17	土	卒園式	児童 30 名･保護者 40 名

毎月の行事　　・交通安全指導　・防災避難消火訓練　・防犯訓練　・身体測定　・誕生会

平成 29 年度　年間事業報告（真中保育所）

月	日	曜	行 事 名	参 加 人 数 ・ 内 容 等
4	5	水	入園式	児童12名　保護者14名 来賓4名
	14	金	新入児歓迎会	児童9名　新入児を歓迎し遊戯披露 手作りプレゼント
5	8	月	子どもの日祝会	児童13名　会食
	20	土	保育参観日	児童11名　保護者12名　参観　ふれあい遊び　制作
	25	木	南中生職場体験	児童12名　南中生1名　教諭1名訪問
	26	金	祖父母交流会	児童12名　祖父母11名 公民館2名 さつま芋・野菜の苗植え ひまわりの種植え　ふれあい遊び・会食
6	6	火	南小学校区連絡協議会	1 年生授業参観、情報交換、行事確認
	11	日	真中地区運動会	児童12名 保護者祖父母　地域住民
	14	水	歯科検診	児童13名　戸田歯科医による
	17	土	保育所運動会	児童13名　保護者祖父母　来賓2名
7	1	土	真中地区シルバー人材センター会員早朝作業奉仕	会員17名　草刈り草取り早朝作業奉仕
	3	月	個人面談（3 日～7日）	一人15分位で情報交換
	7	金	七夕集会	児童12名 七夕の由来のお話を聞く
	12	木	プール開き	児童9名
	13	金	南中 2 年生とふれあい交流	児童11名　南中生 27 名手作りおもちゃで交流
8	2	月	2～4日南小職員施設見学　プール参観日	児童 12 名教諭4名　3 日目児童 12 名教諭 3 名　保護者延べ 10 名
	23	木	生き生き学級生との交流会（音楽療法　公民館事業）	児童11名　生き生き学級会員12名 田口涼也先生
	28	月	歯みがき講習会	児童 12 名菅原歯科衛生士南小 3 名・南中生8名教諭 3 名
9	1	金	親子遠足　（能代エナジアムパークへ）	児童13名　保護者 13 名
	8	金	ひまわりの収穫	児童15名　公民館2名
	13	水	つくし苑敬老会でお遊戯披露	児童12名　つくし苑でお客様多数
	15	金	りんご狩り	児童12名　津軽収穫体験
	16	土	真中地区敬老会でお遊戯披露	児童17名　地域の方多数の前で披露
10	6	金	祖父母交流会（さつまいも掘り）	児童12名　祖父母10名　ふれあい遊び・会食も
	12	木	学習発表会予行参観（南小学校訪問）	児童12名
	12	木	親子歯科講習会　南中生紙芝居読み聞かせ（虫歯予防）	児童16名 13:00～14:00 保護者 8 名　菅原歯科衛生士による

	18	水	南小学校就学時健診	年長児5名
	19	木	歩き遠足	児童11 名　出川欅の丘
	31	火	ハロウィン練り歩き	児童13名　　公民館→お寺→保育所
11	7	火	南小 1･2 年生とふれあい交流会	年長児5名　南小でふれあい遊び
	9	木	総合避難訓練	児童12名　消防士による指導
	12	日	真中地区文化祭出演	児童13名　地区の方多数の前で披露
	15	水	七五三祝い会　防犯訓練	児童12名　警察官による指導
	30	金	交通安全教室	児童13名　警察官2名による
12	9	土	お遊戯会	児童13名　保護者･祖父母多数　来賓 3 名
	13	水	いきいき学級･地域の方にお遊戯披露	児童13名　生き生き学級会員、地域の方30名
	20	水	クリスマス会	児童13名　藤田先生によるマジックショー
1	16	火	お寺さん見学	児童13名　厳守院さんで見学
	25	木	かるた会	児童12名　クラスごとに競い合う
	26	火	南小体験入学	年長児5名　保護者5名　かるた　給食体験
	31	水	節分集会	児童16名　少年自然の家職員による
2	3	土	保育参観日	児童12名　ふれあい遊び　保育の様子DVD視聴　サンドイッチ作り
	9	木	いきいき学級生と交流会	児童12名　生き生き学級会員10名
	15	木	健康診断･面接･新入所児説明会	児童8名　新入予定児5名　佐々木小児科医師による
	21	水	卒園･修了記念写真	児童13名
3	2	金	ひな祭り会　生き生き学級生との交流会	児童12名　ケーキ会食　公民館でふれあい交流
	7	水	お別れ会	児童13名　お弁当会食
	17	土	卒園･修了式	児童13名　保護者　来賓3名

毎月の行事：・交通安全指導・避難訓練・防犯訓練・身体測定・誕生会

交 流 保 育：・7/19 ブルーベリー摘み（二井田保育所年長児と）・9/14 花岡・矢立保育所年長児りんご狩り

・8/9　二井田保育所年長児来園・10/20 年長児沼館保育所を訪問

・7/27 沼館保育所来園（年長児）9/12（全園児来園）

・1/18 全園児二井田保育所を訪問

その他行事：・歯科検診(6 月)　・健康診断(9 月・2 月)　・フッ素洗口指導(5 月・12 月)

・足型取り(5 月・2 月)　・北教育事務所所内支援（1/18）　・子ども課所内支援（6/28）

・保護者早朝作業奉仕（5/13、9/9 草取り・草刈り　7/8 プール掃除）

平成 29 年度　年間事業報告（下川沿保育所）

月	日	曜	行　事　名	参 加 者 （人数） ・ 内 容 等
4	5	水	入園式、進級式	児童32名　保護者39名　来賓5名
	26	水	でんしゃの旅	雨のため中止
	28	金	子どもの日祝う会	児童32名　弁当会食
5	9	火	じゃがいも種芋植え	児童32名　祖父母等13名
	16	火	下中生職場体験	下中1年生4名来所　各クラスで保育の手伝い、読み聞かせなど
	19	金	保育参観、講演会、PTA総会	児童33名　保護者34名　比内支援学校小笠原英紀専門監による子育て講話
	25	木	さつまいも苗植え	児童32名　祖父母等8名
6	2	金	親子バス遠足	児童31名　保護者30名　北欧の杜の予定だったが、雨のためシルバーエリア
	4	日	地区親睦運動会	3･4･5歳児20名　保護者30名　雨のため川口小体育館
	5	月	交通安全教室	児童29名　佐川急便に依頼（5名来所）
	7	水	歯科検診	児童33名　大館記念病院（水上歯科医師）
	8	木	祖父母草取り交流会	児童33名　祖父母26名　ロイヤル学級等9名
	14	水	5歳児保護者個人面談始まる	保護者の都合に合わせて実施
	16	金	沼館保育所との交流	沼館保育所から4･5歳児11名来所
	28	水	川口小4年生との交流会①	川口小4年生24名と一緒に七夕飾りつくり･飾り付け 小林地域連携委員
	30	金	子ども課訪問支援	日景保育指導員、北林教育アドバイザー来所　保育指導
7	7	金	七夕集会･川口小4年生と交流会②	児童31名　川口小4年生24名来所
	14	金	ブルーベリ狩り	3･4･5歳児24名　本宮ブルーベリー園
	19	水	PTA作業奉仕	保護者13名　園庭草取り･草
	21	金	下川沿地区合同避難訓練（防災訓練）	4･5歳児20名参加　川口小にて紙スリッパ作り、防災DVD視聴、引き渡し訓練
	28	金	夏祭り	児童31名　保護者･小･中学生と地域の方々等約100名　来賓2名
8	1	水	じゃがいも掘り	児童31名　祖父母等7名
	1～4	火～金	川口小4年生との交流③職場体験	4年生24名が4日間に分かれて来所　各クラスで保育手伝い
	8	火	デイサービスセンターえがお夏祭り	5歳児が招かれ、遊戯披露した後、出店で交流
	29	水	所内研修支援	北教育事務所浅野指導主事他3名による保育指導
	31	木	総合避難訓練	児童33名　田代分署から5名　地震→火災の想定で避難訓練･消火訓練

月	日	曜	行　事　名	参 加 者 （人数） ・ 内 容 等
9	12	火	健康診断	児童20名　梅内小児科クリニック医師
	14	木	地区敬老会	5歳児11名参加　遊戯を披露し、お祝い
	30	土	保育所運動会	児童33名　来賓3名　保護者・祖父母約100名　（川口小体育館）
10	10	火	なかよし遠足	バラ園、桂城公園へ　児童32名（2歳児は新道山）
	15	日	地区文化祭	3歳児～5歳児21名、絵画・遊戯で参加
	17	火	防犯パレード	5歳児12名　地域防犯協会等18名
	18	水	さつまいも掘り	児童33名　祖父母7名　公民館長
	20	金	親子ふれあい体操	児童9名　保護者10名　公民館講師派遣大沢睦子先生
	25	水	防犯訓練	児童33名　大館警察署3名来所
	31	火	焼いもパーティー	児童33名　丸岡公民館長と小林地域連携委員手伝い
11	1	水	川口小4年生との交流④	児童31名　4年生24名引率3名・校長先生来所
	7	火	沼館保育所との交流	5歳児12名　たしろ保育園バスで沼館保育所へ
	8	水	親子はみがき講習会	児童31名　保護者24名　大館記念病院（水上歯科医師）
12	2	土	発表会	児童35名　保護者約120名　来賓4名
	13	水	川口小4年生との交流⑤	児童33名川口小学校へ　ゲーム等で交流
	21	水	クリスマス会	児童35名　少年自然の家にサンタ依頼、ゲーム等
1	16	火	北教育事務所立入調査（監査）	北教育事務所（中嶋副主幹、佐藤指導員）　子ども課（日景補佐、浅利主査）来所
	25	木	保育参観日、クラス懇談	児童33名　保護者34名　講師浅利ゆみ先生
	27	土	下中・川口小除雪ボランティア	中学生30名、校長・教頭先生他4名　川口小9名、校長先生他2名　小林地域連携委員
2	1	木	H30度入所時健康診断・説明会	児童21名　新入園児5名と保護者　梅内小児科クリニック
	2	金	豆まき	児童34名　小林地域連携委員（鬼役）
	8	木	総合避難訓練(通報)	児童35名
	10	土	保護者除雪作業奉仕	保護者15名　小林地域連携委員
	15	木	お茶と和菓子の会（祖父母交流）	児童35名　祖父母27名　ロイヤル学級10名　保護者6名　小学校長　公民館長　小林地域連携委員
	20	火	川口小にこにこ交流会	5歳児13名参加　川口小にて一年生と交流
	22	木	卒園記念写真撮影	児童36名
	27	火	下川沿公民館お茶会に年長児参加	5歳児11名参加
3	2	金	ひな祭り会	児童35名
	7	水	お別れ会	児童36名　プレゼント交換等
	24	土	卒園式・修了式	児童36名　保護者43名　来賓5名

平成 29 年度　年間事業報告（沼館保育所）

月	日	曜	行 事 名	参 加 人 数 ・ 内 容 等
4	5	水	平成29年度入所式	参加人数：児童20名とその保護者、来賓
	28	金	子どもの日祝会	ゲームや会食で祝う
	10	水	ジャガ芋植え	児童・保育士で実施
	15~	月	個人面談開始	降所時間利用（26日迄）
5	18	木	なかよしお風呂(5歳児)	5歳児7名
	24~	水	東中生職場体験	東中生2人による体験学習(2日間)
	30	火	さつま芋苗植え・草取り（地域交流）	地域の老人会参加
	2	金	交通安全指導教室	大館市交通安全指導隊活用
	9	金	親子遠足	電車・貸切バス利用で北欧の杜へ
6	15	木	なかよしお風呂（3・4歳児）	沼館温泉で年長児9人が、入浴体験
	16	金	下川沿保育所交流会	沼館保育所⇒下川沿保育所
	21	水	歯科検診	児童のみで実施
	7	金	七夕集会（祖父母交流）	祖父母17人が、笹飾り作りやゲーム等で交流
	10	月	プール開き	
7	13	木	保育参観	水遊び用のおもちゃ作りなど
	16	日	沼館町内運動会参加	地域交流として参加（希望者19人の参加）
	27	木	真中保育所交流会(年長児)	真中保育所室内にて交流
8	5	土	夏祭り会	保護者・町内役員・東中生参加
	8	火	ジャガ芋掘り	農作業、収穫の喜びを体験
	24	木	事業団創立記念（そうめん流し）	地域交流
	26	土	防災総合避難訓練	
9	4~	月~	デイサービスセンター大滝慰問	4日～8日年長,年中慰問
	7	木	北教育事務所要請訪問指導	幼保指導主事・他による保育指導
	11	月	お神輿練り歩き	年齢に合わせ、距離をかえての町内練り歩き
	13	水	りんご狩り	真中でリンゴ狩り
	14	木	歩き遠足	釈迦内公民館へ
	29	金	児童健康診断	年中・少・未満児受診
10	7	土	運動会	雨天の為、釈迦に公民館で実施
	13	金	さつま芋掘り・東中生作業奉仕	窓拭き作業後芋掘りの手伝い
	17	火	総合避難訓練	消防署員指導
	20	金	第1回法人合同避難訓練	つくし苑合同訓練
	29	日	地域合同避難訓練	保育所、沼館多目的広場にて実施
11	1	水	焼き芋会（祖父母交流）	焼き芋、ゲーム等で交流を楽しむ

月	日	曜	行 事 名	参 加 人 数 ・ 内 容 等
12	7	火	下川沿保育所交流会	下川沿保育所⇒沼館保育所
	8	水	保育参観・歯科講習	
	11	土	釈迦内公民館文化祭	遊戯参加
	2	土	遊戯会	
	20	水	クリスマス会	少年自然の家職員派遣
1	15	月	個人面談	4・5歳児～
	16	火	保育施設立ち入り調査	北教育事務所より調査
	17	水	子ども課保育所訪問指導	子ども課日景指導員他2名訪問
	25	木	H30.入所児健康診断・入所説明会	24人受診、新入児10人
	31	水	豆まき	少年自然の家職員派遣
2	20	火	お別れ会（お店屋さんごっこ）	
	22	木	修了記念写真撮影	
	27	火	総合通報避難訓練	
3	2	金	雛祭りお茶会（祖父母交流）	
	24	土	修了式	

・毎月の行事：交通指導・身体測定・避難訓練・防災訓練・誕生会

平成 29 年度　年間事業報告（花岡保育所）

月	日	曜	行 事 名	参 加 人 数 ・ 内 容 等
4	5	水	入所式・進級式・保護者会総会	児童 25 名、保護者 21 組
	6	木	大館警察署交通安全パレード	5 歳児 10 名、引率 2 名（事業団バスにて）
	26	水	絵本読み聞かせ矢立保育所交流	花矢図書館と花岡保育所で年長児交流
			保小連絡協議会	花小職員 10 名、保育所 2 名、H29 年度計画検討（花小にて）
5	14	日	花岡小学校運動会参加	5 歳児 10 名参加、保護者付き添い、引率 2 名
	18	木	さつま芋の苗植え	5 歳児植える、JA より苗寄贈
	24	水	保育参観・子育て講座	講師　田口諒也氏による音楽遊び、保護者 20 組参加
	30	火	地域交流（誕生会・じゃが芋苗植え）	地域の方 2 名と誕生児の家族参加 他の野菜苗は適時児童と職員が植える
	31	水	チャレンジデー	全員で体操・ダンス・散歩など
6	6	火	保護者草取り奉仕開始 1 回目	園舎の周囲、保護者の都合のつく時間で
	7	水	歯科検診	児童 22 名（欠席時 3 名は後日他施設で）、こう歯科医師、衛生士 1
	14	水	神山荘シルバーオリンピック参加	3～5 歳児 22 名参加、遊戯・玉入れ・遊競技参加
	23	金	親子バス遠足	児童 23 名、保護者 19 組、職員 5 名、阿仁くまくま園
	28	月	交通安全教室	児童 22 名参加、大館警察署から 3 名（うち 1 名ロック君）
	30	金	保小七夕交流 1 回目	児童 23 名、花岡小学校 5 年生 18 名、教師 1 名
7	4	火	保小七夕交流 2 回目	児童 23 名、花岡小学校 5 年生 18 名、教師 1 名、民生委員 1 名、笹飾りを一緒に飾り付ける・ブラックシアター・おやつ
	5	水	年長児神山荘交流	笹飾りを届け交流
	6	木	年長児地域交流	大森商店と地域包括センターに笹飾りを届け交流
	7	金	グループホーム神山荘交流（全員）	笹飾りを届け交流
	14	金	夕涼み会	児童 25 名と家族、地域の方々、昨年度卒園児、子どもハローワーク 9 名（中学生 4 名、小学生 5 名）110 名　出店や手作りおもちゃを楽しむ
	21	金	年長児ブルーベリー摘み取り	5 歳児 10 名、引率 2 名、本宮ブルーベリー苑（事業団レンタルバス）、桂城公園で弁当、遊んで帰る
8	4	金	子どもハローワーク	花岡小学校 5 年生 3 名、鳥潟会館散歩（セミの抜け殻探し）
	21	月	子どもハローワーク	花岡小学校 5 年生 2 名
	23	水	花岡小学校職員保育参観 北教育事務所要請訪問・ミニ公開	花小職員 13 名、浅野指導主事、佐藤幼保指導員、日景指導員、石川・北林アドバイザー、第三者評価委員予定者 4 名、助言指導

月	日	曜	行 事 名	参 加 人 数 ・ 内 容 等
	25	金	総合避難訓練	児童 20 名、消防北分署署員 2 名、避難・煙体験・ビデオ
	30	水	保護者草取り奉仕 2 回目	園舎の周囲、保護者の都合のつく時間で
9	2	土	敬老会	5 歳児 10 名、引率 2 名、遊戯と歌でお祝い（公民館にて）
	5	火	国際情報中学校体験学習（～6 日）	1 年生 4 名、保育士体験
	11	月	年長児りんご狩り	5 歳児 10 名、引率 2 名、赤石富樫りんご園、真中グラウンドや遊具で遊ぶ、田代バス、11:30 保育所到着
	12	火	運動会予行練習	保護者役員お手伝い
	16	土	運動会	児童 25 名、保護者と祖父母 85 名、地域の方 4 名、来賓 3 名、北陽中学生子どもハローワーク 2 名
	20	水	保小交流、花岡小学校発表会予行見学	児童 21 名、引率 5 名、小学校へ
	27	水	児童健康診断	2・3・4 歳児 15 名全員+他施設から 2 名、石田内科
10	2	月	小学生保育所職場体験	花岡小学校 5 年生 5 名来所、ほぼ一日、主に戸外遊び
	4	水	秋の遠足	福祉エリアへ 26 名全員、バス
	6	金	さつま芋掘り地域交流	児童 26 名と地域の方 4 名
	11	水	花岡小学校就学時健診	年長児 10 名全員
	16	月	個人面談開始	保護者の希望日に合わせ全員行う
11	5	日	地区文化祭	4・5 歳児参加（遊戯・歌・スコップ三味線とのコラボ）
	13	月	小学生との交流	花岡小学校 2 年生 12 名来所、手作りおもちゃお店屋さん
	15	水	虫歯予防指導	26 名中 2 名欠席、保護者 20 名、こう歯科
	17	金	防犯教室	児童 22 名、大館警察署から 3 名、地元駐在所から 1 名
	22	水	りんご狩り	児童 25 名、地元の方から毎年招待、5 個ずつもらう
12	9	土	遊戯会	児童 26 名、来賓、保護者家族 70 名
	15	金	祖父母交流	児童 26 名、祖父母 23 名、昔遊び
	21	木	クリスマス会・地域交流	児童 26 名、少年自然の家職員、サンドイッチ会食
1	18	木	所内研修	1 年間の反省（職員）
	23	火	保育所小学校カルタ大会	5 歳児 10 名、引率 2 名、鳥潟会館
	24	水	平成 30 年度健康診断・面接・説明会	対象児童 19 名（全員）健診
	25	木	保育参観日	児童 25 名、保護者 27 組、比内支援学校畠山佳子先生の運動と講話
	31	水	豆まき	児童 26 名
2	7	水	花岡小学校一日体験入学	5 歳児 10 名、引率 1 名
	16	金	卒園記念写真撮影	児童 26 名

月	日	曜	行 事 名	参 加 人 数 ・ 内 容 等
3	1	水	ひなまつりお茶会	児童 25 名、地域の方 4 名、お茶の先生 2 名、保護者有志
	9	金	お別れ会	児童 26 名
	24	土	卒園修了式	児童 26 名、来賓 6 名、保護者祖父母 40 名

毎月の行事　・身体測定・交通指導・避難訓練・防犯訓練・誕生会・絵本読み聞かせ（小学校、矢立保育所との交流の月もある）

平成 29 年度　年間事業報告（矢立保育所）

月	日	曜	行 事 名	参 加 人 数 ・ 内 容 等
4	5	水	入所式・進級式　保護者会	児童 14名　保護者15 名　来賓4名
	26	水	花岡保育所との交流 （絵本読み聞かせ）	5 歳児6名 保育士2名　往復路線バス利用
5	10	水	矢立小学校避難訓練に参加	児童 14 名
	16	火	地区祭典(神社参拝)	児童 13 名が参拝　お菓子をいただく
	18	木	じゃがいも・夏野菜植え	児童 13名
	19～6/5		個人面談	児童 14 名
	24	木	さつまいもの苗植え	児童 14 名
	26	金	保育参観　交通安全教室	児童14名　保護者 12名 釈迦内交番 交通指導隊 5 名
	30	火	歯科検診	児童 14 名　神成歯科医院 2 名
6	9	金	親子バス遠足（花輪アルパス）	児童 14 名 保護者 13 名
	29	木	矢立小学校 2・3 年との交流	児童 13 名　小学 2.3 年生 11 名　教諭 1 名
7	15	土	夕涼み会	児童 15名　来賓 5 名　北陽中生ボランティア8名 矢立育成園・センター24名　保護者・地域の方多数
	26 日～8/4		小学校のプール利用（4・5 歳児）	児童 9 名
	31	月	ブルーベリー狩り	児童 14 名　保育士 3 名
8	4	金	プール参観日 （4・5 歳児は小学校プール）	保護者 5 名
	7	月	要請訪問	児童 11名　浅野指導主事　日景指導員 アドバイザー2 名　地域連携委員他3名
	22	火	じゃがいも掘り	児童11名
9	5	火	健康診断	2～4 歳児 8 名　梅内小児科
	6	水	大根種まき	児童13名
	14	木	りんご狩り（花岡保育所との交流） （真中保育所との交流）	5 歳児5名 保育士 1 名　りんご狩り後、真中保育所で交流 二井田保育所と合同でたしろ保育園のバス利用
	17	日	矢立地区敬老会参加	3～5 歳児 13 名　保育士 3 名
	30	土	運動会（矢立小グラウンドにて）	児童 15 名 保育士 3 名 保育補助2名　来賓5名 保護者・地域の方多数　きらきらクラブの小学生9名と指導員 1 名
10	5	木	秋の遠足（清水町公園）	児童15名 保育士 3 名　補助 1 名 行きは電車、帰りはバス利用
	16	月	所内支援　小学校のキウイ収穫	児童13名 日景指導員　石川・北林アドバイザー

月	日	曜	行 事 名	参 加 人 数 ・ 内 容 等
	17	火	さつまいも掘り	児童 15 名
	25	水	焼きいも会	児童 16 名
	31	火	就学時健診	5 歳児7名
11	2	木	小学 2 年生と交流（職場見学）	児童 15 名　小学生 3 名　教諭 1 名
	5	日	矢立公民館祭り	3～5 歳児 13 名　保護者 11 名
	9	木	小学 2 年生と交流（職場体験）	児童 16 名　小学生 3 名　教諭 1 名
	14	火	矢立育成園にて交流 （秋田犬と触れ合い、遊戯など披露）	児童 15 名　保育士 3 名
	18	土	餅つき会(公民館子育て支援) ※手品あり	児童 16名　保育士 3 名　公民館長・主事 婦人会のお手伝い 3 名　保護者多数　講師…田山さん
	20	月	小学 1 年生との交流	児童 16 名　小学 1 年生 6 名　教諭 1 名
	30	木	親子歯磨き講習会	児童 16 名　保護者 13 名神成歯科 2 名
12	2	土	おゆうぎ会	児童 16 名 保護者多数　来賓6名　育成園 12 名
	6	水	防犯訓練	児童 14 名　大館警察署の方3名
	13	水	花岡保育所との交流 （絵本読み聞かせ）	児童 16 名　保育士 3 名　往復たしろ保育園のバス利用
	15	金	法人合同避難訓練	児童 15 名　事業団から 8 名
	18	月	デイサービス慰問（花）	児童 15 名　職員 3 名
	21	木	クリスマス会	児童 16 名　少年自然の家の方 2 名
	15～27		個人面談	5 歳児7名
1	9～12		個人面談	4 歳児 2 名
	26	金	保育参観	児童 16 名　保護者 13 名
2	2	金	豆まき	児童 14名　育成園の方 3 名
	7	水	平成 30 年度入所児健康診断	2～4 歳児 8 名　入所児 2 名　梅内小児科
	9	金	1 日体験入学	5 歳児 7 名　職員 1 名　保護者 4 名
	13	火	保育を参観（お店屋さんごっこ）	児童 16 名　地域でお世話になっている方 5 名
	22	木	引き渡し訓練	児童 16 名
	27	火	祖父母交流お茶会	児童 15 名　祖父母 14 名　お手伝いの保護者4名
3	2	金	ひな祭り会	児童 16名
	8	木	お別れ遠足	5 歳児 7 名　保育士 2 名
	13	火	お別れ会・誕生会	児童 16名
	24	土	卒園式・修了式	卒園児7名　修了児9名　保護者多数　来賓 5 名

・毎月の行事　避難消火訓練、防犯訓練、交通指導、身体測定、お誕生会

平成 29 年度　年間事業報告（長木保育所）

月	日	曜	行　事　名	参 加 人 数 ・ 内 容 等
4	6	木	平成 29 年度入所式	児童 60 名・保護者・来賓/欠席 1 名
	23	日	水交苑お花見会	年長組 24 名欠席 1 名・保護者/歌遊戯披露
5	2	火	子どもの日祝い会	全児童 55 名（欠 6）/制作したこいのぼりの紹介、歌、お話
	9	火	保育見学・指導	比内支援学校　畠山佳子先生/保育見学・指導
	18	木	じゃが芋種芋植え	3.4.5 歳児 46 名・祖父母 17 名/祖父母手伝い・2 歳応援
	24	水	さつま芋苗植え・祖父母交流会	3.4.5 歳児 46 名・祖父母 15 名/苗植え後、祖父母と交流遊び
	29	月	年長組個人面談(～6/9)	保護者の希望で実施
			保育参観日・交通安全教室	児童 58 名・保護者・佐川急便/佐川急便による交通安全教室を実施
	31	水	チャレンジディ in 大館に参加	児童 58 名参加（欠席 3）/樹海ドームで運動遊びに挑戦
6	6	火	歯科検診	全児童 61 名/嘱託医…市立病院歯科医師
	9	金	水交苑草取りボランティア	水交苑職員 15 名/園庭草取り・草刈り作業
	11	日	長木地区運動会	児童・保護者/親子競技・フォークダンス参加
	19	月	4 歳児個人面談（～6/30）	保護者の希望で実施
	22	木	保育見学・指導	比内支援学校　畠山佳子先生/保育見学・指導
	23	金	親子バス遠足（親の会主催）	全児童 61 名・保護者/場所…鹿角スポーツセンターアルパス
7	4	火	交通安全運動参加（メッセージ読み上げ）	年長児 25 名欠席 1 名/警察の制服でメッセージ読み上げ
	7	金	七夕集会	児童 58 名欠席 3 名/七夕飾り・願い事の紹介・写真撮影
	10	月	保護者草取り奉仕（～20）	保護者/園庭草取り・草刈り作業
	19	水	保育見学（年長組）	教育アドバイザー仲谷先生/就学に向け年中組見学
	21	金	夕涼み会（親の会主催）	全児童・保護者・卒所児・他、総勢 300 名/各出店 18 時～20 時実施
			ねんりんピック 50 日前イベント	全児童 61 名参加/はちくんダンス
	25	火	公民館夏のお楽しみ会参加	4・5 歳児 42 名　欠席 1/公民館で流しそうめん体験・他
	28	金	年長児お泊り保育（場所…大館少年自然の家）	5 歳児 26 名/～29 日（土）午前 11 時解散
	31	月	2・3 歳児個人面談（～8/4）	保護者の希望で実施
			自由保育参観の週（8/4）	保護者参加/プールや生活の様子など参観自由。
8	5	火	自由保育参観の週（～8 日）	保護者参加。参観自由。
	2	火	じゃがいも掘り	3・4・5 歳児 43 名欠席 3・祖父母 11 名/祖父母手伝い

月	日	曜	行　事　名	参 加 人 数 ・ 内 容 等
	8	火	消防査察	消防署員/消防設備点検・確認
	9	火	総合避難訓練（地震・火災）	全児童 48 名（欠 13）・消防士 3 名/煙体験・水消火器体験
	18	金	所内研究訪問指導	北教育事務所浅野先生/ビデオカンファレンスの方向性
	24	木	長木公民館高齢者学級交流会	児童 53 名/公民館の高齢者とふれあい交流。
9	16	土	運動会	児童 59 名（欠 2）・保護者・来賓/長木小グランド使用。
	20	水	健康診断	2・3・4 歳児 31 名（欠 4）/脊柱運動機能検査含む
	24	日	長木地区敬老会参加	5 歳児 25 名/歌・遊戯披露。
	25	月	水交苑ディサービスのぎく慰問	4 歳児 16 名欠席 1/歌・遊戯披露・プレゼントを渡す。
	26	火	所内研究訪問指導	子ども課日景課長補佐、教育アドバイザー/研究指導
10	6	金	歩き遠足（天下町児童館・ドーム）	全児童 56 名（欠 5）/遊具等で児童館と交流。
	12	木	保・小交流会	5 歳児 24 名（欠 2）/ドーム広場で交流し、一緒に楽しむ。
	15	日	長木地区公民館祭	5 歳児 25 名（欠 1）/遊戯披露
	20	月	さつまいも掘り・祖父母交流会	全児童 75 名（欠 9）・祖父母 17 名/収穫後一緒に遊ぶ。
	19	木	やきいも会	全児童 58 名（欠 3）/収穫したさつま芋を焼いて食す。
	26	木	北教育事務所要請訪問	北教育事務所浅野先生他/ビデオカンファレンスの方向性
	27	金	防犯実施訓練・防犯教室	児童 56 名（欠 5）/大館・御成町警察官・サポーターによる訓練
	31	火	ハロウィンごっこ	児童 59 名（欠 2）/地域内各事業所で披露
11	6	月	親子歯科講習会	児童 56 名（欠 5）・保護者/歯磨き講習：市立病院歯科医師
	8	水	保育協議	比内支援学校　畠山佳子先生/保育協議
12	9	土	発表会	児童 58 名(欠 3)・保護者・来賓 5/歌、遊戯、劇、他披露
	22	金	クリスマス会	児童 56 名（欠 5）/少年自然の家職員のサンタとゲーム
	29	金	年末年始休み	
1	18	木	北教育事務所指導調査	北教育事務所監査員 2 名/書類他監査
	19	金	保育参観日	児童 54 名（欠 7）・保護者/畠山佳子先生親子ふれあい遊び・講話。
	22	月	5歳児個人面談（～2/2）	保護者の希望で実施
	24	水	所内研究支援（参観・協議）	児童 53 名（欠 8）・子ども課石川補佐・日景指導員
	31	水	平成 30 年度入所児童健康診断・面接	平成 30 年度入所児童 52 名・保護者/健康診断・面接
2	2	金	豆まき会（鬼役…少年自然の家職員）	児童 57 名（欠 4）/豆まき・ゲーム・体操
	8	木	卒園記念写真撮影	児童 59 名（欠席 2）
	20	水	保・長木小交流会	年長組 19 名/新 1 年生交流会

月	日	曜	行　事　名	参 加 人 数 ・ 内 容 等
	24	火	卒園記念写真撮影	全児童 82 名
	23	金	総合避難訓練（通報訓練）	児童 56 名(欠 5)/避難誘導と通報の訓練をする。
３	2	金	ひな祭り会	児童 55 名（欠 5）/歌、お話し、他
	3	土	平成 30 年度入所説明会	入所児童保護者 19 名/保育所の方針・持ち物等について
	8	木	保・長木小交流会	年長組 26 名/新 1 年生交流会
	9	金	災害引き渡し訓練	児童 55 名（欠席 5）/降所時に用紙に記入。
	16	金	お別れ会	児童 51 名（欠 9）/親の会お弁当会食・プレゼント交換
	24	土	卒園式・修了式	児童 59 名（欠 1）/保育証書授与、他

毎月の行事：誕生会、交通安全指導、避難訓練、防犯訓練、シーツ洗濯、布団・内ズック持ち帰り、絵本配布、絵本代集金